

ESG経営



2018年度活動報告

重点テーマ・・・18年度の重点テーマ



CSR全般

- ▶ ESG経営・重点テーマ
- ▶ ビジネスと人権
- ▶ ステークホルダーエンゲージメント
- ▶ 社会貢献活動



食の創造によるソリューション

- ▶ 植物性素材の活用による食資源不足へのソリューション提供 **重点テーマ**
- ▶ おいしい食素材で健康寿命に貢献 **重点テーマ**
- ▶ Plant - Based Food Solutionを支える研究開発

食の安全・安心・品質



- ▶ 食の安全と品質の徹底 **重点テーマ**

サステナブル調達



- ▶ 人権・環境に配慮した主原料調達 **重点テーマ**
 - パーム油
 - カカオ
 - 大豆
 - シアナッツ

環境



- ▶ 環境マネジメント
- ▶ CO₂の排出削減 **重点テーマ**
- ▶ 水使用量の削減 **重点テーマ**
- ▶ 廃棄物の削減 **重点テーマ**
- ▶ 包装材の削減
- ▶ 生物多様性

人づくり



- ▶ 人材育成 **重点テーマ**
- ▶ ダイバーシティの実現 **重点テーマ**



健康経営

- ▶ 労働安全衛生の推進 **重点テーマ**
- ▶ 従業員の健康維持・促進 **重点テーマ**



リスクマネジメント

- ▶ 実効性のあるリスクマネジメント **重点テーマ**
- ▶ 原材料の安定調達 **重点テーマ**
- ▶ コンプライアンス意識の浸透 **重点テーマ**
- ▶ 企業統治体制の構築 **重点テーマ**

2019年度の重要トピックス

ステークホルダーの皆様にとって重要な事項について、直近（2019年度）の情報を掲載しています。

- ▶ 「2019年度の重要トピックス」PDF (622KB) 

編集方針

統合報告書とサステナビリティレポート

不二製油グループは、社会の一員として、ステークホルダーとの対話に基づき、事業活動を通して当社グループの継続的な企業価値向上と社会の持続可能な発展に貢献することを目指すESG経営を進めています。ステークホルダーとのコミュニケーションツールとして、「統合報告書」と「サステナビリティレポート」を発行しています。

「統合報告書」は、当社グループの事業全体像および中長期的な企業価値をお伝えし、ステークホルダーの皆様との対話においてご意見を賜ることで、さらなる経営の進展を図ることを目的としています。

「サステナビリティレポート」は、サステナビリティを目指すうえでの社会に与え得る影響に対する考え方や取り組みを、広範なステークホルダーの皆様に対して網羅的かつ誠実に報告することを目的としています。

サステナビリティレポート編集方針

主な報告内容

「サステナビリティレポート2019」においては、特に貢献すべき課題として選定した「2018年度 ESG経営・重点テーマ」を中心に、持続可能な社会を実現するために貢献が期待されるテーマについて、考え方や取り組みの進捗をご紹介します。

報告対象範囲

不二製油グループ

報告対象期間

- ESG経営
2019年6月時点の情報に基づき掲載しています。
- 2018年度活動報告
不二製油グループ本社および日本のグループ会社は2018年4月1日～2019年3月31日、海外グループ会社は2018年1月1日～12月31日の実績です。
- 2019年度の重要トピックス
ステークホルダーの皆様にとって重要な事項について、直近（2019年度）の情報を掲載しています。

会社名の表記について

本レポートにおける会社名の表記は以下の通りです。

不二製油グループ本社、当社…不二製油グループ本社株式会社（持株会社）

不二製油（株）…不二製油株式会社（日本の統括会社）

不二製油グループ、当社グループ…不二製油グループ本社を含む国内外のグループ会社の総称

参考にしたガイドライン

GRI Standard

発行時期

2019年7月（日本語版）

2019年9月（英語、中国語版）

サステナビリティ

C"ESG"Oメッセージ

植物性食品素材を通じた社会課題解決（Plant-Based Food Solutions）を推進し、社会の一員として持続可能な社会の発展に貢献することは、不二製油グループの「人のために働く」という価値観の実践そのものです。当社グループは、本業を通して社会課題解決に貢献することで、SDGsの目指す「持続可能な社会の実現」に私たちの責任を果たしてまいります。

2015年、国連においてSDGsやパリ協定が採択されたことを機に、環境や人権といった観点から誰も置き去りにすることなく発展を目指す「持続可能な社会」の構築に向けた国際社会の方向性が明確になりました。その中で当社グループが必要とされ続ける会社であるためには、従来の技術・財務的側面のみならず、サステナビリティの側面から経営を推進することが必要です。2019年4月より新たに設置した「最高ESG経営責任者（C"ESG"O）」という役職は、サステナビリティの観点から経営を進め、当社グループにおいてESG経営の推進力としての役割を担います。

ESG経営を推進する上で、特に取り組むべきテーマを「ESG経営・重点テーマ」として定めています。この重点テーマは、ステークホルダーの期待および当社事業との関連性に基づいて、取締役会直属の諮問機関であるESG委員会において審議し、選定されています。サステナビリティレポート2019では、2018年度に選定した重点テーマに関する活動状況を中心にご報告しています。

2018年度、社会に対するインパクトが大きい活動の代表例は、「環境ビジョン2030」の策定と「グリーンバンス（苦情処理）メカニズム」の運営開始です。「環境ビジョン2030」は、パリ協定の目標達成に貢献するために、Science-Based Targetの考え方に基づいて策定いたしました。また、「グリーンバンスメカニズム」は、当社の主原料の一つであり生産現場での環境・人権問題が懸念されるパーム油について、2016年に策定した「責任あるパーム油調達方針」を実現するために、日本産業界において先駆的に導入した仕組みです。それぞれの活動については、以下のURLをご覧ください。

- ▶ 環境マネジメント
- ▶ サステナブル調達

ESG経営において、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションはその基盤であり、ドライバーです。誠実かつ透明性をもって対話に努めることが、当社の学びと活動推進および社会への知恵の共有につながると考えています。本サステナビリティレポート2019が、ステークホルダーの皆様とのよきコミュニケーションのツールとなれば幸いです。

不二製油グループ本社株式会社
最高“ESG経営”責任者 (C"ESG"O)

門田隆司

サステナビリティ

ESG経営とCSR

CONTENTS LIST

- ④ CSR (Corporate Social Responsibility) の考え方 ④ CSR活動4つのカテゴリー
- ④ 不二製油グループのESG経営
- ④ ESG経営推進の仕組み
 - 推進体制
 - ESG経営とESG委員会
 - 従業員への教育・啓発活動

CSR (Corporate Social Responsibility) の考え方

不二製油グループは、CSRを果たすことは経営そのものであると考えています。当社グループのCSRの基本的考え方は、不二製油グループ憲法においてミッションとして掲げる「私たち不二製油グループは、食の素材の可能性を追求し、食の喜びと健康に貢献します。」を実現し続けることです。企業は社会的存在であることを認識し、ステークホルダーの期待や懸念の把握に努め、事業活動を通じて社会の持続可能な発展に貢献することがCSRであると考えています。

CSR活動4つのカテゴリー

不二製油グループは、CSR活動を下記4つのカテゴリーに分類し、それぞれの活動指針を定めています。

カテゴリー	活動指針
1.戦略的活動	事業・製品を通じて社会課題の解決に寄与する
2.基本的活動	事業プロセスにおいて社会に及ぼし得る負の影響を低減・是正する
3.社会貢献活動	良き企業市民として、地域社会の発展に貢献する

カテゴリー	活動指針
4.ステークホルダーとのコミュニケーション	透明性を高め、ステークホルダーに対し誠実にコミュニケーションを行う

不二製油グループのESG経営

不二製油グループは、「不二製油グループ憲法」に基づき、事業を通じた社会課題解決（Plant-Based Food Solutions）によって、持続的な当社グループの成長と持続可能な社会の実現の両方を追求する「ESG経営」を推進しています。

「不二製油グループ憲法」とは、当社グループのミッション（私たちの使命）、ビジョン（私たちの目指す姿）、バリュー（私たちが行動する上で基本となる価値観）、プリンシプル（私たちの行動原則）を表明し、グループ全従業員と経営者が従うべき行動の原理原則を示したものです。その中で「バリュー」に掲げる「人のために働く」という言葉に象徴されるように、当社グループは社会の一員として、社会から必要とされる会社であるように事業活動を展開することが、当社グループ憲法の中核的な考え方です。

「Plant-Based Food Solutions（PBFS）」は、事業活動を通して社会に提供する価値を表す言葉です。私たちは、単なるモノづくり（製品の提供）ではなく、植物性の食素材によって社会課題を解決することを追求していくという意味を表明しています。

このPBFSを実現するための具体的なテーマとして、「CSR重点領域・重点テーマ」および「中期経営計画 Towards a Further Leap 2020」を策定しています。



ESG経営推進の仕組み

推進体制

「CSRは経営そのもの」という考えに基づき、グループ全体でESG経営を推進しています。ESG経営を強化するために、2019年4月より、不二製油グループ本社に最高ESG経営責任者（C"ESG"O）を設置しました。C"ESG"Oは、「持続的な企業価値向上」と「社会の持続可能な発展」との両立を図るため、取締役会と連携しながらESG経営を統括し、ステークホルダーの期待に応える役割を担います。ESG経営推進の専任部門として、C"ESG"OのもとにESG経営グループを設置しています。社会とのコミュニケーションを通してステークホルダーの期待や懸念を把握し、当社グループにおいてCSRを推進するコーディネーターの役割を担います。

ESG経営とESG委員会

ESG経営を強化する目的で、不二製油グループ本社取締役会の諮問機関として「ESG委員会」を設置しています。ESG委員会は、年2回以上開催し、不二製油グループがCSRを果たし続けるための課題や戦略の審議やCSR重点テーマの進捗状況のレビューを行います。同委員会には社外の有識者をアドバイザーとしてお招きし、社会の視点を取り入れるようにしています。その結果については、同委員会の開催都度、取締役会に対して報告し、取締役会のレビューを受けています。C"ESG"Oが同委員会の委員長を担っています。



従業員への教育・啓発活動

従業員一人ひとりが業務を通じてCSRを実践するため、不二製油グループ従業員に対して教育・啓発活動を進め、当社グループのCSRの考え方や活動、および社会が当社グループに期待することを伝えています。社内報（日本語・英語）でのCSRに関する連載や、国内グループ会社部門研修での「ESG経営とSDGsの理解」の必須テーマ化、海外グループ会社における「グループ憲法とESG経営」の説明活動等を通して、ESG経営とSDGsに関しての社内理解の向上を図っています。

サステナビリティ

CSR全般

2018年度活動報告

ESG経営・重点テーマ

コンテンツ

事業を通じて社会に貢献するためのESG経営・重点テーマ

[詳しく見る](#) →

ビジネスと人権

コンテンツ

考え方／推進体制／教育・啓発活動／人権デュー・ディリジェンス／苦情処理メカニズム

[詳しく見る](#) →

ステークホルダーエンゲージメント

コンテンツ

考え方／不二製油グループのステークホルダー／ステークホルダーとの対話によりCSR推進を加速／外部イニシアチブへの参画／社会からの評価

[詳しく見る](#) →

社会貢献活動

コンテンツ

考え方／食育プロジェクト／「SDGs for School」の高校生向け出前授業にて教材用チョコレートを提供／阪南の森プロジェクト／不二たん白質研究振興財団

[詳しく見る](#) →

サステナビリティ

ESG経営・重点テーマ

CONTENTS LIST

④ 事業を通じて社会に貢献するためのESG経営・重点テーマ

- 考え方
- 2018年度重点テーマ 特定プロセス
- 2018年度ESG経営・重点テーマ

事業を通じて社会に貢献するためのESG経営・重点テーマ

考え方

不二製油グループは、事業活動を通じて、「社会の持続可能な発展への貢献」と「自社の持続的な成長・社会への価値創造」をともに実現するために、「ESG経営・重点テーマ」を定めています。

2018年度 ESG経営・重点テーマ 特定プロセス

ステップ

活動

1. 社会課題の特定

SDGs *1をはじめとするCSRに関する国際的ガイドライン・ベンチマークをもとに、有識者（NGO）のアドバイスを受け、社会課題を一覧化

*1 国連SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）：2015年に国連総会で採択された、2030年までに地球規模で達成すべき17の目標。

社会課題を以下の2種類に分類

A

A. 製品を通じて解決に貢献する社会課題
（CSRカテゴリー：戦略的活動）

B

B. 事業プロセスを通じて解決に貢献する社会課題（CSRカテゴリー：基本的活動）

2. 優先順位づけ・
妥当性確認

不二製油グループの強み（技術力など）を
発揮して貢献できる社会課題を検討・特定

マテリアリティマップ*2を作成し、社会課題を相対的に評価。

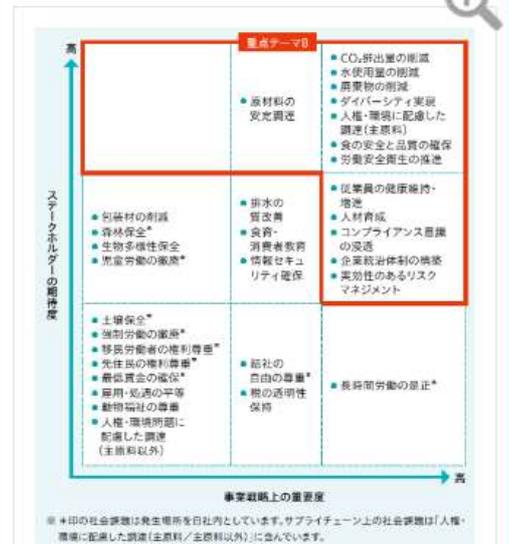
*2マテリアリティマップ

縦軸：ステークホルダーの期待度

（国際的ガイドライン、ベンチマークなどを参考に、有識者（NGO）の助言を得て特定）

横軸：事業戦略上の重要度

（経営の考え方や事業戦略の観点で特定）



上記の評価・検討結果について、社外有識者1名を含むESG委員会で、過不足がないかを検討・修正

3. 承認

ESG委員会から当社取締役会に対して具申し、最終承認。

2018年度、不二製油グループは7つの重点領域・15のESG経営・重点テーマを特定しました。それぞれのESG経営・重点テーマに対する考え方・目標・2018年度進捗については、本サステナビリティレポートの各ページをご覧ください。

* 各テーマへのリンク先一覧

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/>

カテゴリー	重点領域	18年度重点テーマ	特に貢献を目指すSDGs	詳細情報掲載先
製品を通じて解決に貢献する社会課題	食の創造	植物性原料の活用による食資源不足へのソリューション提供	 	https://www.fujioilholdings.com/csr/food_creation/food_creation_01/
		おいしい食素材で健康寿命に貢献	 	https://www.fujioilholdings.com/csr/food_creation/food_creation_02/
事業プロセスを通じて解決に貢献する社会課題	食の安全・安心・品質	食の安全と品質の確保		https://www.fujioilholdings.com/csr/food_quality/food_quality_01/
	サステナブル調達	人権・環境に配慮した主原料の調達	 	https://www.fujioilholdings.com/csr/sustainable/sustainable_01/
		原材料の安定調達		https://www.fujioilholdings.com/csr/risk_management/risk_management_02/
環境	環境	CO ₂ の排出削減	 	https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/environment_02/

	水使用量の削減	 	https://www.fujioilh-oldings.com/csr/environment/environment_03/
	廃棄物の削減		https://www.fujioilh-oldings.com/csr/environment/environment_04/
人づくり	人材育成		https://www.fujioilh-oldings.com/csr/human/human_01/
	ダイバーシティの実現		https://www.fujioilh-oldings.com/csr/human/human_02/
	コンプライアンス意識の浸透		https://www.fujioilh-oldings.com/csr/risk_management/risk_management_03/
健康経営	従業員の健康維持・促進		https://www.fujioilh-oldings.com/csr/employ_health_safe/employ_health_safe_02/
	労働安全衛生の推進		https://www.fujioilh-oldings.com/csr/employ_health_safe/employ_health_safe_01/
リスクマネジメント	企業統治体制の構築		https://www.fujioilh-oldings.com/csr/risk_management/risk_management_04/
	実効性のあるリスクマネジメント		https://www.fujioilh-oldings.com/csr/risk_management/risk_management_01/

サステナビリティ

ビジネスと人権

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 推進体制
- ④ 教育・啓発活動
- ④ 人権デュー・ディリジェンス
- ④ 苦情処理メカニズム

考え方

グローバルに活動する不二製油グループは、グループ憲法に定める「人のために働く」という価値観に基づき、バリューチェーンのあらゆる段階を通じて、事業活動がステークホルダーに及ぼす影響に配慮し、人権を尊重した事業活動を行う責任を果たすという責任があると考えています。「国連ビジネスと人権フォーラム2016」への参加およびステークホルダーとの対話を機に、人権に対する考え方をあらためて整理し、2017年4月に「不二製油グループ人権方針」を公表しました。

▶ 「不二製油グループ人権方針」PDF(369KB) 

推進体制

雇用や調達、製品の販売など、不二製油グループのさまざまな事業活動が人権へ影響を及ぼし得ると認識しています。不二製油グループ本社のCSR担当役員（2018年度は最高財務責任者）管掌の下で、ESG経営グループが全社的な人権尊重の推進・啓発、人権リスクの把握・統括を行い、各事業所・各職場において人権尊重の実践に努めています。

また、バリューチェーンでの人権の尊重は、「ESG経営・重点テーマ」に落とし込み、取締役会の諮問機関であるESG委員会にて進捗報告や課題検討を行い、取締役会に対して具申されています。

教育・啓発活動

不二製油グループでは、ビジネスと人権に関する教育・啓発活動を推進しています。

2018年度は、グループ各社に設置するリスクマネジメント委員会に対して、リスクアセスメント時に「人権、環境リスク」の考慮を促すべく、情報発信を行いました。その結果、一部のグループ会

社において、人権リスク（人権侵害に事業活動を通じて加担し得るリスク）の防止対策が進みました。

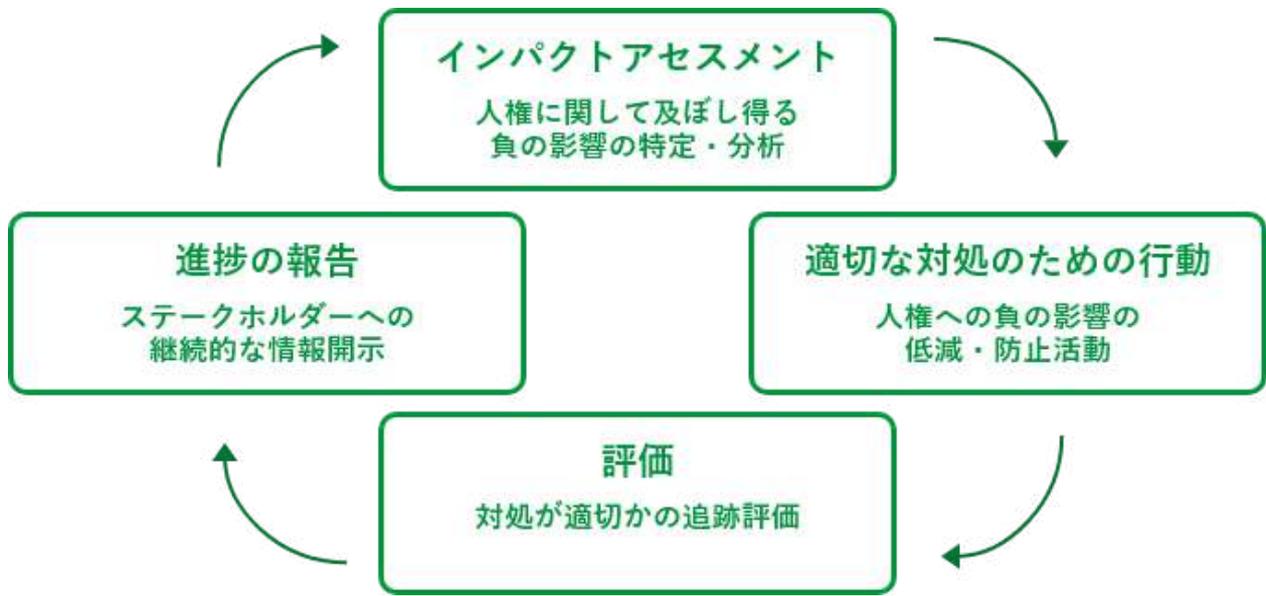
また、人権方針に関するグループ従業員の理解を促進する目的で、「ビジネスと人権 e-learning 動画」を日本語・英語・中国語で作成しました。作成した動画は海外エリア統括会社の経営層に共有するとともに、グループ全体の情報共有基盤であるイントラネットにおいて配信しています。2019年度はこの動画を研修等に活用することで、ビジネスと人権に関するさらなる理解・周知を図ります。

ビジネスと人権 e-learning 動画



人権デュー・ディリジェンス

不二製油グループは、人権尊重責任を実行する一環として人権デュー・ディリジェンスを実施しています。



人権インパクトアセスメント

人権リスクの特定プロセス

2016年度、不二製油グループの事業活動が関与し得る人権への負の影響を特定・評価し、優先的に対処すべき重要な課題の特定をするため、人権インパクトアセスメントを行いました。アセスメントを実施するプロセスにおいては、社内関係部署の関与にとどまらず、外部有識者として、Verisk Maplecroft社および経済人コー円卓会議日本委員会から知見を得ました。

第1段階として、Verisk Maplecroft社のノウハウをもとに、当社グループの事業活動や操業地域が関与しうる人権リスクを定量的に評価しました。第2段階として、その結果に基づいて、経済人コー円卓会議日本委員会の参画を得て社内関係者にインタビューを行い、当社グループの実情を可能な限り反映して人権リスクを特定しました。

特定した人権リスクとその対応（進捗）

優先的に対処すべきリスク	リスク対応 2018年度進捗
特に、東南アジア、中国、アフリカの海外グループ会社で使用する請負・派遣労働者における強制労働、人身取引、労働安全衛生、適正賃金、労働時間、結社の自由と団体交渉に関する問題が発生するリスク	<ul style="list-style-type: none"> 各グループ会社に設置している「リスクマネジメント委員会」に対して、不二製油グループ本社 ESG経営グループが左記の人権リスクを説明した。 SEDEXのSMETA監査を受けているグループ会社については、指摘事項への対応を通してリスク低減を行った。 SEDEXのSMETA監査を受けていないグループ会社においては、派遣会社・請負先に対して当社独自のアンケートを実施し、当社の考え方をご理解いただきリスク低減に努めていただいた。
自社の実質的な管理下でない合併会社、または最近買収したグループ会社において、労働時間、適正賃金、労働安全衛生、職場における差別、結社の自由と団体交渉、強制労働、人身取引など、労働者の人権侵害が発生するリスク	

優先的に対処すべきリスク	リスク対応 2018年度進捗
特に、東南アジアおよび中国の海外グループ会社において、労働時間や職場における差別など、意図せずに労働者の人権侵害が発生するリスク	
パーム油サプライチェーンの上流において、人身取引、強制労働、児童労働、適正賃金、長時間労働、土地収奪などの人権侵害が発生するリスク	<ul style="list-style-type: none"> 2017年度より当社グループでパーム油一次精製会社のパルマジュー エディブルオイル（マレーシア）のサプライチェーン改善活動を推進している。サプライチェーン上の農園に対して、移民労働者200名以上へパスポート返却するなどの支援を行っている。 2018年度より、直接取引のあるすべての精製会社22社に対してエンゲージメントを開始した。セルフアセスメント質問書の送付を通して、リスクの把握やサプライヤーの改善支援を行っている。 2018年5月、「責任あるパーム油調達方針」に基づく苦情処理メカニズムを構築・公表し、運用している。
カカオサプライチェーンの上流において、児童労働、強制労働、人身取引、不適正賃金、長時間労働等の人権侵害が発生するリスク	<ul style="list-style-type: none"> 2017年下期より、「責任あるカカオ豆調達方針」を検討し、2018年8月に策定・公表した。 2018年12月にエクアドルにおけるカカオ農家支援を開始した。人権・環境に配慮した方法で質の高いカカオ豆を生産することを支援している。
人権に関する研修の不在により、グループ人権方針が従業員の行動としてオペレーションレベルに落とし込まれないリスク	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスと人権 e-learning動画を日本語・英語・中国語で作成し、イントラネット等を使用してグループ全体に配信することで、当社の人権方針と実務上で注意すべき事項の徹底を図った。
サプライヤーの労働者や地域住民から苦情を受け付け、対応できないリスク（苦情処理メカニズムの不在）	<ul style="list-style-type: none"> 2018年5月、「責任あるパーム油調達方針」に基づく苦情処理メカニズムを構築・公表し、運用している。

苦情処理メカニズム

従業員を対象とした内部通報制度

国内・海外グループ会社従業員および一部協力会社従業員を対象にした、内部通報制度を設けています。

* 詳細はサステナビリティレポート2019「コンプライアンス」ページをご覧ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/csr/risk_management/risk_management_03/

サプライチェーンを対象とした苦情処理メカニズム

2018年5月、「責任あるパーム油調達方針」に基づく苦情処理メカニズムを構築・公表しました。不二製油グループウェブサイト「グリーンバンスメカニズムWEBページ（英語）」を設け、メカニズムおよび進捗を公表しています。

▶ https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance_mechanism/

サステナビリティ

ステークホルダーエンゲージメント

CONTENTS LIST

- ④ 考え方 ④ 不二製油グループのステークホルダー
- ④ ステークホルダーとの対話によりCSR推進を加速 ④ 外部イニシアチブへの参画
- ④ 社会からの評価

考え方

不二製油グループは、社会の一員としてステークホルダーの期待を把握し応えるために、ステークホルダーとの誠実かつ透明性のある、双方向のコミュニケーションが重要だと考えています。ステークホルダーからの意見や声は、当社グループの事業活動の改善に役立っています。

不二製油グループのステークホルダー

当社グループは、事業活動が正・負の影響を及ぼし得る主要なステークホルダーを以下のとおり特定しています。

主要なステークホルダー	コミュニケーション
従業員	<ul style="list-style-type: none">従業員研修コンプライアンス通報窓口従業員満足度アンケートイントラネット／社内報 など
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none">株主総会株主懇談会決算説明会／電話会議スモールミーティング など

主要なステークホルダー	コミュニケーション
顧客	<ul style="list-style-type: none"> • 日常の営業活動 • 共創フォーラム など
消費者	<ul style="list-style-type: none"> • お客様相談窓口 • マスメディアを通じた情報発信 など
取引先／業務委託先	<ul style="list-style-type: none"> • 日常の購買活動／取引 • サプライヤーエンゲージメント • 調達方針説明会 など
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> • 地域イベントへの参画・協賛 • 地域社会への貢献活動（食育プロジェクト） • 自然災害時の支援 など
NGO・NPO／有識者	<ul style="list-style-type: none"> • 有識者ダイアログ • グリーバンスメカニズム • 協働プロジェクトの推進 など
学術機関	<ul style="list-style-type: none"> • 共同研究 • 講演 など

ステークホルダーとの対話によりCSR推進を加速

ステークホルダーのアドバイスを事業活動へ

不二製油グループが社会の一員として、ステークホルダーとの対話を通して当社グループに対する懸念や期待を把握することは、ESG経営のベースとなる重要な活動です。ステークホルダーあるいは有識者との対話を通して、サステナビリティに関する当社グループへの期待やアドバイスを把握し、活動の改善に努めています。

ステークホルダーからの意見・アドバイス (例)	当社の活動
2016年9月 ビジネスと人権指導原則を参考にすべき	2017年4月 人権方針の策定・人権デュー・デリジェンスの導入
2017年9月 重点テーマの特定プロセスを見える化すべき	2018年1月～4月 マテリアリティ・マップを使った重点テーマの見直し

ステークホルダーからの意見・アドバイス (例)	当社の活動
2017年11月 苦情処理メカニズムの構築をはかるべき	2018年5月 苦情処理メカニズムの構築・公表
2018年4月 パーム油苦情処理メカニズムの運用に際して、サプライチェーンの情報を開示すべき	2018年6月 搾油工場（ミル）リストの公表

事例：ビジネスと人権に関する有識者ダイアログ

2018年9月、CSR活動に関してアドバイスをいただき今後活かす目的で、「ビジネスと人権に関する有識者ダイアログ」を実施しました。「ビジネスと人権」をテーマにダイアログの機会を持つのは、2017年度に続き3回目です。有識者として、Verisk MaplecroftのDr. James Allan氏、デンマーク人権研究所のTulika Bansal氏にご参加いただきました。不二製油グループからは、最高戦略責任者（Chief Strategy Officer）、最高財務責任者（Chief Financial Officer）、事業開発部門の執行役員およびCSR部門のメンバーが参加しました。

ダイアログでは、当社グループの考え方や、「ビジネスと人権」に関する取り組みの進捗および課題認識を説明しました。有識者からは特にサステナブル調達分野について、「サステナブル調達推進の上では、問題が起こり得る現場（＝農園）に踏み込んだインパクト調査や、改善活動のモデルケース創出が重要である」といったアドバイスをいただきました。当社にとっては、これまで推進してきたサプライチェーン活動（現場の実態把握⇒課題に対する改善支援）のアプローチの正当性を確認する機会となりました。ダイアログ以降、いただいたアドバイスは、主原料のサステナブル調達活動において役立てています。



2018年9月実施「ビジネスと人権に関する有識者ダイアログ」の様子

<参加者>（所属・役職は2018年9月当時）

■ 有識者

Verisk Maplecroft ヘッドオブコンサルティングDr. James Allan様

デンマーク人権研究所 人権と開発に関するシニアアドバイザー Tulika Bansal様

■ 不二製油グループ本社

取締役 兼 執行役員 最高経営戦略責任者 (CSO) 酒井 幹夫

取締役 兼 執行役員 最高財務責任者 (CFO) 松本 智樹

執行役員 事業開発部門長 科野 裕史

CSR・リスクマネジメントグループ シニアマネージャー 四方 敏夫

CSR・リスクマネジメントグループ CSRチーム 山田 瑠

■ コーディネーター

経済人コー円卓会議日本委員会

事務局長 石田 寛 様

ディレクター 野田 清穂 様

外部イニシアチブへの参画

ステークホルダーと協働して社会課題解決に貢献するために、外部イニシアチブに参画しています。

【主要な外部イニシアチブ】

- 国連グローバル・コンパクト
- The Consumer Goods Forum
- RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil)
- Global Shea Alliance
- World Cocoa Foundation



不二製油グループは、2013年1月、国連グローバル・コンパクトに署名しました。人権・労働・環境・腐敗防止の4分野10原則を実践していくことで、当社グループだけでなく、社会全体の持続可能性向上への貢献を目指しています。

当社グループは国連グローバル・コンパクトに賛同し署名しています

社会からの評価

2018年度、不二製油グループのCSRに関して以下の評価をいただきました。

社会からの評価（一例）

環境	2019年1月、CDP森林質問書「A」評価（日本企業では初の獲得） 2019年1月、CDP気候変動質問書 「B」評価
ESG全般	2019年1月、GPIF発行レポート「改善度の高い統合報告書」に当社「統合報告書2018」がノミネート 2019年2月、「第21回日経アニュアルリポートアワード」で優秀賞を受賞
健康経営	2019年2月、経済産業省「健康優良法人2018 大規模法人部門（ホワイト500）」に認定

サステナビリティ

社会貢献活動

CONTENTS LIST

- ④ 考え方 ④ 食育プロジェクト
- ④ 「SDG s for School」の高校生向け出前授業にて教材用チョコレートを提供
- ④ 阪南の森プロジェクト ④ 不二たん白質研究振興財団

考え方

不二製油グループ憲法の「プリンシプル＝私たちの行動原則」にて地域に根差した企業活動を行い、積極的に社会に貢献することを表明しています。地域社会の一員として、事業所のある地域や事業内容に関する社会貢献活動を行っています。

食育プロジェクト

不二製油グループでは、次世代を担う子どもたちに「食の大切さと大豆のチカラ」を伝えるため、2014年度から「食育プロジェクト」を特定非営利活動法人「放課後NPOアフタースクール」と協働して実施しています。公募制によって当社の社員が「社員先生」を務め、小学校で出前授業を行います。

2018年度は、「大豆おやつ（豆乳プリン）づくり」と「大豆ワークショップ」の2種類の出前授業を計20回実施し、約600名の小学生に、人の健康によく、世界の食糧不足を救う“大豆のチカラ“について学んでいただきました。2014年度以降、累計で2200名の子どもたちが食育プロジェクトに参加しています。



出前授業の様子

<授業を受けた子どもたちの声>

- 今日は大豆のすごさなどを教えてくれて、ありがとうございます。プリンもおいしかったです。
- 大豆のことを教えてくれてありがとうございます。もっと大豆のことを教えてください。
- 大豆が地球で最も大切なのかがわかり、大豆を家で育てて地球の食べ物の不足がないようにしたいです。
- 初めてのお菓子づくり楽しかったです。大豆のことをもっと知って、食べ物を大切にしていこう頑張ります。本当にありがとうございました。

「SDG s for School」の高校生向け出前授業にて教材用チョコレートを提供

Think The Earth (NPO) が中学生・高校生に向けてSDG s の理解普及を図るため行っている「SDG s for School」は、持続可能な社会実現について学ぶプロジェクトです。この出前授業で、不二製油グループは教材用のチョコレート2種類（パーム油使用のもの、パーム油不使用のもの）を提供しています。2018年度は、約3900名の受講者に、チョコレートを通して「パーム油」が身近な生活と切り離し難いものであることや、持続可能なパーム油を消費する知識を持っていただきました。

<授業を受けた高校生の声（一部抜粋）>

私は今高校生で、どの世代の人よりも力を持っている、世界を変える力があると思っています。ですが、成長していくにつれて自分が自然と臆病になっていき、具体的な活動ができず、とても苦しい思いをしていました。そんな時に、授業を通して先生から自分がこれからしていくことの具体的なアイデアをもらいました。これから、自分がやりたいことをたくさんの人とやっていけたらなと思います。

Think the Earthや不二製油の活動や企業理念についても興味を持ちました。このような企業が世の中にはあると思うと、とても嬉しい気持ちでいっぱいです。

環境や社会のことを考えながら、経済を発展させようとするのは難しかったです。日本は安い商品をいっぱいつくって、いっぱい買うよりも、もっとほかの国のことも考えるのが、これからの世界を考えるとよいと思います。どうしていくべきなのかははっきりとした答えを見つけることができないので、企業がどんなことをしているのか見てみたいです。

* 詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

▶ <http://www.thinktheearth.net/sdgs/> 

阪南の森プロジェクト

不二製油（株）では、2018年3月から大阪府の泉佐野丘陵緑地の公園づくりに社員がボランティアで参加しています。現地では地元ボランティア、大阪府、企業の3者が連携して、森づくりや竹林管理などに携わっており、月一回、土曜日に公園緑地を育てる活動を展開しています。

泉佐野丘陵緑地は唯一の直営管理の府営公園で、公園というモノづくりから公園で出会うコトづくりを目標にいろいろなプログラムへの参加や活動により公園づくりを継続しています。竹を間伐し、園路や階段などを手作りで行い、楽しく公園づくりを行っています。



泉佐野丘陵緑地

不二たん白質研究振興財団

大豆たん白に関する学術研究振興を支援する目的で、1979年に大豆たん白質栄養研究会を発足し、18年間の活動をもとに、1997年に文部省所管の財団法人「不二たん白質研究振興財団」を設立しました。2012年には内閣府所管の公益財団法人として活動の継承と発展に努めています。大豆たん白質のより広範な学術振興・普及を目指して、累計の研究助成件数は前身を含め40年間で1100件を越えました。公益活動としての公開講演会を2018年は札幌市で開催しました。2019年度は助成開始40周年となる記念の講演会として開催致します。本公益財団法人は今後ともこれら成果を広める活動を通して、社会に貢献をしていきたいと考えます。



2018年度に札幌市で開催した公開講演会の様子

サステナビリティ

食の創造によるソリューション

特に貢献を目指すSDGs



2018年度活動報告

植物性素材の活用による食資源不足へのソリューション提供 [重点テーマ](#)

コンテンツ

考え方／目標／進捗／具体的な取り組み：

「人と地球を健康にする」大豆素材の普及促進／ブルキナファソにおける栄養改善及び女性の収入向上のための大豆商品サプライチェーン構築とビジネス調査

[詳しく見る](#) →

おいしい食素材で健康寿命に貢献

[重点テーマ](#)

コンテンツ

考え方／目標／進捗／具体的な取り組み：

植物性食素材で健やかな生活を支援

[詳しく見る](#) →

Plant - Based Food Solutionを支える研究開発

コンテンツ

社会課題へのソリューション提供のためのイノベーション戦略／食の未来を創造する研究体制／オープンイノベーション

【データ】

- 研究開発費
- 累計特許取得件数

詳しく見る →

サステナビリティ

植物性素材の活用による食資源不足へのソリューション提供

CONTENTS LIST

④ 考え方 ④ 目標 ④ 進捗

④ 具体的な取り組み

- 「人と地球を健康にする」大豆素材の普及促進
- ブルキナファソにおける栄養改善および女性の収入向上のための大豆商品サプライチェーン構築とビジネス調査

考え方

不二製油グループは創業間もない頃から、人口増加とともに起こる食資源不足の問題に対して、植物性の食の素材を通してソリューションを提供することを目指してきました。具体的には、植物性のたん白源が、動物性たん白源の不足を補うと考え、1957年から60年以上、大豆たん白の可能性を追求しています。

昨今では、社会的な「食資源不足」や「環境」問題への危機感がますます高まっています。従来、植物性のたん白素材は動物性たん白の「代替」でしたが、当社グループでは、単に動物性食品を置換するのではなく、「植物素材ならではのおいしさの提供と社会課題解決」をコンセプトに、市場における植物性食品というカテゴリーを確立し、社会課題の解決に貢献したいと考えています。

目標

中期経営計画に基づき、地球環境負荷の低い植物性たん白質で、食資源不足の課題解決に貢献する。

ものづくり（研究・開発）の面では、植物性たん白源が普及する上で課題となる「おいしさの提供」を実現できる商品を開発する。

ことづくり（市場への価値訴求）の面では、消費者に植物性たん白源を選択する意義を理解していただくための仕組みづくりを行う。

進捗

■ 大豆ミートの開発と拡販

市場展開（高付加価値製品の開発推進）による、ミートレスハンバーグ、大豆からあげおよび着味した粒状大豆たん白を開発・拡販を進めました。

■ 植物性素材ベースのホイップクリーム市場づくり

従来のホイップクリームは、牛乳を原料に製造されますが、不二製油グループでは植物性原料由来のホイップクリームの開発を進めています。2018年度は、ココアバターをベースとしたカカオホイップクリームや、濃厚な豆乳（豆乳クリーム）由来のホイップクリームの開発・販売を進めました。一方、豆乳で作ったチーズの様な素材は、豆腐で作ったチーズケーキやソイティラミス（ティラテス）の原材料として採用いただき、徐々に日本市場で普及しています。

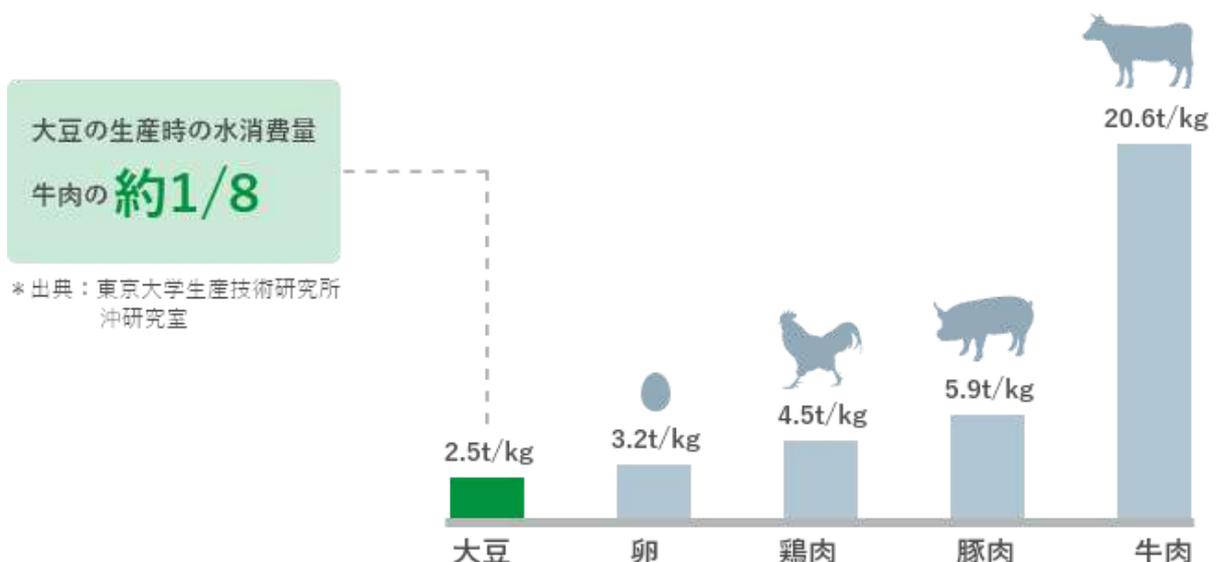
具体的な取り組み

「人と地球を健康にする」大豆素材の普及促進

社会課題と大豆

世界的な人口増加により、食料（特に動物性たん白源）および水資源が将来不足すると予測されていますが、不二製油グループはこの人類の社会課題を大豆が解決すると信じています。大豆は、寒冷地から熱帯まで幅広い地域において、動物性のたん白源に比べわずかな肥料・水で、大量に栽培することが可能です。

資源別 生産時の水使用量



不二製油グループのソリューション

当社グループは食資源不足に対して、植物性食品の開発と市場への普及を通してソリューションを提供したいと考えています。

例1：大豆ミート

従来大豆ミート等の植物性たん白源は、動物性たん白源（牛肉など）に比べ、地球環境負荷が低いものの、風味が劣ることが普及のための課題でした。当社グループでは、大豆ミートに対する長年のノウハウの蓄積によって、動物性たん白源のような食べごたえとおいしさをもつ大豆ミートを開発・販売しています。

例えば、2018年度には、ミンチ肉のような不連続な食感を付与し、消費者の皆様に牛肉さながらに満足いただけるようなミートレスハンバーグを開発いたしました。今後も、おいしい植物性のたん白素材を社会に提案・提供することで、消費者の皆様の食の歓びに貢献することはもちろん、地球環境への負荷が低い方法で食資源不足の解決に寄与したいと考えています。

例2：植物性のホイップクリーム

当社グループでは、植物性素材ならではのおいしさに着目した製品の開発を進めています。例えば、ココアバターを油分として使用した、カカオ風味の濃厚な植物性クリーム“カカオホイップ”を開発しました。このことで、カカオのもつ豊かな風味を楽しむことができるホイップクリームの提供が可能になりました。市場では、植物性素材から作られたチョコレート風味のパフェの素材等に使用いただき、環境負荷が牛乳由来のものに比べ低く、風味が豊かであることから、反響をいただいています。

また、当社のUltra Soy Separation技術（USS技術）を使用した新製品として、食物繊維を豊富に含む豆乳ホイップクリームを開発しました。パスタソース等、生クリームの用途として使用することで、あわせる食材の風味を引き立てながらコクのある味わいを可能にし、環境負荷が低くおいしい素材の提供による植物性食品の普及への貢献を目指しています。



ブルキナファソにおける栄養改善および女性の収入向上のための大豆商品サプライチェーン構築とビジネス調査

当社グループは、西アフリカのブルキナファソにおいて大豆の調達および「大豆ミート」の開発・製造・販売による現地の消費者の栄養改善と農家の収入向上を目指し、2018年にビジネス調査を開始しました。調査にあたり、国際協力機構（JICA）の「2018年途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査」*に採択されました。本枠組みの中で、大豆産地の調査や商品開発に向けた調査を開始しています。

ブルキナファソでは、大豆農家の収入は安定しているとは言えず、大豆は付加価値が低いまま飼料向けに輸出されているのが現状です。また、低体重など人口の多くが栄養不足状態にあります。大豆を貴重なたん白源として有効活用し、地域に貢献できるよう、今後も事業調査を進めます。

*国際協力機構（JICA）「途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査」：開発途上国における持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献するビジネスを計画している本邦法人の提案に対して、調査費用1件5,000万円を上限として最大3年間の期間でJICAが支援を行い、事業計画の策定を行うもの。



シアナツツ農家でもある大豆農家グループとのミーティングの様子

サステナビリティ

おいしい食素材で健康寿命に貢献

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 具体的な取り組み
 - 植物性食素材で健やかな生活を支援

考え方

不二製油グループは、生活習慣病などの「健康」に関する社会の課題について、食素材を通じてソリューションを提供したいと考えています。そのためには「健康」と「おいしさ」の両立が必要です。たとえ健康に良い食材でも、おいしくなければ食べ続けることができません。「健康」的かつ「おいしい」食品素材を提供することで、社会の課題解決に貢献できるよう、ものづくり・ことづくりを推進しています。

目標

中期経営計画に基づき、健康油脂（安定化DHA・EPA）や大豆ペプチドを広く食品に利用できるような開発を行い、消費者の食生活に普及させることで、健康寿命に貢献する。

進捗

- 健康寿命に貢献する、認知機能に関する機能性成分が含まれた商品2件が、機能性表示食品として日本の消費者庁に受理されました。
- 大阪河崎リハビリテーション大学（貝塚市）と、不二製油(株)の製品を使用した認知症予防プロジェクトに取り組み、認知機能改善効果が期待できることを確認できました。

具体的な取り組み

植物性食素材で健やかな生活を支援

社会課題

健康は世界中の人びとの願いであり、食生活はその基盤をなします。不二製油グループは植物性食素材の研究を通して、生活習慣病や高齢化に伴う病気の予防に寄与し、生活者の健康寿命の延伸に貢献したいと考えています。

不二製油のソリューション

不二製油グループでは、健康寿命に貢献できる製品の提供を目指し、健康油脂や大豆ペプチド*の認知機能に及ぼす影響に関して研究を行っています。

2018年度は、認知機能に対する機能性成分が含まれた製品2件が、消費者庁によって「機能性表示食品」として受理されました。

また、大阪河崎リハビリテーション大学（貝塚市）とともに、不二製油(株)の製品である大豆ペプチド含有飲料「ペプチド・アスリエータを使用した認知症予防プロジェクトに取り組んだ結果、高齢者向けの運動と「ペプチド・アスリエータ」を組み合わせることで、認知機能改善効果が期待できることがわかりました。これらの活動が「第4回大阪府健康づくりアワード」にて最優秀賞（知事賞）を受賞しました。

今後は、「機能性表示食品」の研究で得られた臨床試験の結果を生かし、B to Cメーカーなどの顧客との共創による消費者に対する健康訴求の高い製品の提供を通じて、高齢化が加速する日本などの市場において健康寿命の延伸に貢献することを目指しています。

2018年度に消費者庁に受理された機能性表示食品

製品名	含有成分	機能性表示	製品形態
 Brio Memory	DHA	DHAには、中高年の方の加齢に伴い低下する認知機能の一部である作業記憶をサポートすることが報告されています。	乳飲料

製品名	含有成分	機能性表示	製品形態
 <p>ペプチドメンテ・チュアプル</p>	<p>大豆由来セリルチロシン</p>	<p>中高年の認知機能の一部である注意力を維持する機能があることが報告されています。</p>	<p>サプリメント</p>

* ペプチド：タンパク質を酵素で分解し、分子を小さくしたもの。

サステナビリティ

Plant - Based Food Solutionを支える研究開発

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 社会課題へのソリューション提供のためのイノベーション戦略
- ④ 食の未来を創造する研究体制
- ④ オープンイノベーション
- ④ データ

考え方

不二製油グループの研究開発ミッションは、サステナブルな社会の実現と当社の持続的成長を目指し、技術的なイノベーションにより、柱となる次世代事業を創出することです。既存事業の深化・発展と新規事業の事業化のための研究開発の施策・戦略立案に取り組みながら、将来に向けた研究領域の調査とオープンイノベーションに向けた共同研究体制づくりも進めています。

社会課題へのソリューション提供のためのイノベーション戦略

不二製油グループの研究開発では、社会課題（ニーズ）を把握し、自社技術（シーズ）とマッチングさせるプロセスをもつことで、製品を通じた課題解決（ソリューション）を推進しています。

食の未来を創造する研究体制

不二製油グループの研究開発テーマは、基盤研究から製品開発、応用開発、生産技術開発まで、多岐にわたります。そして、たゆまない研究開発によって、さまざまな食の課題を解決し、食の未来を創造する新技術や画期的な新食材を継続的に創出できると考えています。そこで、グループ内外の知見と技術を融合し、新たな技術イノベーションを起こすため、2016年夏に「不二サイエンスイノベーションセンター」を設立し、「つくば研究開発センター」と「アジアR&Dセンター」の三極によるグローバルな研究開発体制を構築しました。技術交流会などの定期的な勉強会や、テレビ会議を活用した情報交換を通じ、知識と技術の融合を加速させています。



グローバル研究施設・フジサニープラザ拠点

施設名	機能
不二サイエンス イノベーションセンター	不二製油グループ内外の知を融合する中核として、お客様のニーズに応える食素材の開発を担っています。
つくば研究開発センター	お客様のニーズにマッチした応用開発と技術の深化やおいしさと健康につながる基盤研究を行っています。
アジアR&Dセンター	シンガポールに位置する当センターでは、日本の素材開発のノウハウを活かし、アジア地域の市場ニーズに応える食素材開発に取り組んでいます。
フジサニープラザ	東京をはじめとする世界9拠点で、お客様との共創の場として、共同施策や共同開発を行っています。

オープンイノベーション

不二製油グループでは、迅速かつ競争優位性の高い研究開発を進め、多様化するお客様のニーズに的確に応える手段として、オープンイノベーション（共創）を推進し、得られた技術と知見を研究開発に活用しています。

Plant-Based Food（PBF：植物性由来食品）の市場拡大を狙い、コンビニエンスストアと共同でメニュー開発を進めたり、AI（人工知能）技術を活用した研究開発の効率アップを大学等と共同で研究を行うなど、さまざまな共創を推し進めています。

2019年2月には、学校法人河崎学園 大阪河崎リハビリテーション大学（貝塚市）とともに取り組んだ認知症予防プロジェクトで、高齢者向けの運動とペプチドアスリエータの組み合わせで認知機能が改善される結果等も得られ、これらの活動が、「第4回大阪府健康づくりアワード」にて最優秀賞（知事賞）を受賞しました。

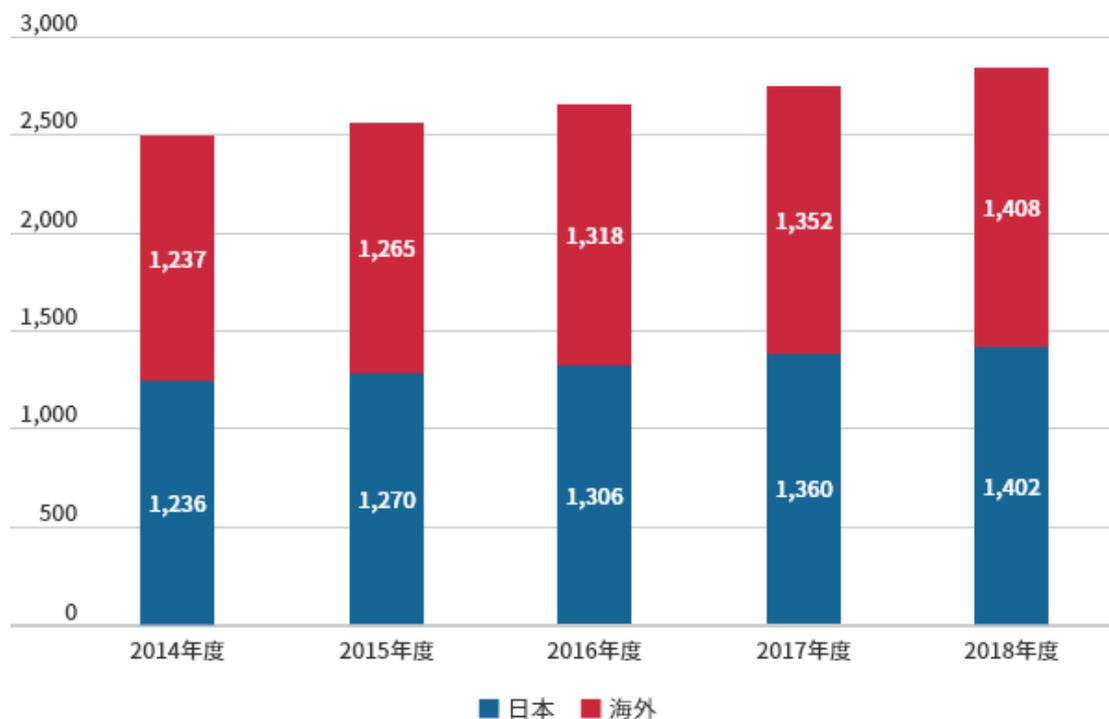
データ

研究開発費

2018年度 研究開発費総額

47億58百万円

累計特許取得件数



注）不二製油と不二製油グループ本社の特許取得件数（1950年以降の国内・海外の累計登録件数）

* 1950年以降の当社および不二製油（株）における累計値です。

* カウント方法を登録年ベースに変更したことにより、数値を修正しました。

サステナビリティ

食の安全・安心・品質

特に貢献を目指すSDG s



2018年度活動報告

食の安全と品質の徹底 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／リスク管理
と対策／教育・啓発活動／具体的な取り組み：
製品表示／認証取得

【データ】

- リコール・事故の状況

[詳しく見る](#) →

サステナビリティ

食の安全と品質の徹底

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 推進の仕組み
- ④ リスク管理と対策
- ④ 教育・啓発活動
- ④ 具体的な取り組み
 - 製品表示
 - 認証取得
- ④ データ

考え方

不二製油グループにとって、安全・安心な製品を社会に提供することは、事業活動の前提です。当社グループでは、お客様に安心して、安全な製品をご使用いただくために「品質基本方針」を定め、製品設計からお客様にお届けするまで、お客様の目線に立った製品づくりを目指しています。

品質基本方針

1. 法およびその精神を順守し、安全・安心な商品をお客様にお届けする。
2. 創造的な商品を開発し、タイムリーにお客様にお届けする。
3. 顧客満足度の向上に努める。
4. 真意の伝わるコミュニケーションで問題解決に努める。

目標

2020年までに、グループ全体での品質保証体制を構築する。

2019年度末（2020年3月）までに、不二製油（株）の全工場でFSSC22000またはISO22000を取得する。

進捗

「品質基本方針」に基づき、不二製油グループの品質保証体制を構築する上での基本的な考え方として、「品質保証規程」を2018年度に新たに制定しました。

「品質保証規程」には、製品設計からお客様に製品をお届けするまでの品質保証に関する基本的な考え方、品質問題が発生した場合の対応等をまとめました。今後は、当社グループ内での周知徹底を図っていきます。

また、2018年度には、不二製油（株）にて1工場がFSSC22000を、10工場がISO22000（FSSC22000取得工場を含む）を取得しました。この結果、2019年3月末時点で28工場中19工場が認証を取得しており、目標に対し68%の進捗となります。

推進の仕組み

品質マネジメント体制

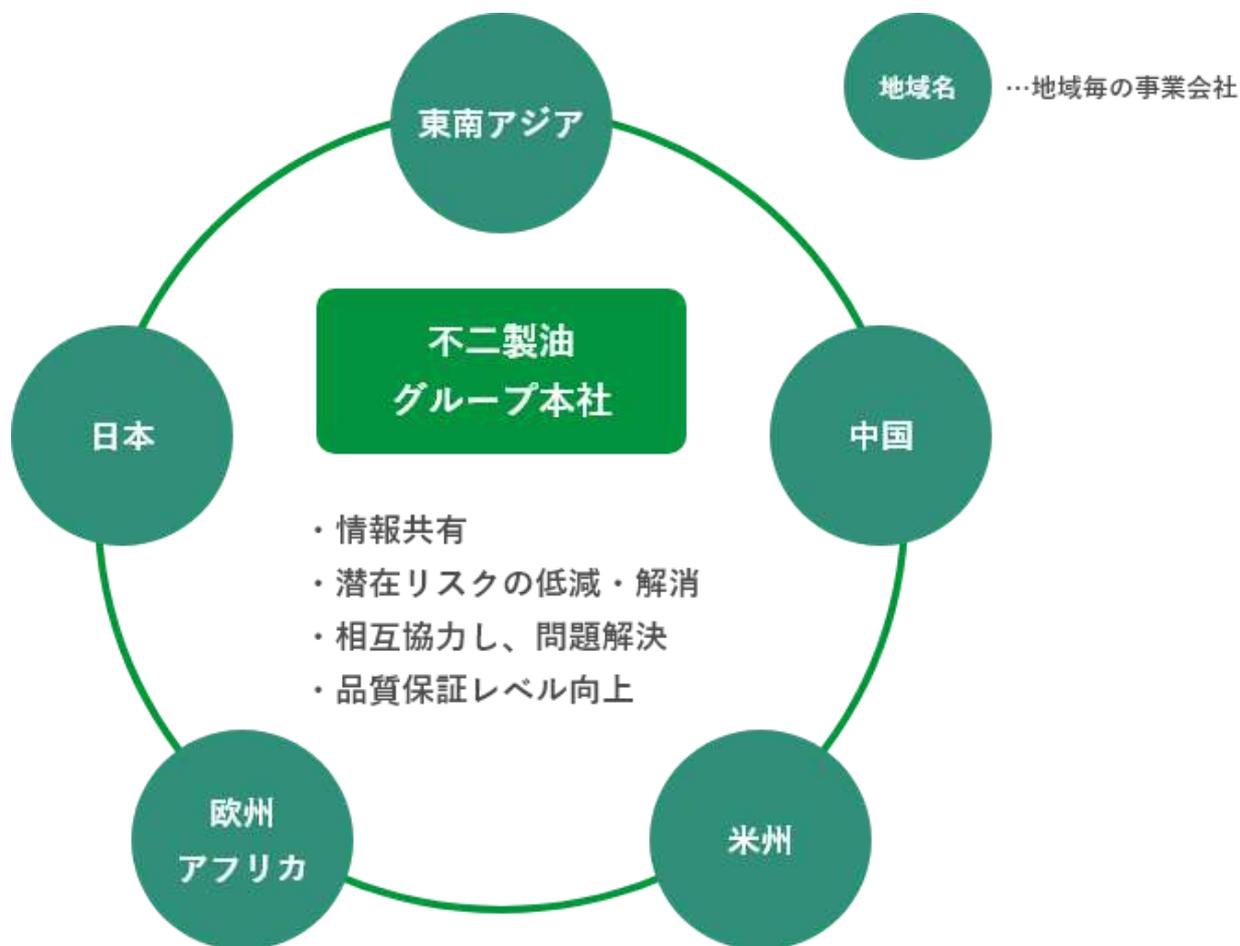
不二製油グループ本社ではESG経営を推進すべく、取締役会の諮問機関としてESG委員会を定期的
に開催しています。ESG委員会の中で、食の安全・安心・品質を含めたESGに係る重要事項を審議
し、取締役会に提言・具申しています。

2018年度は、CQO（最高品質責任者）の管掌の下で、グループ全体の食の安全・安心・品質の取り
組みを推進しました。

当社グループでは、「不二製油グループ安全品質環境 基本方針」を事業活動に適用するため、グル
ープ各社で品質マネジメント体制を構築しています。また、当社グループとして、「安全環境管理
規程」および「品質管理保証規程」を制定し、これらの規定に基づきグループ各社の管理状況のモ
ニタリング（安全・品質・環境監査）を実施しているほか、グループ各社の担当者を対象に、「安
全・品質・環境会議」を地域ごとに開催し、取り組みの共有化・グループ内の好事例や管理ノウ
ハウの横展開を行っています。

品質管理者間のネットワーク構築

潜在的なリスク（他グループ会社の経験知を共有していない、自国以外の最新の食品規制情報や国際
的な食に関するトレンドを共有していない等）の低減・解消に努め、また、問題発生時には相互に協
力して速やかな解決を図るため、各グループ会社の持つ資源（経験に基づくノウハウ・地域特有の
規制動向等）を相互活用できるネットワークの構築を進めています。具体的には、包括的に品質保
証に携わる品質管理者間での情報共有を促進し、品質保証体制の向上を目指します。



リスク管理と対策

食の安全に関するリスク管理手法

食の安全に関するリスクについても、不二製油グループ全体のリスクマネジメントシステムの中で、グループ各社および職能が管理・対応しています。

リスクマネジメントシステムの概要は、下記ウェブサイトをご参照ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/csr/risk_management/

食の安全に関するリスクと対策

不二製油グループ全体での2018年度のリスクアセスメントの結果、食の安全に関して、異物やアレルギー物質、不適切な原材料の混入リスクが改めて認識されました。これらのリスクについては、品質マネジメント認証の取得および内部監査での重点的な評価・指導を通じて、発生の可能性低減に努めています。

教育・啓発活動

不二製油グループでは、従業員の品質意識の向上のために教育活動を行っています。不二製油（株）では行動指針を掲げ、各工場での取り組みを支援するとともに、衛生講演会などを実施しています。2018年度は衛生講演会に105名が参加しました。

そのほか、日本産業界の「品質月間委員会」が定める品質月間（毎年11月）に参画しています。品質月間においては、品質テーマを決めて周知徹底を図るなど、従業員全員の意識の啓発に力を入れています。

また、当社グループ全体の品質マネジメント水準を向上させるべく、海外グループ会社に向けて、新たに導入した分析機器の技術指導を継続して行っています。グループ内の先進的な分析技術をほかのグループ会社に広め、より安全・安心な製品を世界中のお客様にお届けできるよう、今後もグループ間の技術交流を広めていきます。

具体的な取り組み

製品表示

製品の表示内容は、販売する国によって大きく異なるため、グループ各社の品質保証部もしくは品質保証を担っている部署が情報を収集し、各国・各地域の法令に則った製品表示の徹底に努めています。例えば、不二製油（株）では、法令については品質保証部が毎日情報収集し、改正があれば日々配信している「食品安全情報」を通じて社内関係者に伝えることで、迅速かつ的確に製品表示に反映しています。

また、製品表示の内容で法令に反する誤りがないか、実際に表示する前に開発部門・生産部門・品質保証部などの担当者がチェックする仕組みをつくり、管理を徹底しています。さらに、お客様が求める情報は、商品規格書や不二製油（株）ウェブサイトなどでタイムリーに開示することで透明化を図っています。

2018年度、製品表示に関する重大な違反は、日本および海外グループ会社において発生していません。

認証取得

Halal/Kosher認証の取得

不二製油グループでは、地域の食文化に寄り添った価値づくりを進めています。

具体例としては、イスラム教・ユダヤ教の食事規則に準じた原材料の使用および食品製造を証明する、Halal認証、Kosher認証の取得を推進しています。これらの認証は「健康」「安全」「安心」のイメージが世界中で定着し始めており、イスラム教・ユダヤ教を信仰する人々だけでなく、健康や食品安全に関心の高い消費者からも支持されています。今後も、さまざまな文化や価値観に寄り添って、安全かつ健康でおいしい食品の供給体制を整備していきます。

Halal認証取得状況（2019年3月現在）

Halal認証を受けた取扱商品がある会社

フジオイル（シンガポール）

ウッドランド サニーフーズ（シンガポール）

パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）

フレイアバディ インドタマ（インドネシア）

不二製油（張家港）（中国）

天津不二蛋白（中国）

不二製油（肇慶）（中国）

フジ ベジタブル オイル（アメリカ）

ハラルド（ブラジル）

フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）

ムシム マス-フジ（インドネシア）

フジオイル（タイランド）

フレイアバディ（タイランド）

GCBスペシャルティチョコレート（マレーシア）

インダストリアル フード サービスズ（オーストラリア）

Kosher認証取得状況（2019年3月現在）

Kosher認証を受けた取扱商品がある会社

フジ ベジタブル オイル（アメリカ）

フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）

Kosher認証を受けた取扱商品がある会社

フジオイル（シンガポール）

パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）

フレイアバディ インドタマ（インドネシア）

天津不二蛋白（中国）

ムシム マス-フジ（インドネシア）

インダストリアル フード サービスズ（オーストラリア）

GFSI*への対応とFSSC22000認証の取得

不二製油グループでは、GFSI承認規格の一つである、食品安全マネジメントシステムFSSC22000認証を取得しています。2018年度は新たに3工場がFSSC22000認証を取得し、国内で4拠点6工場、海外で13工場となりました。

また、2020年のHACCP義務化に向けて、2016年度よりチョコレート、クリームや大豆素材などの工場にFSSC22000あるいはISO22000の認証取得に向けての取り組みを進めており、2019年度中に国内全工場での認証取得を完了する計画です。

FSSC22000の最新の取得状況は、下記ウェブサイトをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/authen/iso22000/>

	2018年度の進捗	2018年度末時点での取得状況
GFSI承認規格（FSSC、SQF）	<ul style="list-style-type: none">不二製油（株）阪南事業所 乳化・発酵生産部 生産第一課 第一係がFSSC22000を新規取得ムシム マス-フジ（インドネシア）がFSSC22000を新規取得GCBスペシャリティチョコレート（マレーシア）がFSSC22000を新規取得	海外：グループ会社13社 日本：不二製油（株）4拠点6工場

* GFSI：Global Food Safety Initiativeの略。2000年に設立された非営利組織。国際的な食品安全の確保・向上を目的に、同団体の求める水準を指針として公表し、世界各国の著名な食品安全マネジメントシステム規格の中で適合する規格を承認・食品安全のグローバル規格の標準化を図っている。

GFSI承認規格（2013年9月現在）

名称	概要
(1) BRC GLOBAL STANDARD FOR FOOD SAFETY ISSUE6	英国小売業協会（British Retail Consortium）が開発・運用している食品安全のための規格。法令順守なども要求事項に含む
(2) CANADA GAP	カナダ政府が定める、農産物の安全を保証するための管理基準
(3) FSSC22000	食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO22000の要求事項に、食品製造に関する衛生管理基準を盛り込んだマネジメントシステム。オランダ・食品安全認証財団（The Foundation for Food Safety Certification）による
(4) Global Aquaculture Alliance	持続可能な事業を行っている事業者を世界水産養殖同盟（Global Aquaculture Alliance）が認証するもの
(5) Global G.A.P	欧州小売業組合（EUREP）による、農産物生産における安全管理に関する規格
(6) Global Red Meat Standard	食肉の安全管理に関する国際規格
(7) International Food Standard Version6	ドイツ・フランスの小売業者が販売する食品について、その納入業者の生産管理の状況が、関連する安全性規格・品質規格・法的規格にかなっていることを認証する規格
(8) SQF	HACCPの考え方に則った、食品の安全・品質の確保に関するマネジメントシステムの国際規格
(9) Primus GFS	HACCPの考え方に則った、食品の安全・品質の確保に関するマネジメントシステムの国際規格

HACCP／ISO22000／ISO9001認証の取得状況

異物混入を防ぎ安心・安全な食品をお客様にお届けするために、HACCP、ISO22000、ISO9001認証の取得を進めています。最新の認証取得状況は、下記ウェブサイトをご参照ください。

■ HACCP

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/authen/haccp/>

■ ISO22000

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/authen/iso22000/>

■ ISO9001

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/authen/iso9001/>

	2018年度の進捗	2018年度末時点での取得状況
HACCPまたはISO22000認証	<ul style="list-style-type: none"> 不二製油（株） 阪南事業所 油脂分別生産部 油脂生産課 製品係がISO22000を新規取得 不二製油（株） 阪南事業所 油脂分別生産部 分別生産課 第三係がISO22000を新規取得 不二製油（株） 阪南事業所 チョコレート生産部 生産課 第一係がISO22000を新規取得 不二製油（株） 阪南事業所 チョコレート生産部 生産課 第二係がISO22000を新規取得 不二製油（株） 阪南事業所 チョコレート生産部 生産課 第三係がISO22000を新規取得 不二製油（株） 阪南事業所 乳化・発酵生産部 生産第一課 第一係がISO22000を新規取得 不二製油（株） 阪南事業所 乳化・発酵生産部 生産第一課 第二係がISO22000を新規取得 不二製油（株） 阪南事業所 乳化・発酵生産部 生産第二課 第一係がISO22000を新規取得 不二製油（株） 阪南事業所 たん白素材生産部 生産第一課 第一係がISO22000を新規取得 不二製油（株） 阪南事業所 たん白素材生産部 生産第一課 第二係がISO22000を新規取得 3F フジフーズ（インド）がISO22000を新規取得 	海外：グループ会社17社 日本：不二製油（株）5拠点19工場 オーム乳業（日本）（厚生労働省版）
ISO9001認証	<ul style="list-style-type: none"> GCBスペシャリティチョコレート（マレーシア）がFSSC22000新規取得に伴い9001を返上 	海外：グループ会社11社 日本：グループ会社5社

データ

リコール・事故の状況

2018年3月に、フジオイルヨーロッパ（ベルギー）で生産している一部の油脂製品およびチョコレート製品で、EU規則による上限値を上回るグルシドールエステル※が含まれる事案が発生し、リコールを実施しました。結果、すべての対象商品について、消費者に販売される前に回収されたことを確認しました。原因は油脂の製造工程でのヒューマンエラーによる微量成分の除去不足および分析管理体制にあることを特定しました。再発防止に向けた対策として、ヒューマンエラーが発生した箇所については、管理体制の

強化と掲示等の見直しを実施しました。また、分析体制についても2019年度中に自社で分析できる体制構築を図ります。

併せて、安全品質環境内部監査の強化を図り、お客様に安心して当社グループの商品をご使用いただけるよう、取り組んでいきます。

*グリシドールエステル：油脂を精製する過程で発生する物質で、発がん性等の人体への影響の観点から、欧州ではすでに含有量について法制化されており、CODEXにおいても安全性について議論されている物質。

サステナビリティ

サステナブル調達

特に貢献を目指すSDG s



2018年度活動報告

人権・環境に配慮した主原料調達

重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／パーム油／カカオ／大豆／シアナッツ

詳しく見る →

サステナビリティ

人権・環境に配慮した主原料調達

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 推進の仕組み
- ④ パーム油
- ④ カカオ
- ④ 大豆
- ④ シアナッツ

考え方

不二製油グループの基幹原料であるパームやカカオなどの農作物は、生産現場（農園）での環境・人権問題が社会的に懸念されています。また、製品供給の責任を果たすためにも、持続可能な方法で生産された、高品質で安全な原材料の安定的調達が重要だと考えます。当社グループは社会的存在として、環境的・社会的・経済的に持続可能な調達活動を推進します。

目標

不二製油グループのパーム油サプライチェーンにおけるNo Deforestation, No Peat, No Exploitation(森林破壊ゼロ、泥炭地*開発ゼロ、搾取ゼロ)の実現。

2020年までに、搾油工場までのトレーサビリティ（Traceable To Mill）100%を実現。

*泥炭地：地中に炭素を大量に固定している土地のこと。泥炭地の開発によって、大量の温室効果ガスが大気中に排出される。

進捗

パーム油の持続可能な調達に関しては、2018年5月に、「責任あるパーム油調達方針」に基づいてグリーンバンスメカニズム（苦情処理メカニズム）を公表し、運用を開始しました。併せて、サプライチェーンの透明性を確保しグリーンバンスメカニズムを効果的に運用するために、2018年6月に「サプライチェーン上の搾油工場リスト」を公表しました。

2019年3月には、「責任あるパーム油調達方針」の進捗状況をステークホルダーの皆様に対して簡潔かつタイムリーにお知らせするためのWEBページとして、「Dash Board」を作成・公表しまし

た。2018年度下期の、搾油工場までのトレーサビリティは99%でした。

また、カカオの持続可能な調達を推進するために、2018年8月に「責任あるカカオ豆調達方針」を策定し公表いたしました。この方針に基づく活動として、エクアドルでのカカオ農家支援を開始しました。

今後は、パーム油については、受け付けたグリーンバンスへの対応やサプライチェーン改善の検証、カカオについては農家支援の拡大、大豆に関しては考え方を整理することから始め、サプライチェーン上の人権・環境リスクの低減・是正を進めていきます。

DashboardはこちらのURLよりご覧ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/en/csr/supplychain_database/

推進の仕組み

推進体制

不二製油グループ本社ではESG経営を推進すべく、取締役会の諮問機関としてESG委員会を設置し、ESG委員会の中で、サステナブル調達を含めたESGに係る重要事項を定期的に審議し、取締役会に提言・具申しています。

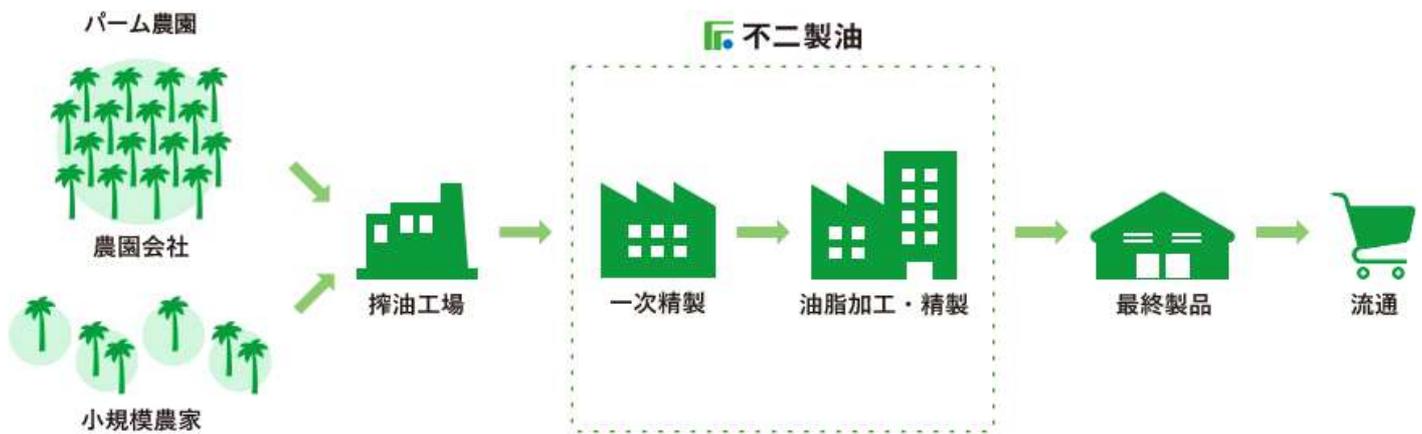
そして、CSO（Chief Strategy Officer）を最高責任者として、グループ全体の主原料のサステナブル調達の取り組みを推進しています。

従業員へのインセンティブ

事業活動を通じて社会に貢献する優れた取り組みを行った部門・グループ会社を評価する目的で、2016年以降、表彰制度「経営賞」において「CSRの部」を設けています。

パーム油

パーム油のサプライチェーンと不二製油グループの位置づけ



考え方

パーム油と不二製油グループ

パーム油は、東南アジアなどの熱帯地域に植生するアブラヤシから取れる油です。ほかの植物性油脂と比べて加工しやすく単位面積あたりの収穫量が大きいため、食品から化学品まで幅広く使われており、世界の植物性油脂原料の中で最大の生産量となりました。しかし、市場規模が拡大する一方で、パーム農園がある地域において、農園開発に起因する環境問題や児童労働・強制労働などの人権問題が危惧されています。

不二製油グループは、基幹原料の一つとしてパーム油の可能性を追求し続け、新しい食文化を切り拓いてきました。パーム油の持続可能な調達を目指すことは社会的責任であると考えています。

責任あるパーム油調達方針

2016年3月、不二製油グループとして「責任あるパーム油調達方針」（以下、本方針）を策定し、公表しました。本方針では、人々と地球環境を尊重するサプライヤーから責任ある方法で生産されたパーム油を調達することを約束しています。当社グループは、ステークホルダーと協働して調達方針に即した調達に努めています。今後も、パーム油が持続可能な油脂原料として世界に受け入れられるよう、責任あるパーム油調達を推進していきます。

▶ [責任あるパーム油調達方針PDF\(1.54MB\)](#)

具体的な取り組み

方針実現のための取り組み全体像

取り組み	狙い
1. トレーサビリティの向上	サプライチェーンの把握

取り組み	狙い
2.サプライチェーン改善活動	サプライヤーとの協業によりサプライチェーン上のリスクを低減
3.グリーンバンスメカニズム	サプライチェーン上の問題の早期発見・改善
4.RSPO認証油の供給	サステナブルな方法で生産されたパーム油の普及
5.UNIFUJI	サステナブルなパーム油の供給力強化
6.学術機関・業界との連携	ステークホルダーとのコラボレーションによる人権・環境問題の効果的改善

1.トレーサビリティの向上によるサプライチェーン把握

サプライチェーンを改善するためには、不二製油グループが購入・使用するパーム油について、どの地域で生産されたものなのかを特定する必要がありますと考えています。2020年までに、搾油工場までの完全なトレーサビリティ*を実現することを第1段階の目標とし、NPOのEarthworm Foundation（旧名称：The Forest Trust）およびサプライヤーとの協働で、トレーサビリティの向上に取り組んでいます。

地域の商流の特性上トレーサビリティが困難であった中国のグループ会社において、サプライヤーに対するエンゲージメントやサプライチェーンの見直しを行った結果、2018年下期、当社グループ全体の搾油工場までのトレーサビリティは99%に向上しました。

*トレーサビリティ：食品の安全確保のため、生産履歴や流通経路を明らか（トレーサブル）にすること。その仕組み。

2.サプライチェーン改善活動

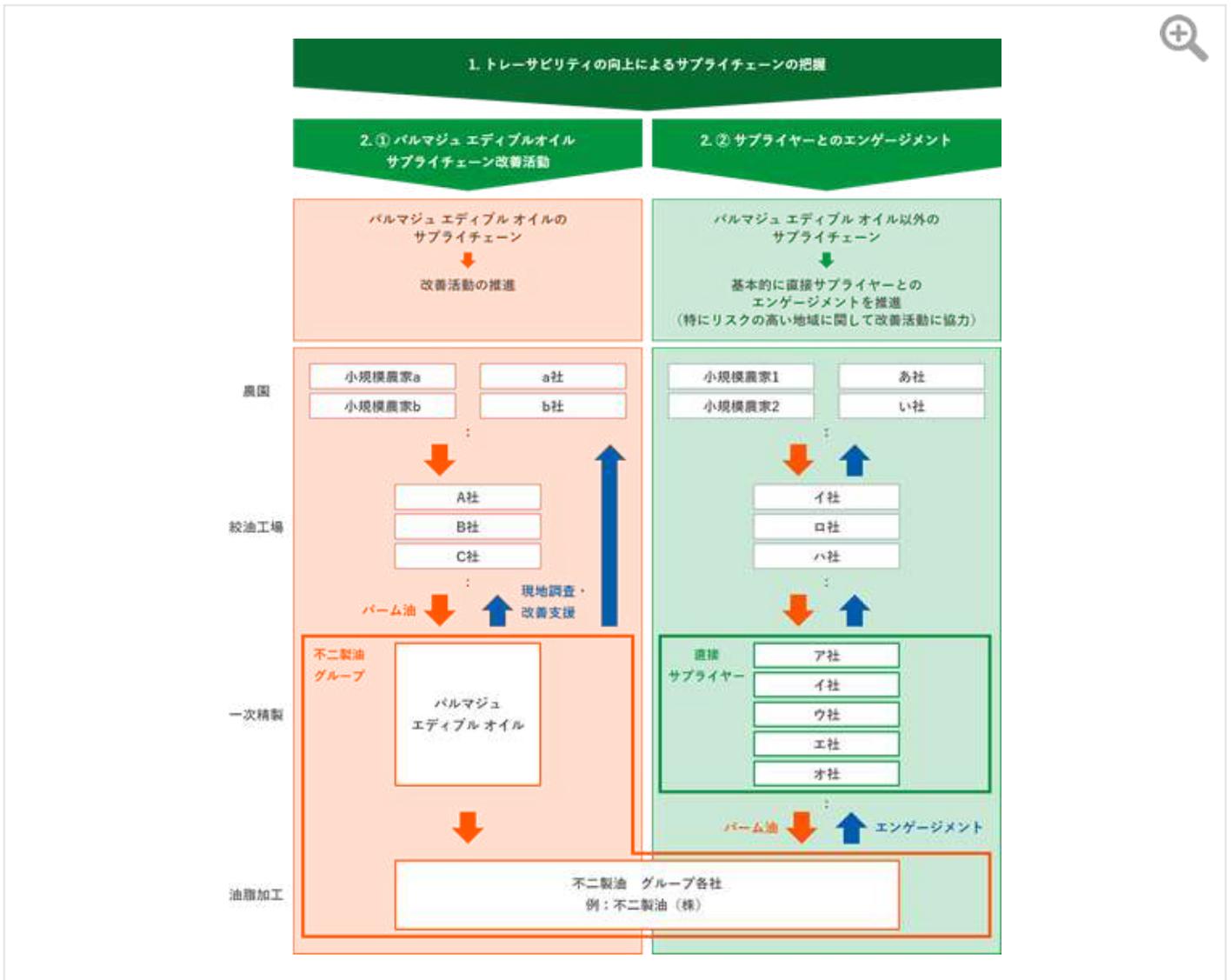
調達方針に基づき、パーム油生産現場（農園）での環境・人権問題を解決するために、サプライチェーン改善活動を実施しています。

①不二製油グループの中で、サプライチェーン上でパーム油生産現場により近い位置にある一次精製会社「パルマジュー エディブル オイル（マレーシア）」については、搾油工場と連携したサプライチェーン改善活動を展開しています。

②パルマジュー エディブル オイル以外のサプライチェーンについては、基本的には直接サプライヤーとのエンゲージメント（積極的働きかけ）を推進することで、サプライチェーン改善を図ります。一部のサプライチェーンについては、改善活動をサプライヤーと協働で開始しています。2018年度より、インドネシアにおいては環境リスクの高い農園地域を対象とした改善活動を開始し、マレーシアでは移民労働者の権利を守るためのフォーラム（Ethical Recruitment Forum*）への参画を開始しました。

*Ethical Recruitment Forum：NPOのEarthwormが主催する、マレーシアのパーム油産業における労働者およびコミュニティへの搾取ゼロを目指すプロジェクト。人権デュー・ディリジェンスツールの開発などを行っている。

サプライチェーン改善活動の全体像



① パルマジュ エディブル オイル (マレーシア) サプライチェーン改善活動

2016年10月より、不二製油グループのパルマジュ エディブル オイル (マレーシア) において、サプライチェーン改善活動を開始しました。初めに、同社のサプライヤー (搾油工場) に対して当社グループの調達方針を共有しました。その後、同社のサプライヤーのうち1社と、その搾油工場に関連するディーラーや農園の現地視察を行い、調達方針との適合性を評価し、課題の改善・是正を支援しました。支援の結果、2017年12月には、パルマジュ エディブル オイルのサプライヤーである搾油工場や農園で働く200名以上の移民労働者にパスポートが返却され、300名の移民労働者が彼らの理解できる言語で雇用契約書を締結することができました。

パルマジュ社のすべての直接サプライヤーに対し、当社グループの考え方を伝えるセミナーを2回開催し、セルフアセスメントツールおよび課題改善ノウハウの提供を行っています。2018年度は、7軒の搾油工場からセルフアセスメントツールの回答をいただき、リスクを把握することができました。2019年度は、この結果に基づき、サプライヤーとともに具体的な改善活動を行うことで、さらにサプライチェーンの改善を進めるとともに、衛星写真を利用した森林保全状況の確認を行う予定です。

* 改善活動の実績を動画にまとめています。下記URLをご参照ください。

▶ <https://www.youtube.com/watch?v=sUWBgu07Tp8&feature=youtu.be> 

② サプライヤーとのエンゲージメント

不二製油グループのパーム油サプライチェーン全体を改善するためには、当社グループと直接取引のあるサプライヤーとのエンゲージメントが肝要だと考えています。エンゲージメントでは、当社グループの調達方針についてご理解いただくとともに、サプライチェーン上のリスクや、問題が発生した際のグリーンバンスメカニズムの連携について協議しています。

2018年度は、当社グループのすべてのパーム油直接サプライヤー（精製会社22社）からセルフアセスメントの回答を得て、NDPE方針（森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ）の実現のための各サプライヤーにおける進捗を把握することができました。今後も継続して、直接取引のあるサプライヤーとのエンゲージメントを行い、リスク低減のための働きかけ・協業を進めていきます。また、リスクが高いサプライチェーンについては、直接取引のあるサプライヤーと共同して、改善活動を行っています。2019年3月末時点で、インドネシアの「APTランドスケープイニシアチブ」とマレーシアの「小規模農家支援」の2つの改善活動に、サプライヤーとともに参画しています。

③ Landscape Approach

搾油工場までのトレースを行った結果、インドネシアのスマトラ島のサプライチェーンにおいて、環境・生態系の観点から重要なエリアが森林破壊のリスクにさらされていることがわかりました。このリスクを低減・是正するために、当社グループは2018年度より「APT（Areal Prioritas Transformasi）ランドスケープイニシアチブ」に参画しています。

「APTランドスケープイニシアチブ」は、農園開発の脅威にさらされている、インドネシアの貴重な熱帯雨林の3地域（アチェ・タミアン・南アチェ・東リアウ）を対象に、地元政府・NGO・企業・農園等のマルチステークホルダーが連携して活動を展開しています。これらの地域についてはパーム農園に限らず、NGOやコミュニティ・政府などのマルチステークホルダーが参画し、地域ごと改善を図る手法（ランドスケープアプローチ）を用いて、以下の主要な目標に向かって取り組みを進めています。

- 計画のリーダーとしての地元政府の関与
- パーム油農園区域内での森林破壊停止の条件整備
- 小規模農家に代替の生計手段を提供し、コミュニティ単位で保全を強化することによる、パーム農園区域外でのパーム農園開発による森林破壊の予防
- 搾油工場および農園による、NDPE方針促進のための現状の取り組み強化

2018年度はマルチステークホルダーワークショップの開催、地元政府とのエンゲージメント、土地利用状況のアセスメントなどを行いました。

④ マレーシア・ボルネオ島での小規模農家支援活動

パーム農園における環境・人権問題の要因の一つとして、小規模農家による生産性の低い農園運営が指摘されています。小規模農家が環境的・社会的・経済的に持続可能な農園運営のノウハウを得

られるよう、不二製油グループは2016年1月、サプライヤーとWild Asia（NGO）による小規模農家支援プロジェクト（WAGS：Wild Asia Group Scheme）に参画しました。本プロジェクトでは、当社グループのサプライチェーンの一部の小規模農家における生産性向上と労働環境改善を目指し、4年間の教育支援を行います。

2018年度には、支援先の農家32軒が新たにRSPO認証を取得しました。2016年1月に当社グループがWAGSに参画して以降、累計で191軒の農家がRSPO認証を取得するとともに、17,041トンのRSPO認証パーム油が生産されています。

小規模農家によるRSPO認証の取得は、小規模農家が人権・環境に配慮したパーム油生産を行えるようになったことを意味しています。また、農薬の適切な使用方法の教育を通じて、小規模農家からは「使用する農薬量が減少し、コストカットにつながった」とコメントを得ています。2019年度も現地との対話を重視し、支援を継続していきます。

3. グリーバンス（苦情処理）メカニズム

「責任あるパーム油調達方針」を実現する目的で、2018年5月にグリーバンスメカニズムを構築・公表しました。このグリーバンスメカニズムは、ステークホルダーから不二製油グループに提起されたサプライチェーン上の環境・人権問題について、「責任あるパーム油調達方針」に基づいて直接サプライヤーとのエンゲージメントを行い問題の改善を促す仕組みです。透明性を持ってグリーバンスに対応するため、当社グループウェブサイト「不二製油グループ グリーバンスWEBページ（英語）」を設置しています。本ウェブサイトにおいて、少なくとも四半期に一度進捗状況を更新し、ステークホルダーの皆様への情報開示に努めています。

グリーバンスWEBページは以下のURLをご参照ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance_mechanism/

4. RSPO* 認証油の取り扱い

パーム油の持続可能な生産・消費体系を構築する趣旨に賛同し、不二製油グループは2004年より、RSPOに加盟し、認証油の取り扱いを進めてきました。

RSPO認証油の需要は欧州・米国を中心に高まっており、2018年、当社グループの認証油取扱量は約12万トンで、これは、当社グループのパーム油取扱総量の約17%です。認証油の要望に対応するため、グループ間のサプライチェーン改善、事業所のサプライチェーン認証取得などに積極的に取り組んでいます。

* RSPO：Round Table on Sustainable Palm Oilの略。持続可能なパーム油のための円卓会議。

当社グループ取り組みの進捗状況を下記URLでチェックしてください。

▶ <https://www.rspo.org/> 



5.UNIFUJI (ユニフジ) の設立

持続可能なパーム油調達を推進し、顧客や消費者に責任ある製品供給を果たすことは、不二製油グループの事業戦略上でも重要なテーマとして位置づけています。ユニフジは、持続可能なパーム油に対して志を共にするパートナーであるUNITED PLANTATIONS社との合併会社です。合併先のUNITED PLANTATIONS社は、世界で初めてRSPO認証油の生産を行った実績を持ち、農園労働者の人権や環境に配慮した持続可能な農園運営が行われています。2018年度に工場の稼働を開始したユニフジでは、UNITED PLANTATIONS社の農園から、高品質かつ持続可能なパーム油を確保し、当社グループの強みである分別技術をもとに、高付加価値のパーム油製品を生産・販売しています。ユニフジの工場は、UNITED PLANTATIONS社の農園内に位置し、バイオマスと排水からのエネルギーを利用しています。

6.学術機関・政府・業界との協働

① 育種研究による生産性向上

パーム油の消費量が世界的に拡大する一方、アブラヤシの栽培に適した地域は非常に限られていることから、アブラヤシの品種改良によって生産性と品質を高め、単位面積当たりの収穫率を向上させていくことが求められています。不二製油グループでは、世界最大のパーム油生産国であるインドネシアの研究機関、インドネシア技術評価応用庁（Badan Pengkajian dan Penerapan Teknologi：BPPT）と「パームの生産性の向上および高品質化に向けた共同研究」を2011年より実施しています。これまで、アブラヤシの優良苗の生産や品種改良につながる組織培養技術の大幅な改良に成功するなど、インドネシアでのパーム研究の発展に寄与しています。今後も、パーム油産業の発展に貢献していくとともに、パーム農園の拡大に伴う熱帯雨林の減少などの地球環境問題の改善を図り、持続可能なパーム油生産に貢献していきたいと考えています。



育種研究が進められているBPPTバイオテクノロジー研究所



パームの組織培養の様子

② The Consumer Goods Forum Japan Sustainability Local Group パーム油ワーキンググループ

不二製油グループは、消費財の国際的な業界団体であるThe Consumer Goods Forum (TCGF) の Japan Sustainability Local Groupの一つである「パーム油ワーキンググループ」に、2017年度の設立当初から参画しています。「パーム油ワーキンググループ」には、最終製品メーカーや小売・卸売企業などさまざまな業態のメンバーが参画し、日本社会において持続可能なパーム油調達を実現する目的で、情報収集および協議を行っています。

③ 持続可能なパーム油会議 (Japan Sustainable Palm Oil Conference)

2018年11月、日本社会として持続可能なパーム油調達を考えるためのイベント「持続可能なパーム油会議 (Japan Sustainable Palm Oil Conference)」について、趣旨に賛同し協賛しました。

トピックス「子どもたちへの教育・啓発」

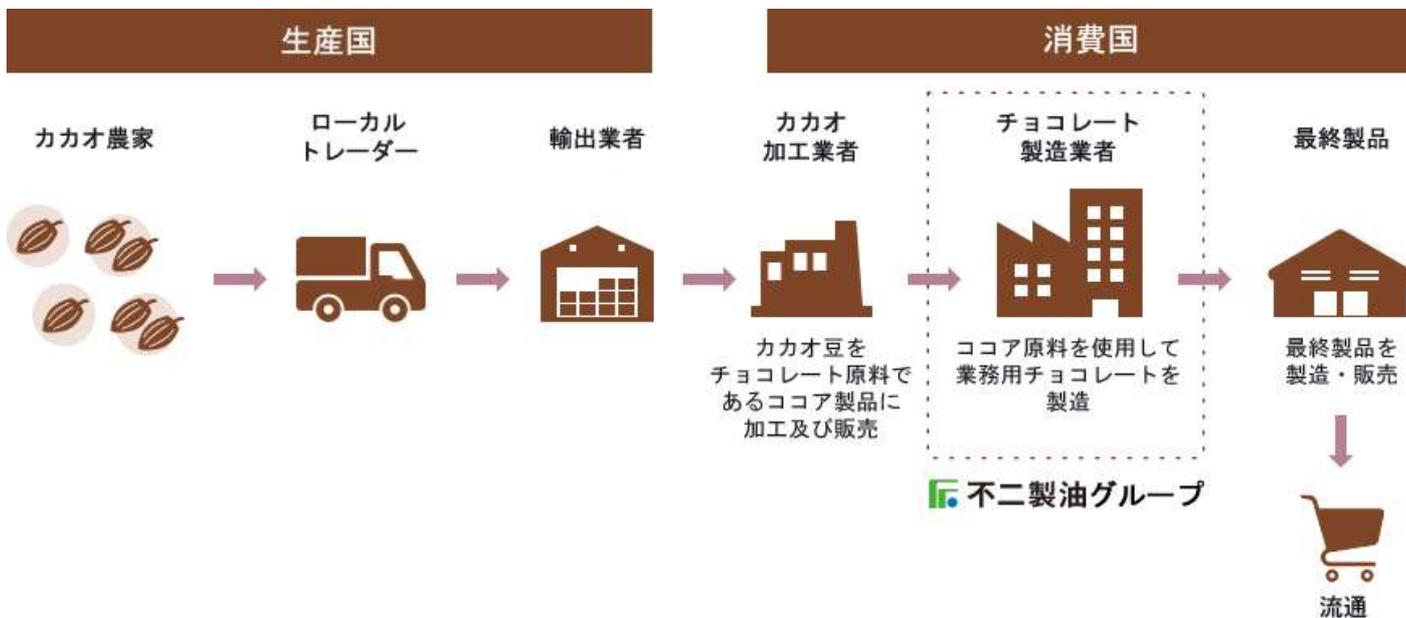
サステナブル調達を推進するためには、消費者・市場に対する働きかけが重要なテーマの一つとなります。当社は、次代を担う学生への教育が重要であると考え、NPOのThink the Earthによる、「SDGs for school」の出前授業に賛同し、その授業で使用するチョコレートの協賛を通して、学生に持続可能なパーム油、ひいては持続可能な社会について考えていただく機会の提供に努めています。

本件に関する詳細は「社会貢献活動」ページをご参照ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/csr/management/management_04/

カカオ

カカオのサプライチェーンと不二製油グループの位置づけ



考え方

チョコレートの需要は世界的に一層高まっていますが、その原料であるカカオは、農家の離農や高齢化、カカオツリーの老齢化、気候変動による生産地への影響、知識や資材不足による生産効率の低さといった供給面の問題から、将来的な需給のひっ迫が懸念されています。さらに、小規模農家が大半を占めるカカオ農家の貧困や児童労働、森林破壊、土壌汚染など、複雑に絡み合った人権および環境面での問題が指摘されています。

業務用チョコレート事業は、不二製油グループのコアコンピタンスの一角であり、ココアリカー*・ココアバター**・ココアパウダー***等のカカオ由来原料は当社グループにとって基幹原料の一つです。当社グループが将来にわたり、持続可能なカカオを使用した製品を通じて食の喜びを届け続けるため、2018年8月に「不二製油グループ 責任あるカカオ豆調達方針」を策定いたしました。本方針に基づいて、持続可能なカカオ原料の調達活動を行うことを目指しています。

* ココアリカー：チョコレート・ココアの製造工場の用語で、カカオ豆から外皮を取り除いて磨砕して出来るペースト状のもの。

** ココアバター：カカオ豆を搾油して得られる植物油脂。

*** ココアパウダー：カカオ豆からココアバターを搾油した後のものを粉砕し粉状にしたもの。

▶ [責任あるカカオ豆調達方針PDF \(166KB\)](#) 

具体的な取り組み

エクアドルでの小規模農家支援活動

責任あるカカオ豆調達方針に基づき、2018年12月より、エクアドルでの小規模カカオ農家支援活動を当社グループの直接サプライヤーとともに開始いたしました。農業支援を通して、生産性の向上・カカオ豆の品質向上・農家およびコミュニティの生活水準の向上を目指します。現在、支援プログラムでは68農家に対して、当社の直接サプライヤーが農園管理方法や土壌管理、収穫後のプロセス（発酵作業など）に関するトレーニングを行っています。カカオ豆は土壌管理・生産および収穫後のプロセスが品質を大きく左右する原料です。農業支援プログラムを通して、単収の向上による農家の収入向上が期待されます。また、現地にて風味研究を行うことで、カカオ豆の品質改善を図っていきます。



土壌やカカオに負荷の低いオーガニックな虫除けスプレーをつくるための技術指導の様子

ガーナでの支援活動

カカオ豆の主要原産国の一つに、アフリカのガーナがあります。不二製油（株）は、2014年以降、カカオ豆購入代金の一部を利用し、ガーナのサプライチェーン上のコミュニティ支援を行っています。これまでに、支援先コミュニティにおいて、「井戸の建設（2014年）」および「収穫率の改善のための研究（2016年～）」を行ってきました。



農業指導の様子

収穫率向上のための研究として、2016年から2018年にかけて、モデル農園を選定し、異なる条件で育成したカカオの収穫量を研究してきました。研究によって、モデル農園の収穫量は、2017年10-12月は前年同時期と比較し、18%の増加となりました。2018年2月からは、モデル農園近隣エリアのカカオ農家を対象とした、農業指導の実施を継続しています。「農園の管理方法」、「農薬の管理方法」、「カカオの収穫および収穫後の管理方法」に加えて、「新しく農園を始める際の土地の選定基準」や「農園のリハビリテーション」についての指導を実施しています。また、収穫量向上のみならず、カカオ豆の品質を向上させるためのノウハウや、ガーナ豆の風味を引き出す発酵方法を農家に伝えています。

今後も、カカオ豆の持続可能な生産・消費体系構築を目指し、生産者の支援を継続していきます。

世界カカオ財団（WCF）への参画

不二製油グループは2012年より、世界カカオ財団へ加盟しています。世界カカオ財団は、農家が栄え、カカオ生産者コミュニティが活力を持ち、人権が尊重され、環境が保全されるようなカカオ産業の持続可能な繁栄を目指している、メンバー制の国際的なNPOです。

世界カカオ財団の3原則



WCFサステナビリティ3原則

- 利益** 農家のための公正かつ十分な経済的利益
- 人** 健康的で豊かな生活を営むカカオ農家とコミュニティ
- 地球** 信頼できる確かな環境に対する責務

認証カカオ原料の取り扱い

Fair Trade



フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）では、開発途上国の原料や製品を購入することを目指すフェアトレード認証を取得しています。お客様のご要望に応じて、フェアトレード認証の原料を使用した製品を生産・販売しています。

UTZ



不二製油（株）関東工場、フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）、ウッドランド サニーフーズ（シンガポール）、フレイアバディ インドタマ（インドネシア）では、持続可能な農業のための国際的な認証プログラムである「UTZ認証」を継続的に取得しており、今後もお客様のご要望に対応していきます。

大豆

考え方

大豆は、冷帯から熱帯まで幅広い地帯で栽培される植物ですが、大豆の生産地では、農園開拓による森林破壊や、農薬散布による農園地域の土壌汚染などが懸念されています。不二製油グループは、大豆が将来の世界の食糧危機を救うと信じ、1957年以降、他社に先駆けて食品素材としての大豆の可能性を追求してきました。当社大豆加工素材事業においては、脱脂大豆や丸大豆、大豆たん白などの大豆由来の原料を使用しています。大豆加工素材事業を通してサステナブルな社会に貢献するために、調達活動においても地球環境と社会への配慮に努めます。

具体的な取り組み

不二製油グループが調達する大豆の産地

当社グループの大豆加工素材事業では、北米産、中国産、日本産の大豆原料のみを調達しています。

非遺伝子大豆の調達

不二製油グループでは非遺伝子組み換え大豆のみを調達しています。北米では、遺伝子組み換え大豆*と非遺伝子組み換え大豆がともに多く流通しているため、北米産大豆に関しては栽培、輸送および保管において厳しい分別管理を行っています。

大豆の主要な調達先である中国では、遺伝子組み換え大豆の栽培は禁止されていますが、近年は搾油原料として海外産の遺伝子組み換え大豆が中国に輸入されており、年々、非遺伝子組み換えを厳格に分別管理することの重要性が増してきています。中国産大豆の調達についてもグループで連携し、不二製油（株）で得た管理ノウハウを取り入れ、厳しい管理要求に継続的に対応しています。

* 遺伝子組み換え大豆：安定的に大豆を収穫するために除草剤耐性などの機能を、遺伝子を組み換えることで付与した大豆。

ステークホルダーの期待の把握

2018年度、環境に関する評価機関であるCDPのフォレスト質問書において「大豆」に関して初めての回答を行いました。回答を通して、「大豆調達に関する方針の策定と公表」や「サプライチェーンの森林破壊リスクの管理」など、ステークホルダーが大豆のサステナビリティの文脈で企業に期待することを把握することができました。

2019年度は、サプライヤーや顧客・有識者との対話を通して、ステークホルダーの期待を深掘し、大豆調達に関する考え方や取り組みを検討していきます。

シアナッツ*

考え方

チョコレートやチョコレート利用食品の多様化する需要に応えるため、ココアバター代用脂（CBE：Cocoa Butter Equivalent）も多様化しています。優れたココアバター代用脂づくりに不可欠な原料の一つに、アフリカ原産のシアバターがあります。近年は化粧品利用などでも知名度が高くなっていますが、食用への利用も古くから行われています。シアバターを生み出すシアナッツは、自然に植生します。植生地域においては神聖な木とされ、主に女性が収穫を行います。コミュニティにとって、雇用の創出および女性のエンパワメントの観点から重要な産業として位置付けられています。

不二製油グループは、主に植物性油脂事業においてシアナッツを使用しており、事業活動を通してシアナッツ生産地域が経済・社会・環境の観点から持続可能な発展をすることに寄与したいと考えています。当社グループのインターナショナル オイルズアンド ファッツ（ガーナ）は、シアバターの分別工程を自社で行うことにより、現地（ガーナ）で製品の付加価値を上げ、現地経済や雇用機会の創出に貢献しています。

*シアナッツ：シアバターの木の種子のことで、主な生産地はナイジェリア、マリ、ブルキナファソ、ガーナなど。シアナッツから製造されるシアバターは食品、化粧品や石鹸に使用される。

具体的な取り組み

Global Shea Alliance（GSA）への参画

シアナッツ産業においては、約1,600万人が従事するといわれる西アフリカ女性たちによる収穫作業なくしては持続が困難です。ジェンダー平等の実現、生活レベルの確保、収穫時の労働安全の確保が重要になります。また環境面では、現地の人々の生活燃料確保のため、樹木伐採問題なども指摘されつつあります。これらの課題は1社のみで解決できることではなく、シアナッツサプライチェーンのステークホルダーによって構成されるGlobal Shea Alliance（GSA）で議論がなされています。2019年3月、ガーナのアクラで行われた総会には不二製油グループとして参加するなど、GSAを通じたステークホルダーとのネットワーキングおよび情報収集を進めています。



シアバターの木

UNDPプロジェクトへの参画

(ガーナでのシア栽培を通じた地域復興・女性の地位向上・環境保護の推進)

不二製油グループ本社およびフジオイル ヨーロッパ（ベルギー）は、国連開発計画（UNDP）が主催する「Ghana Shea Landscape REDD++Project」への参画を検討しています。本プロジェクトでは、シアナッツ産業がコミュニティの活性化および女性の地位向上を推進し、環境に対する負の影響を低減することを目指して、就業機会の創出や植林活動、コミュニティ形成支援など、多角的な活動を行う予定です。

サステナビリティ

環境

特に貢献を目指すSDGs



2018年度活動報告

環境マネジメント

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／マネジメント認証の取得／監査／環境に関する重大な違反および措置／外部からの評価

【データ】

- 環境負荷の全体像（INPUT／OUTPUT）
- 環境監査（内部監査／外部審査）の実績
- 環境会計

詳しく見る



CO₂の排出削減 **重点テーマ**

コンテンツ

考え方／目標／進捗

【データ】

温室効果ガス排出量

- エネルギー使用量（CO₂排出量換算）と原単位推移
- Scope-1、2エネルギー使用量（CO₂排出量）
- CO₂排出係数の出典

エネルギー消費量

- エネルギー使用量（原油換算）と原単位推移
- 燃料消費量
- 総電力消費量

詳しく見る



水使用量の削減 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／具体的な取り組み

【データ】

- 年間給水量と原単位推移
- 年間排水量と原単位推移
- 不二製油（株）阪南事業所における水再生利用量

[詳しく見る](#) →

廃棄物の削減 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／食品リサイクルの取り組み

【データ】

- 国内グループ会社廃棄物総排出量と再資源化率
- 海外グループ廃棄物総排出量と原単位

[詳しく見る](#) →

包装材の削減

コンテンツ

包装時の環境負荷低減に向けた取り組み

[詳しく見る](#) →

生物多様性

コンテンツ

事業活動が生物多様性に及ぼし得る潜在的影響／
生物多様性に関する取り組み

[詳しく見る](#) →

サステナビリティ

環境マネジメント

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 推進の仕組み
- ④ マネジメント認証の取得
- ④ 監査
- ④ 環境に関する重大な違反および措置
- ④ 外部からの評価
- ④ データ

考え方

近年、地球温暖化等の気候変動に伴う地球規模での問題が深刻化し、人々の暮らしや企業の事業活動に影響を与え始めています。このような状況の中、不二製油グループは地球上で活動を行う社会の一員として、国連のSDGsで提唱される「持続可能な社会」に賛同し、経済的価値を創出するだけでなく、地球環境に配慮した事業活動に取り組むことが必要であると考えています。当社グループは食品製造業である性質上、事業プロセスにおけるCO2排出や水使用・廃棄物といった領域において環境に影響を及ぼし得ることを認識し、以下4項目から成る「環境基本方針」を定めています。

環境基本方針

1. 環境保全活動の継続的な改善に努める。
2. 環境関連の法およびその精神を順守する。
3. 環境に配慮した製品開発・技術開発に努める。
4. 社会とのコミュニケーションに努める。

目標

新環境ビジョン2030の策定

近年、気候変動・地球温暖化問題に関連するパリ協定や、SDGsに代表される体系的な考え方が整備されてきています。国際社会における環境保全活動への取り組みは加速しており、当社グループとしても、社会の一員として国際社会の目指すパリ協定の実現に貢献したいと考えます。その為、2010年に掲げた「環境ビジョン2020」の進捗状況と設定目標の妥当性を考慮分析の上、2030年を目標とした新たなビジョン「環境ビジョン2030」を2018年度に策定しました。今後は、「環境ビジ

「環境ビジョン2020」に代わり更に高い水準での環境への貢献を目指す目標として、「環境ビジョン2030」の達成に向け環境保全活動を推進していきます。

旧目標：不二製油グループ環境ビジョン2020

国内グループ	
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量 2020年20%低減（基準年*対比）
水資源の保全	給排水量 2020年20%低減（基準年*対比）
資源リサイクル	再資源化率2020年99.8%以上
地球緑化、生物多様性への積極的取り組み	

* 基準年：2003～2005年平均値（東京都方式）

海外グループ	
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量 2020年20%低減（基準年*対比）

* 基準年：2006年

新目標：環境ビジョン2030

① CO ₂ 排出量の削減・・・2030年に総量で24%減（基準年：2016年）
② 水使用量の削減・・・2030年に原単位で20%減（基準年：2016年）
③ 廃棄物量の削減・・・2030年に原単位で10%減（基準年：2016年）
④ 資源リサイクル・・・再資源化率99.8%以上

* ①～③は不二製油グループ全体、④は日本に適用

進捗

国内グループ

	目標	2018年の実績	達成率
--	----	----------	-----

	目標	2018年の実績	達成率
CO ₂ 排出量の削減（グループ全体）	2030年に総量で24%削減（基準年*対比）	14.1%削減	59%
水使用量の削減（グループ全体）	2030年に原単位で20%削減（基準年*対比）	14.1%削減	71%
廃棄物量の削減（グループ全体）	2030年に原単位で10%削減（基準年*対比）	1%増加	0%
資源リサイクル（国内）	2030年まで再資源化率99.8%以上を維持	99.33%	未達成

* 基準年：2016年

推進の仕組み

グループ環境マネジメント体制

不二製油グループでは、グループ憲法において「安全と品質、環境」を全従業員が行動する上で持つべき価値観として表明し、そのもとで「環境基本方針」を定め、事業活動における実行と環境への意識向上活動をグループ全体で推進しています。

不二製油グループ本社ではESG経営を推進すべく、取締役会の諮問機関としてESG委員会を定期的に開催しています。ESG委員会の中で、環境を含めたESGに係る重要事項を審議し、取締役会に提言・具申しています。

そして、2018年度は最高品質責任者（CQO）を環境分野の最高責任者として、グループ全体の取り組みを推進しました。

各グループ会社において毎年の環境目標・KPIを設定して活動を進め、不二製油グループ本社の生産性推進グループが、各社における推進を専門的知見から支援しています。

教育・啓発活動

安全・品質・環境に関する専門知識をもつ戦略立案組織として、不二製油グループ本社 生産性推進グループを設置しています。生産性推進グループが定期的にグループ会社を訪問し、安全・品質・環境に関する教育や啓蒙活動を実施しています。

また、海外グループ会社の経営層に対しては、テレビ会議を活用して環境ビジョン2030等の理解浸透活動を行っています。

従業員へのインセンティブ

事業活動を通じて社会に貢献する優れた取り組みを行った部門・グループ会社を評価する目的で、2016年度以降、表彰制度「経営賞」の中に「安全品質環境の部」を設けています。年1回、グループ会社の中から優秀な結果を残した会社および部門を表彰しています。

マネジメント認証の取得

ISO14001認証の取得

不二製油グループでは、法令の順守や環境保全活動を推進することによる社会的信頼向上のために、環境マネジメントの国際規格であるISO14001：2015年版の認証を取得しています。

生産拠点を有する国内連結会社8社中、国内の最大生産量を担う不二製油（株）をはじめ、3社で取得しています。これら3社の生産量の国内グループ生産量に占める割合は約96%です。製造拠点を有する海外連結子会社は15社中7社で取得しています。

最新のISO14001取得状況は下記ウェブサイトをご覧ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/authen/iso14001/>

監査

環境監査

ISO14001に基づく「外部審査」に加えて、グループ各社の生産管理向上を目的として、安全・品質・環境の「内部監査」を実施しています。

2018年度は、国内グループ会社66部署が「外部審査」および「内部監査」を受審しました。ともに不適合は指摘されませんでした。また、海外では6社において「内部監査」を実施しました。

内部監査では、環境規程および環境関連法規制に基づく活動状況の確認にとどまらず、なぜそれが重要なのかを説明しながら進めています。監査を通じてグループ各社の取り組みを検証、評価し、改善すべき点を助言することにより、環境保全活動の推進、改善・向上を図っています。

環境に関する重大な違反および措置

2018年度は、不二製油グループにおいて環境分野に関する重大な違反はありませんでした。

外部からの評価

- CDPの気候変動質問書2018においてBリストの評価を得ました。
- CDP森林質問書2018において、日本で初めてAリスト入りを果たしました。

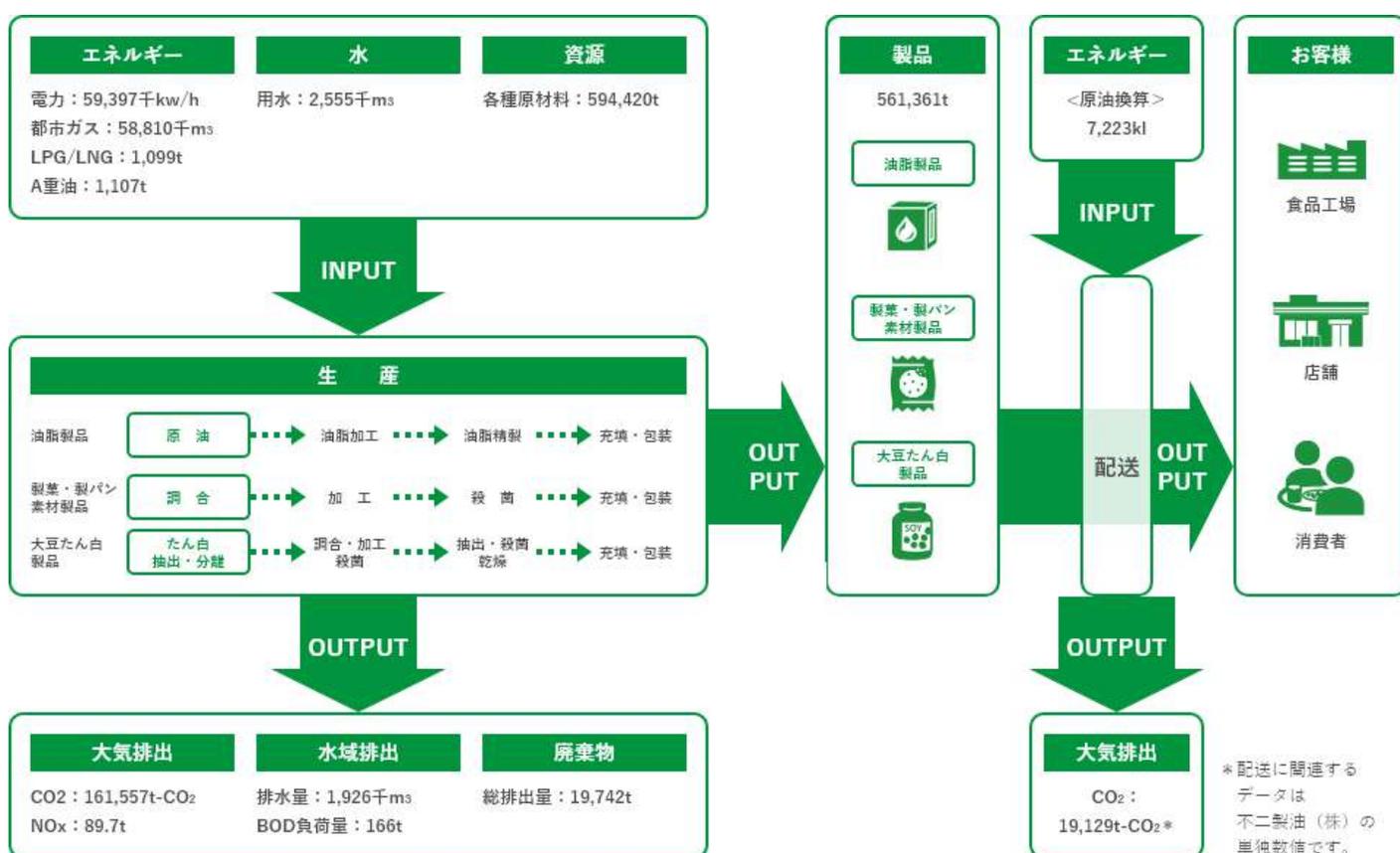
- DBJ（日本政策投資銀行）環境融資において、最高評価を得ました。
- 工場・事業所における省エネ定期報告書において、4年連続で最高ランクである省エネ優良事業者（Sクラス）の評価を得ました。

データ

環境負荷の全体像（INPUT／OUTPUT）

不二製油グループでは、事業活動に伴って発生する環境負荷を低減するため、原材料の調達から生産、物流における資材・エネルギーの投入量（INPUT）、廃棄物等の排出量（OUTPUT）を把握し、分析しています。

国内グループ会社の事業活動に伴う環境負荷の全体像（2018年度）



環境監査（内部環境監査、外部審査）の実績（国内グループ）

（単位：部署）

		内部環境監査	外部審査
2014年度	不適合	0	0
	観察事項	79	6

		内部環境監査	外部審査
2015年度	不適合	0	0
	観察事項	67	6
2016年度	不適合	0	0
	観察事項	54	8
2017年度	不適合	0	0
	観察事項	26	5
2018年度	不適合	0	0
	観察事項	59	7

* 2017年度は阪南事業所やつくばにある研究所をそれぞれ1つとして監査、合計56部署で監査を行いました。2018年度は、さらに詳細に監査を行うため、研究所の各課毎に監査を行ったことで、合計66部署に増加しました。

環境会計

環境会計は、環境省「環境会計ガイドライン2005年度版」に準拠して、環境保全に要したコストとその効果を集計しました。

集計対象

不二製油株式会社（単独）

対象期間

2018年4月～2019年3月

算定方法

投資額：投資目的の50%以上が環境保全であるものは、全額環境投資とみなしました。

減価償却費：投資目的の50%以上が環境保全であるものを過去6年間にさかのぼり、一律10年間の定率償却としました。

直接把握が可能な費用については、原則として全額を集計しました。直接把握が困難な費用については、実態に即した比率で按分計算し、集計しました。

環境保全対策に伴う経済効果については、把握可能な効果のみを集計しました。

環境保全コスト

（単位：百万円）

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	エネルギー使用量原単位	L/t	158.7	153.4	149.1	152	148
	給水量	千m ³	2,759	2,845	2,859	2,713	2,555
	給水量原単位	m ³ /t	5.16	5.16	4.90	4.83	4.46
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	CO ₂ 排出量原単位	kg- CO ₂ /t	309	300	291	299	282
	排水量	千m ³	1,993.00	2,073.00	2,069.00	1,969.00	1,925.66
	排水量原単位	m ³ /t	3.73	3.60	3.54	3.51	3.36
	廃棄物排出量	/t	18,456	18,439	19,850	18,529	19,742
	廃棄物排出量原単位	kg/t	21.7	12.4	17.0	33.0	34.5
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	廃棄物再資源化率	%	99.96	99.97	99.94	99.96	99.33

* エネルギーの換算係数など、集計方法の見直しにより、前年報告値と異なっているところがあります。

環境保全対策に伴う経済効果

(単位：百万円)

環境保全効果の分類	効果の内容	金額				
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
収益	廃棄物再資源化による有価物の売却益 (おから、廃油、廃段ボール売却)	18	20	21	14	30
費用節減	廃棄物の削減によるコストダウン	173	176	156	164	158
合計		191	196	177	177	188

サステナビリティ

CO₂の排出削減

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ データ

考え方

パリ協定の発効以降、気候変動・地球温暖化問題への取り組みの重要性が更に認識されています。食品製造業である当社グループは、工場の操業等のプロセスにおいてエネルギーを使用することから、CO₂を排出しています。社会の一員としてパリ協定の達成に貢献するための積極的な取り組みを進めることで、気候変動の緩和・地球温暖化の防止に貢献します。当社グループが環境ビジョン2030で掲げるCO₂削減の目標は、SBT（Science Based Target）の考え方に沿って策定しました。今後は、SBT認定の取得も視野にいています。生産現場での省エネ活動を引き続き行うことはもとより、エネルギー使用量の少ない新設備の導入や再生可能エネルギーの使用により、CO₂排出量の削減を推進していきます。

目標

2030年に総量で24%削減（基準年：2016年）

進捗

2018年度の不二製油グループのCO₂排出量

目標	実績	達成率
2030年に総量で24%削減	14.1%削減	59%

* 2018年7月及び2019年1月にグループ会社となりましたIndustrial Food Service社（オーストラリア1工場）及びBlommer Chocolate Company社（アメリカ3工場、カナダ1工場、中国1工場）のデータは含んでおりません。

2018年度の国内グループ会社のCO₂排出量は161,557t-CO₂となり、前年度比96.4%と減少しました。海外グループ会社のCO₂排出量は277,097t-CO₂となり、前年度比91.3%と減少しました。主な要因は以下となります。

- 不二製油株式会社（日本）の堺工場を閉鎖、また、石川工場を譲渡しました。
- 不二製油株式会社（日本）にて、一部の冷凍機を省エネタイプに更新しました。
- 不二製油株式会社（日本）にて、油脂の生産設備の一部を効率の良い設備に更新しました。
- 吉林不二蛋白有限公司（中国）の譲渡に伴い、2018年8月に生産活動を終了しました。
- 山東龍藤不二食品有限公司（中国）にて、空調設備見直しによる熱効率化、フライヤー設備の断熱強化、蒸気配管の集約等を行いました。
- 不二製油（張家港）有限公司（中国）にて、エアコンプレッサーの統合を行いました。
- 2018年7月より稼働を開始した不二製油（肇慶）有限公司（中国）では、太陽光による温水作成設備を設置しました

不二製油（肇慶）有限公司の太陽光による温水設備



トピックス「CDPへの参画」

不二製油グループでは、気候変動への対応に関する情報開示の重要性を認識し、2016年度より、CDP「気候変動」質問書への回答を行っています。

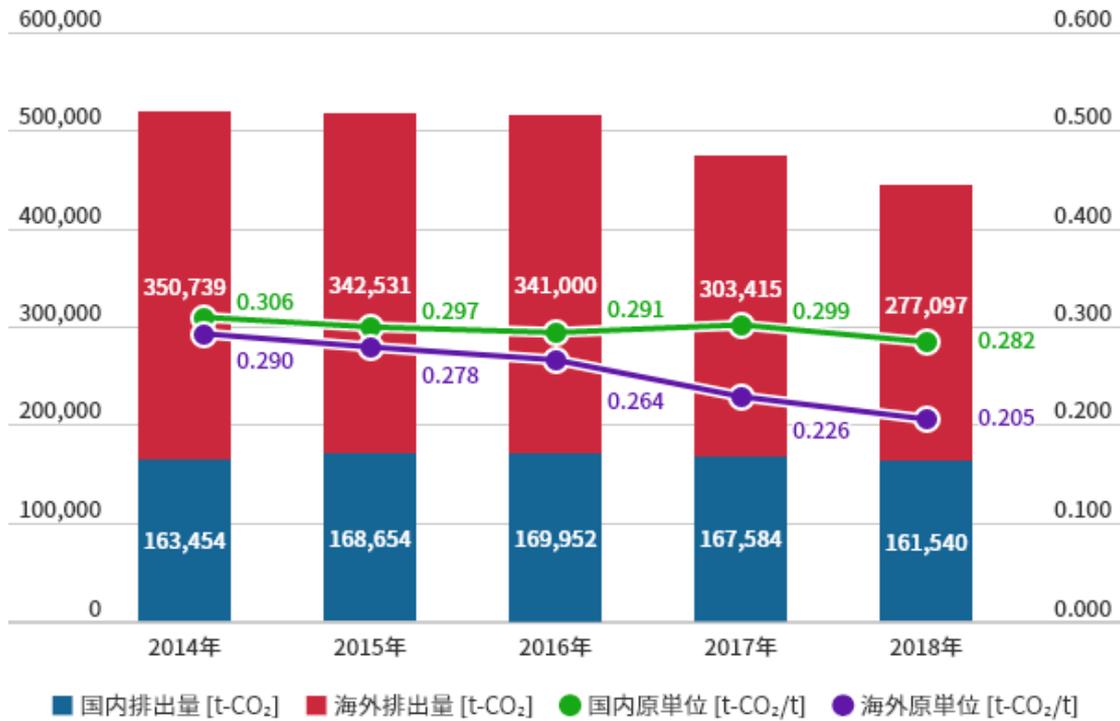
2018年度の当社グループの回答は、CDPのWEBサイトよりご参照頂けます。（日本語のみ）

▶ <https://www.cdp.net/ja> 

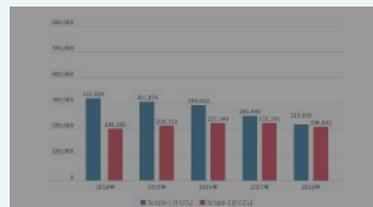
*参照にはCDPへのアカウント登録が必要です。

温室効果ガス排出量

エネルギー使用量（CO₂排出量換算）と原単位推移



エネルギー使用量（CO₂排出量換算）と原単位推移



不二製油グループ Scope-1、2エネルギー使用量（CO₂排出量）

* Scope 1 および2での全CO₂排出量の70%以上において第三者検証を得ています。

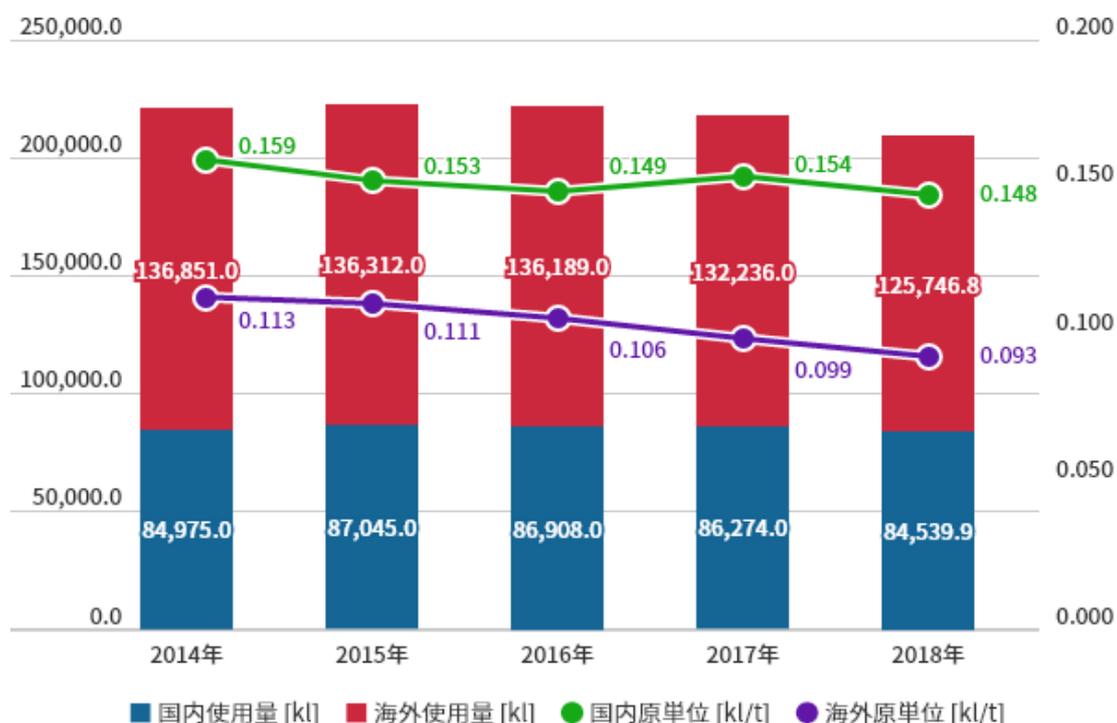
CO₂排出係数の出典

	国内	海外
燃料	「温室効果ガス排出量・報告マニュアル」	「温室効果ガス排出量・報告マニュアル」 北米：US EPA

	国内	海外
電気	「温室効果ガス排出量・報告マニュアル」 サプライヤー別の係数	IEA「CO ₂ Emission from Fuel Combustion」 による国別の排出係数 北米：US EPA

エネルギー消費量

エネルギー使用量（原油換算）と原単位推移



燃料消費量

2018年

(単位：kl)

	軽油	重油	LPG	LNG	石炭	都市ガス	再生可能エネルギー
国内	0	960	908	573	0	65,343	12
海外	511	81	896	32,371	11,042	5,006	26
合計	511	1,041	1,804	32,944	11,042	70,349	38

総電力消費量

2018年

(単位：MWh)

	総電力量	自社で生産した電力量
国内	168,166	108,769
海外	192,321	0
合計	360,487	108,769

水使用量の削減

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 具体的な取り組み
- ④ データ

考え方

不二製油グループでは当社製品の原料として調達する農作物の生産や製造行程での蒸気の使用等において、水を使用しています。
社会の一員として、限りある水資源を持続的に使用するために、水使用量の削減活動をすすめています。

目標

2030年に原単位で20%削減（基準年：2016年）

進捗

2018年度の不二製油グループの水使用量の削減

目標	実績	達成率
2030年に原単位で20%削減	14.1%削減	71%

* 2018年7月及び2019年1月にグループ会社となりましたIndustrial Food Service社（オーストラリア1工場）及びBlommer Chocolate Company社（アメリカ3工場、カナダ1工場、中国1工場）のデータは含んでおりません。

2018年度の国内グループ会社の水使用量は2,555千m³となり、前年度比94.2%と減少しました。原単位は前年度比92.7%と減少しました。排水量は1,926千m³となり、前年度比97.8%と減少しました。海外グループ会社では水使用量は2,163千m³となり、前年度比90.4%と減少しました。原単位は前年度比89.6%と減少しました。排水量は1,037千m³となり、前年度比92.9%と減少しました。

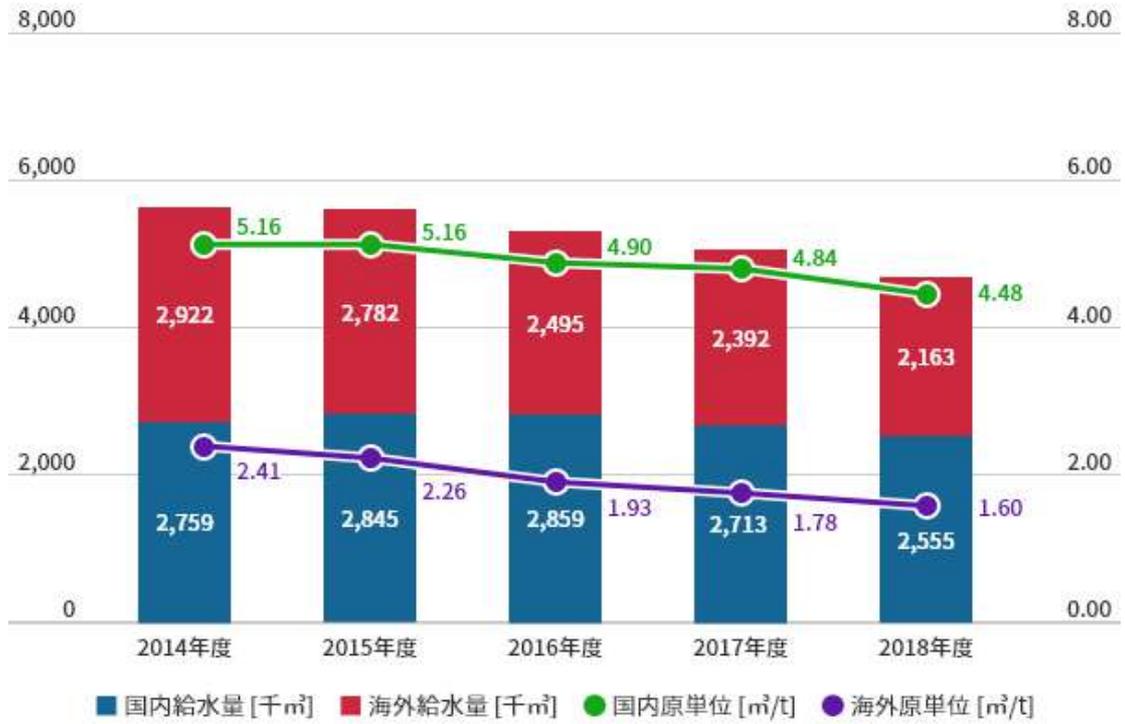
主な要因は、吉林不二蛋白有限公司（中国）の譲渡に伴い、2018年8月に生産活動を終了したことです。

具体的な取り組み

水資源不足が危惧される事業地域での取り組み

不二製油グループでは、水資源不足が危惧される事業地域において、給水量・使用量を低減するための取り組みを行っています。例えば、中国の一部のグループ会社においては、操業地域の水資源不足が危惧されることから、雨水を貯蔵するためのタンクを設置しました。給水量の低減とともに、水資源枯渇時の事業継続という観点から効果が期待されています。

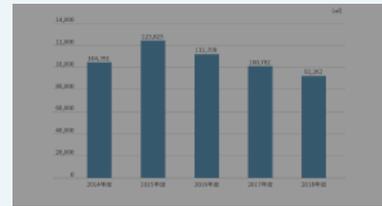
年間給水量と原単位推移



年間給水量と原単位推移



年間排水量と原単位推移



不二製油（株）阪南事業所における水再生利用量

廃棄物の削減

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 食品リサイクルの取り組み
- ④ データ

考え方

製造業として、廃棄物の削減に取り組むことは事業活動に必要な資材やエネルギー資源を効率的に活用することにつながり、CO2の排出量削減や水の使用削減等、環境保全全般に渡り寄与すると考えています。また、食品製造業として、食品廃棄削減に努めることが重要であると考え、賞味期限の延長や食品廃棄物のリサイクルを推進しています。

目標

2030年に原単位で10%削減（基準年：2016年）

進捗

2018年度の不二製油グループの廃棄物量の削減

目標	実績	達成率
2030年に原単位で10%削減	1%増加	0%

* 2018年7月及び2019年1月にグループ会社となりましたIndustrial Food Service社（オーストラリア1工場）及びBlommer Chocolate Company社（アメリカ3工場、カナダ1工場、中国1工場）のデータは含んでおりません。

2018年度の国内グループの再資源化率

目標	実績	結果
2030年まで99.8%以上を維持	99.33%	未達成

国内グループ会社では、2018年度の廃棄物量は19,742トンとなり、前年度比106.5%と増加しました。廃棄物原単位は前年度比104.9%と増加しました。大阪北部地震の影響による製品廃棄や台風21号の影響によるタンク断熱材の落下等により廃棄物量が増加しました。海外グループ会社では2018年度の廃棄物量は23,222トンとなり、前年度比84.4%と減少しました。廃棄物原単位は前年度比83.7%と減少しました。

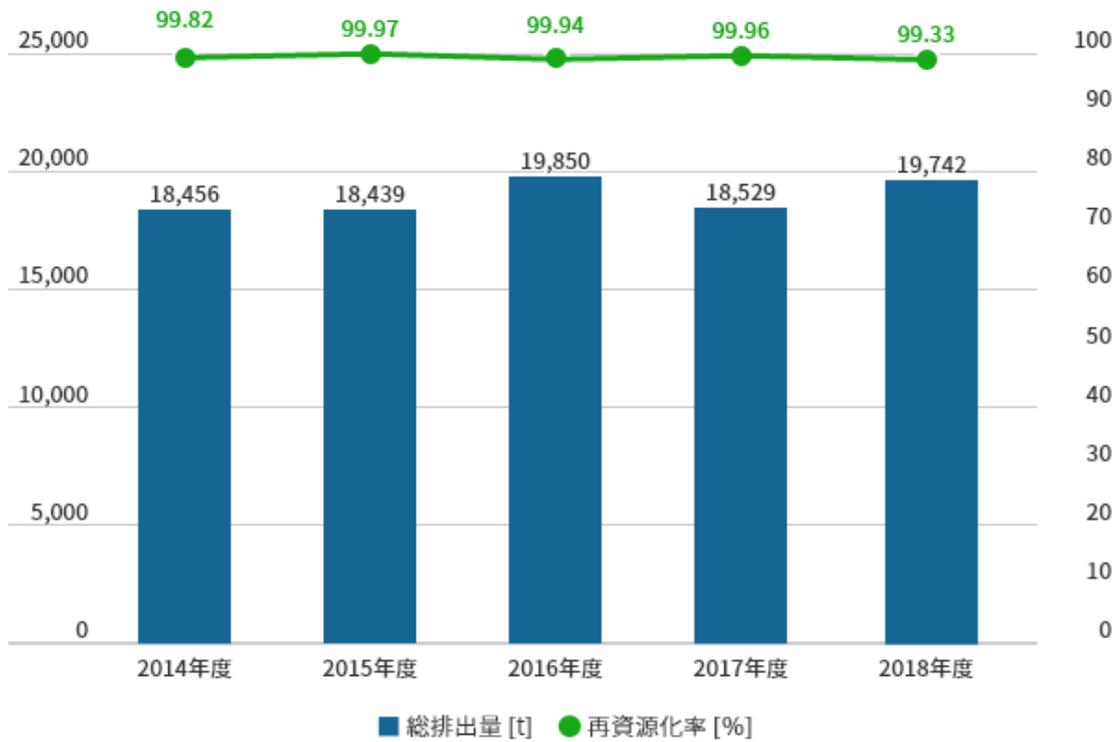
食品リサイクルの取り組み

国内グループ会社では「食品リサイクル法」に基づき、食品廃棄物の再利用に取り組んでいます。国内グループ会社での食品廃棄物の発生量は、2018年度は約32,332トンとなり、前年度に比べ約605トン減少しました。リサイクル率は昨年より2ポイント減少し97.5%となっています。これは、大阪北部地震において倉庫が被災し、一部製品の廃棄が発生した等の影響によります。

同法が食品製造業界に対して設けている目標は「食品循環資源の再生利用等（食品リサイクル）の実施率85%以上」ですが、不二製油グループでは目標設定当初の2007年度から97.3%以上の高い実施率を達成し、その後も維持し続けています。この水準を今後も維持すべく、取り組みを続けていきます。

廃棄物排出量（食品及びその他廃棄物）

国内グループ会社廃棄物総排出量と再資源化率



国内グループ会社廃棄物総排出量と再資源化率



海外グループ廃棄物総排出量と原単位

包装材の削減

CONTENTS LIST

- ④ 包装材の環境負荷低減に向けた取り組み

包装材の環境負荷低減に向けた取り組み

商品の容器包装には、お客様のお手元に安全・安心な状態で届き、「商品の品質を守る」という大切な役割があります。しかし、お客様のご使用後には多くが廃棄物になるのも事実です。

不二製油（株）では、容器包装の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を基本的な考え方として推進しています。中でもリデュースに向けた取り組みを強化しています。例えば、一部製品の包装にプラスチックを使用していますが、プラスチックの使用については、薄膜化による使用量削減を図っています。また、段ボールケースを封函する樹脂系テープから紙製のクラフトテープへの切り替えも推進中です。この他にも、小型容器からリユース可能な大容量容器へと切り替えて使用するなど、さまざまな施策を推進しています。今後も、包装材の削減・見直しを図ることで、生産・輸送工程における環境負荷低減に積極的に取り組んでいきます。

サステナビリティ

生物多様性

CONTENTS LIST

- ① 事業活動が生物多様性に及ぼし得る潜在的影響
- ② 生物多様性に関する取り組み

事業活動が生物多様性に及ぼし得る潜在的影響

不二製油グループは、食品製造業である特性上、原材料調達や生産活動が生物多様性に影響を及ぼし得ることを認識しています。具体的には原材料（農作物）の生産地による生物多様性の減少や、生産活動の結果排出される水などが操業地域の生物多様性に影響を与える可能性があります。これらの点を認識し、生物多様性に及ぼし得る負の影響を低減することに努めています。

生物多様性に関する取り組み

生物多様性に配慮した調達

農作物を基幹原料としている不二製油グループは、生物多様性の保全のための取り組みを積極的に推進するべきと考えています。農地の開拓による生物多様性の損失が問題とされているパームに関しては、「責任あるパーム油調達方針」において森林破壊ゼロの調達を目指すことを宣言しています。搾油工場までのトレーサビリティ追求やサプライヤーへのエンゲージメントを通して、リスクの把握と低減に努めています。また、パーム小規模農家への教育支援プロジェクトでは、豊かな生物多様性があるマレーシアのサバ州・キナバタンガン地域の小規模農家の生産性を改善することで、農地開拓による森林破壊や化学薬品による河川汚染を防止し、生物多様性の保全に寄与しています。

「責任あるパーム調達方針」と小規模パーム農家への支援活動については「サステナブル調達」をご覧ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/sustainable/>

サステナビリティ

人づくり

特に貢献を目指すSDGs



2018年度活動報告

人材育成 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／グローバル人材育成／マネジメント層の育成／キャリア支援体制

【データ】

- 2018年研修費用総額
- 従業員一人当たり研修費
- 採用者数の推移
- 正社員総離職率の推移
- 正社員自己都合離職率の推移
- 勤続平均年数

[詳しく見る](#) →

ダイバーシティの実現 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／日本におけるダイバーシティ推進／働き方改革／外部評価／労使間の対話

【データ】

- 各種制度の利用
- 男女別制度利用者数
- 年次有給取得率
- 従業員データ
- 地域別従業員数
- 従業員数内訳（2019年3月末時点）
- 管理職数
- 不二製油（株）女性管理職比率
- 不二製油グループ本社 取締役数（2019年3月末時点）
- 再雇用
- 障がい者雇用

[詳しく見る](#) →

サステナビリティ

人材育成

CONTENTS LIST

- ④ 考え方 ④ 目標 ④ 進捗 ④ 推進の仕組み
- ④ 具体的な取り組み
 - グローバル人材育成 ● マネジメント層の育成 ● キャリア支援体制
- ④ データ

考え方

不二製油グループでは、事業を取り巻く環境のあらゆる変化に対応し社会に貢献し続けるために、その変化に柔軟に対応しうる組織づくり、人づくりが重要だと考えています。そのため、個々が自律して能力を向上させるための教育支援をはじめ、組織強化のためのマネジメント層の育成、事業のグローバル化を支える人材育成などに力を入れています。

社会に価値を創造する要は人材だと考えています。従業員と会社は互いに成長し支え合う存在であるという考えのもと、「人材に関する方針」を定めています。

人材に関する方針

1. 意欲のある社員に、イキイキと能力を発揮できる職場を積極的に提供します。
2. グローバル企業として、多様な人材が活躍できる環境を整えます。
3. 公平・公正な人事制度（評価／処遇／育成）を構築・運営します。
4. 教育・研修制度を充実させ、自己啓発を支援する風土づくりに努めます。
5. 多様な働き方を支援し、安全で働きやすい職場を提供します。

目標

2020年にはグローバル人事体制の基盤を築き、グローバル、そして各エリアで活躍するポテンシャルのある人材の可視化と育成を行っている状態を目指しています。

進捗

2018年度は前年度に引き続き「グローバル人材の育成」と「マネジメント層の育成」に重点的に取り組みました。不二製油(株)では、14名のグローバル人材を選定し教育訓練に取り組むとともに、新任管理職に対してマネジメント能力開発のための研修を実施しました。

推進の仕組み

推進体制 グローバル人事フレームワークの構築

不二製油グループが、グループ各社の役員および従業員が従うべき行動の原理原則である「グループ憲法」の実践を通して社会に貢献し続けるために、グループ各社が2019年度の「グループ憲法実践目標」を定めコミットしています。また、グループ憲法に関する社内ワークショップなどを通じて、それぞれの地域や国の文化・慣習を軸に、自分に実践できることは何かを議論し、各社の方向づけなどに役立てています。また、当社グループ全体での人材活用や育成の重要性が増す中で、幹部候補人材の可視化、選抜、育成、配置などグローバル人事体制を構築するために、まずは幹部候補人材へのヒアリングを進めています。

<グループ憲法 ワークショップ受講者の声>

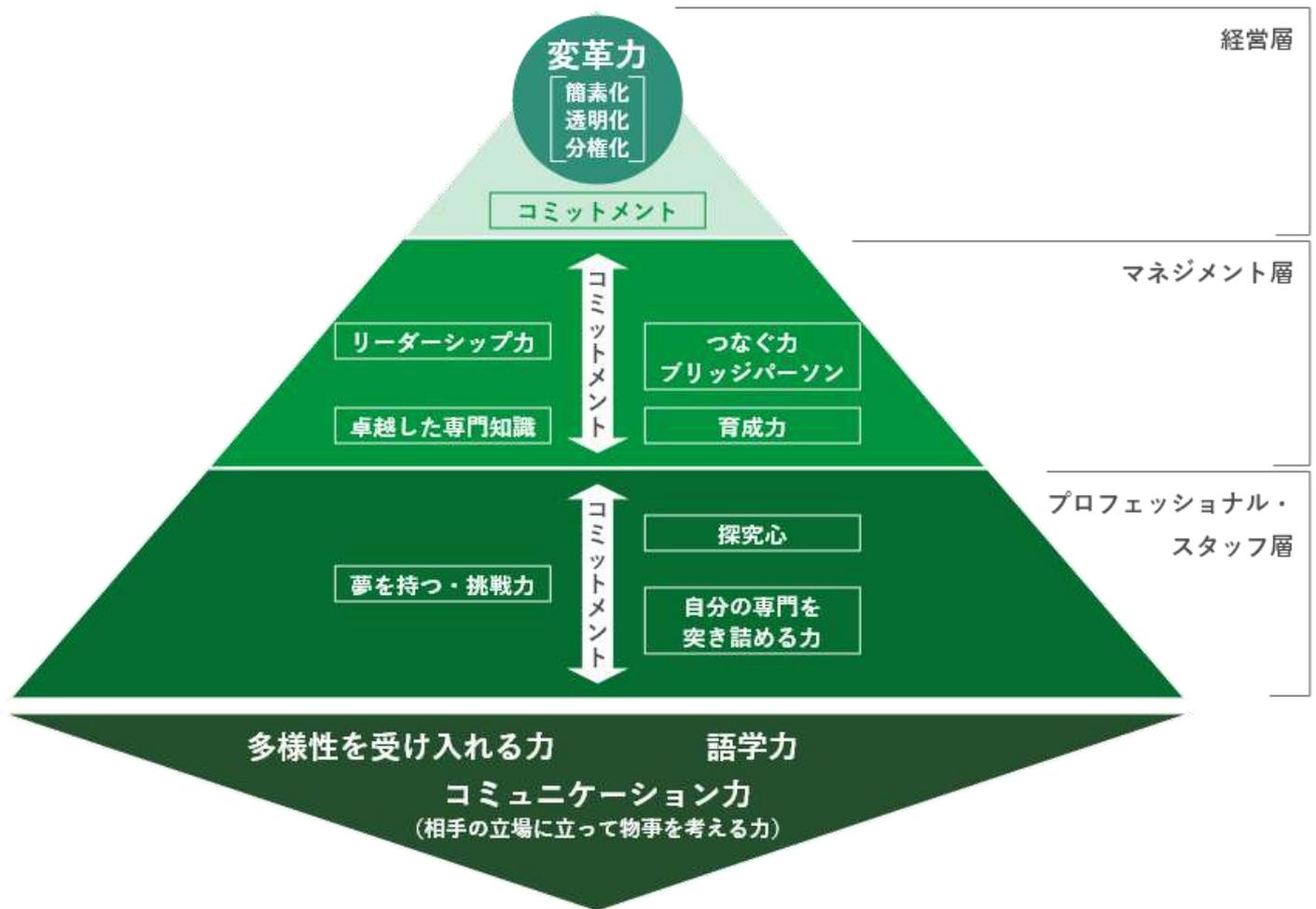
- 「安全と品質、環境」を守ることはもちろん、会社の理念を取引先やお客様に伝えていく責任があります。お客様と直接関わる販売担当は、特にその役割があると思います。(ブラジル)
- 「人のために働く」は全てを包括する考え方だと思います。自分自身が安全であること、高品質の製品を作ること、環境を守ること、新技術を生み出すこと、地域社会に貢献すること。全てが「人のために働く」ことにつながっていると考えます。(アメリカ)

具体的な取り組み

グローバル人材育成

中期経営計画の人事戦略において、グローバル人材育成を掲げています。「人の成長が企業の成長につながる」との考えに基づき、グローバルに力を発揮できる人材の登用・育成を目指して、取り組みを推進しています。

不二製油グループが求めるグローバル人材の力



国内外を問わず、常に高いパフォーマンスを発揮できるグローバル人材を育成するため、不二製油（株）では2016年度から新たな取り組みとして、グローバル人材育成研修を実施しています。約6カ月間にわたり、グローバル・コミュニケーション、MBA知識、リーダーシップスキル、語学力（英語）などのトレーニング、および経営幹部に向けたプレゼンテーションを行うプログラムです。2018年度の研修では、海外勤務経験者および予定者、グローバルな取引先と仕事をするメンバーなど、計14名が参加しました。キャリアパスによる育成と連携させることで、グローバル幹部育成につなげていきます。



グローバル人材育成研修（日本）

<グローバル人材育成研修 2018年度受講者の声>

不二製油グループ本社 グローバルタレント・ストラテジー グループ所属
本研修プログラムでは、グローバル・コミュニケーションの本質や、英語での電話会議やプレゼンテーションなど実際の業務を想定した実践的なビジネススキルを学ぶことができました。グローバル人事業務では、海外グループ会社の人事担当者との協働や海外人材との面談なども多くあり、今回の学びが様々な場面で活かしています。今後も実践を通じて、研修で学んだノウハウを全社グローバル人材育成に還元できるよう努めていきます。

■ マネジメント層の育成

将来のマネジメント層の早期育成を図るべく、2016年度からアセスメントを取り入れた研修を実施しています。本研修を通じて、マネジメントのあるべき姿を認識するとともに、各自が自身の課題と強みを客観的に把握します。受講後においても上司や人事部を交えたフィードバック面談やOJT計画の立案から振り返りまで行うなど、周囲が育成に深く関わりながら実行することで、確実な成長につなげていきます。

フジ オイル ヨーロッパ社での人材育成プログラム（ベルギー）

不二製油グループのグループ会社であるフジ オイル ヨーロッパ社では、2016年度にチームの業務改善を実現するためにリーダーシップ・プログラムを開発しました。

プログラムの目的は、従業員の「レジリエンス（環境変化への適応能力）」をサポートし、より高めていくことで、複雑で変化の激しい世界を生き抜いていける強い組織を作ることです。

この一連のプログラムは、「DISCモデル」という行動特性分析ツールを利用して自身のリーダーシップスタイルを把握することから始まります。認識可能で適応性のある「行動特性」を把握し、自身が力を発揮する最もよい環境と方法を見出すことで、行動変容を促すことができます。また、自身のリーダーシップスタイルを理解し、共通言語化することは、自己と他者への理解を深め、チーム内のコミュニケーション向上に役立ちます。

今後もフジオイル ヨーロッパ社では、各部門でこのプログラムを継続して取り組み、従業員のモチベーションを高めていきたいと考えています。

キャリア支援体制

不二製油グループ本社（株）および不二製油（株）では、役員、管理職、一般社員、新入社員などの階層別研修や通信教育受講者への補助金制度を実施し、従業員のスキルアップを支援しています。また、各自が年に一度、キャリアのたな卸しと今後のキャリア展望を可視化した「キャリアアップコミュニケーションシート」をもとに年1回上司と面談することによって、従業員のキャリア育成、および適正配置による活躍の場の提供を促進しています

不二製油（株）研修体系図（2018年度）



階層 等級	新入社員			中堅社員				管理職
	非正社員	9等級	8等級	7等級	6等級	5等級	4等級	管理職
階層別	入社時研修	新入社員フォローアップ研修 新入社員入社時研修	業務内容調査表 (7・8等級昇格)	職場キーマン 研修 (9等級昇格)	生産 マイスター (5等級昇格)	マネジメント 基礎 試験+実技 (4等級昇格)	人事情報交換会 新任者研修	経営人材育成研修 役員研修
							リーダーシップ 開発研修	
目的別					58～59歳：セカンドライフセミナー			
						海外赴任時研修		
							グローバル人材育成研修	
								【語学力強化】TOEIC社内受験
その他								若手女性のキャリアイメージ育成研修
								仕事・育児両立セミナー
								管理職向け研修
							多様な働き方に関する研修	
								通儀教育 ※ 公的資格奨励金（昇格試験に関わる推奨講座もあり）
								安全衛生教育
								各部門主催の研修

研修の注釈
 ※研修必須
 ※任意参加
 ※自己啓発
 ※2018年度
 ※グループ会社展開

従業員意識調査

従業員が健康でイキイキと各自が持つ力を最大限発揮できる職場づくりを目指して、不二製油グループ本社（株）および不二製油（株）では従業員意識調査を定期的に行っています。働いている職場の環境や制度など、広範な観点から率直な意見を寄せてもらうことで、さまざまな施策の参考として役立てています

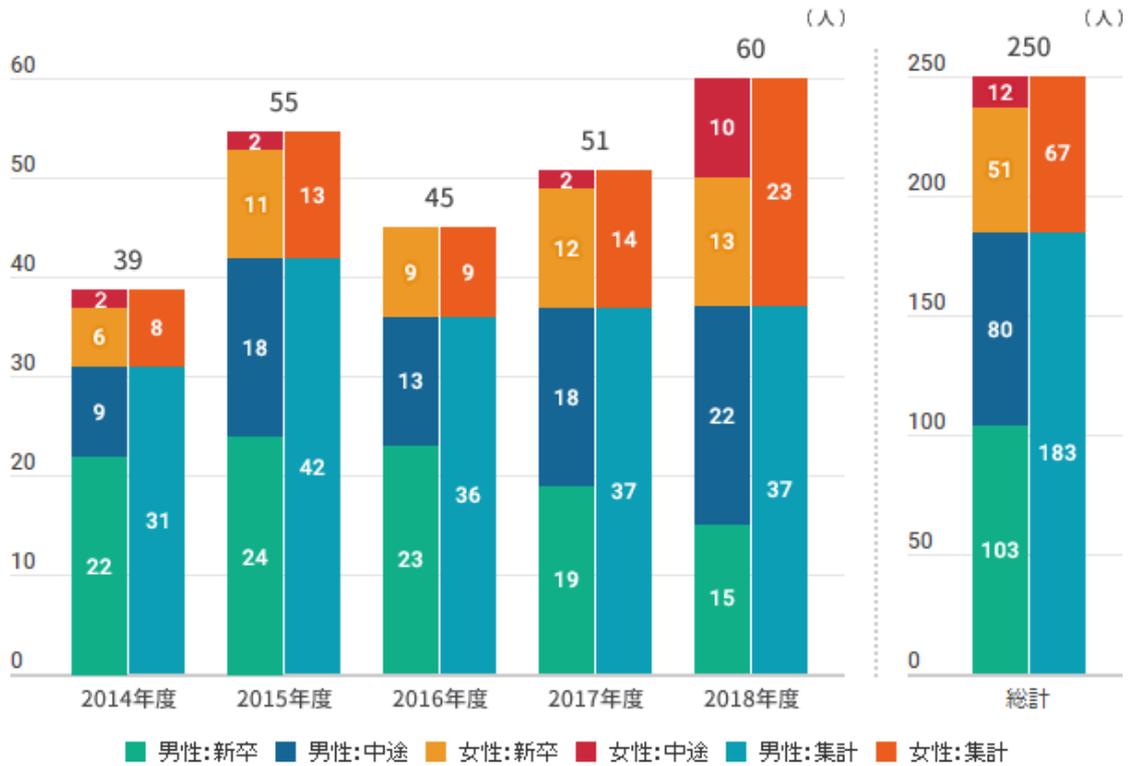
データ

人材育成に関する費用

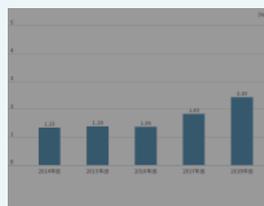
2018年研修費用総額（不二製油グループ本社（株）＋不二製油（株））	約25,858千円
従業員一人当たり研修費（不二製油グループ本社（株）＋不二製油（株））	約20,170円

採用と離職

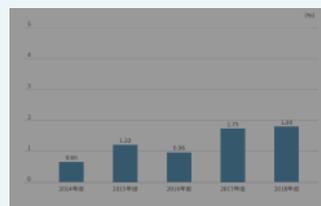
採用者数の推移



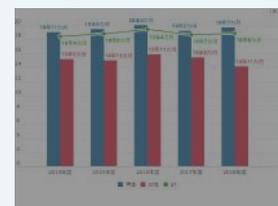
採用者数の推移



正社員総離職率の推移



正社員自己都合離職率の推移



勤続平均年数

* 2015年以降は不二製油グループ本社および不二製油株式会社の総計です。

* 2014年はグループ本社化前の不二製油株式会社の実績です。

サステナビリティ

ダイバーシティの実現

CONTENTS LIST

- ④ 考え方 ④ 目標 ④ 進捗 ④ 推進の仕組み
- ④ 具体的な取り組み
 - 日本におけるダイバーシティ推進 ● 働き方改革 ● 外部評価 ● 労使間の対話
- ④ データ

考え方

グローバルに事業活動を展開する不二製油グループにとって、人材の属性・価値観の多様性を尊重することは重要な社会的責任です。また、社会価値が絶えず変化の中で、食品素材メーカーである当社グループがCSRを果たし続けるためには、社会の変化を把握し、社会課題解決に寄与して価値を提供することが必要です。問題（顕在ニーズ）に対応する取り組みだけではなく、近年急激に変化する社会を先読みし、取り組むべき課題（潜在ニーズ）をひろい出し、対応していく創造性が今後ますます重要となります。単一な集団の中での創造性には限界があります。多様な人材が価値観と個性を発揮できることは、当社グループが持続可能な社会に対して価値を創造し続けるための源泉になると考えています。当社グループでは、グループ各社の役員および従業員が従うべき行動の原理原則である「不二製油グループ憲法」の中で「人のために働く」という価値観を掲げています。これは、仕事をするうえで対峙する人の立場に寄りそって考えるということを意味し、当社グループがダイバーシティを活かし、社会への価値提供を促進するための基本となる考え方です。

不二製油ダイバーシティ基本方針

多様な人材を幅広く求め、それぞれが持てる能力を最大限に発揮できる風土を醸成することで、社会への新たな価値提供を加速していきます。

1. 採用、育成、登用などの人材発掘の全段階において、人員構成の多様性を意識します。
2. 多様な人材がそれぞれの能力を最大限に発揮できるよう、柔軟性のある制度展開を行います。
3. 多様な人材の戦略的な活用を意識し、社会および会社への利益貢献へとつなげます。

目標

2020年 女性管理職比率20%*（日本）。

2020年 高齢者や障がい者など多様な従業員がイキイキと就労できる環境整備がなされている状態（日本）。

*2016年度以降、「2020年 女性管理職比率20%（日本）」を目標に据え、女性従業員の活躍を推進してきました。2019年4月現在の女性管理職比率は10.53%まで増加したものの、その達成見通しが困難である状況であることから、2019年度中に目標の見直しを行います。高い水準の目標を掲げたことで社内の意識改革は進んだものの、絶対数の確保・候補者の育成・女性のキャリア継続支援・職場における理解促進等の観点から課題認識を得ています。

SDGsにも掲げられる、「ジェンダー平等」を達成するというステークホルダーの長期的期待に基づき、2019年度中に、「①ダイバーシティに関する考え方の再定義②グループ会社の経営層を含めたダイバーシティの推進体制の確立③各エリアにおけるダイバーシティ課題の抽出と中期ロードマップ・目標の再策定」を行う予定です。

進捗

2018年度は、ダイバーシティ分野での重点エリアと位置付けている日本において、多様性を活かすための基盤構築を進めました。具体的には、不二製油(株)におけるテレワークのテスト導入など、多様な働き方を促進するための制度づくりを進めました。また、多様な人材がイキイキと活躍し、公平に仕事基準で評価される人事制度の検討を、労働組合との対話に基づいて進めています。さまざまなバックグラウンドをもつ人材が最良のパフォーマンスを発揮できる職場環境の構築を目指し、今後も継続して人事制度の見直しを進めます。

推進の仕組み

不二製油グループ本社ではESG経営を推進すべく、取締役会の諮問機関としてESG委員会を定期的に開催しています。ESG委員会の中で、ダイバーシティを含めたESGに係る重要事項を審議し、取締役会に提言・具申しています。

特にダイバーシティの重点エリアである日本においては、人事部門の管掌のもと、部門横断型のダイバーシティ推進組織としてFAN（Fuji Active Network）を設置し、人事部門への施策提言や従業員への啓発を行っています。

ダイバーシティを支える人事制度

事業環境の変化に柔軟に対応しうる多様な人材の活躍の促進と、事業への貢献度をより処遇へ反映させるため、不二製油（株）では2015年度以降、人事制度改革を進めています。改革の柱は、給与制度改革、評価制度改革、人材育成推進の3点です。

人事制度改革の内容と進捗

年度	主な実施項目	内容
2015年度～2017年度	管理職 人事制度改革	給与制度改革（職務給制度の導入） 評価制度改革（成果責任の明確化） 人材育成推進（多面評価）
	フレックスタイム制度の拡大	利用時の事由撤廃
2018年度	組合員 人事制度改革	給与制度改革 （年齢給の廃止／成果・業績に応じた配分／個別事情による諸手当の整理）
2019年度（予定）	労働時間削減 休日・休暇制度の改訂	働き方改革 休日の取得しやすい環境整備 福利厚生制度の見直し

具体的な取り組み

日本におけるダイバーシティ推進

女性活躍推進

食品素材メーカーである不二製油グループが事業を通じて社会に貢献し続けるには、社会の変化を捉えることが重要です。そのために欠かせない女性の感性・能力・創造力を存分に発揮できるよう、女性社員の活躍推進に力を入れています。日本社会および当社において、女性社員のキャリア継続支援・活躍領域の拡大・マネジメント層へのキャリアアップ支援がダイバーシティの推進における重要なテーマです。

現在、女性ならではの視点を活かした5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）への取り組み等で職場改善を進めており、女性従業員がイキイキと活躍し続けるための職場づくりや制度の見直しを加速していくとともに経営改革を進めていきます。

また、管理職としての女性従業員の登用にも取り組んでいます。2020年度の女性管理職比率*20%以上を目標として、機会提供および育成に取り組んでいます。目標を掲げた当初（2016年4月）の女性管理職比率は3.78%でしたが、2019年4月現在の女性管理職比率は10.53%へと向上しました。

しかしながら、次期女性管理職層の育成等の課題から目標の達成が難しい状況であり、2019年度中に本目標を見直し、「①ダイバーシティに関する考え方の再定義・②グループ会社の経営層を含めたダイバーシティの推進体制の確立・③各エリアにおけるダイバーシティ課題の抽出と中期ロードマップ・目標の再策定」を行います。特に重点エリアである日本において、真に女性従業員がイキイキと活躍するためのビジョンを策定し、施策の強化を行います。

このほか、内閣府の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会**」の行動宣言に、当社社長の清水が賛同しており、従業員ならびに社会に対して、経営におけるダイバーシティの重要性を発信しています。

* 集計範囲：不二製油グループ本社+不二製油（株）-海外出向者

** 輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会：2014年3月28日、首相官邸で開催された「輝く女性応援会議」を契機に、輝く女性・輝こうとする女性たちを応援する各界のリーダーたちによるムーブメントが広がっています。このような中、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる企業の男性リーダーによる「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が制定されました。



非正規雇用の正規化

不二製油（株）では、2017年度から、有期雇用契約であった「準社員」を期間の定めのない「地域限定社員」に改めました。また、活躍の意欲にあふれる非正規雇用社員を対象に、年1回、正社員登用試験も実施しています。2019年度には6名を登用し、活躍いただいています。今後も本制度を通じて、能力と意欲のある人材の積極的な登用を図っていきます。

高齢者の活躍推進

不二製油（株）では60歳を定年としていますが、65歳を上限とする定年退職者再雇用制度を設けています。退職1年前および退職時に個別面談を実施し、対象となる従業員の意欲や能力に応じた活躍の場を提供しています。また、50代後半の従業員に対し、定年後のライフプランを考えるための「ライフプランセミナー」を2016年度から実施しています。本セミナーは参加者にとって、定年後のワーク・ライフ・バランスを具体的に描き、自己実現を図る契機となっています。

外国籍社員の戦略的採用

不二製油（株）では、自社のニーズに合った能力を持つ人材を国籍にかかわらず採用しており、研究開発、企画、管理などさまざまな分野で外国籍社員が活躍しています。国籍による待遇差はな

く、個人の特性やスキルを尊重した職場配置を行っています。また個人の宗教、慣習を尊重した職場づくりに努めています。2018年度は4人の外国籍社員が新しく仲間に加わりました。2019年度も数名の外国籍社員が入社予定です。

障がい者の活躍推進

不二製油（株）では、長年にわたり、障がい者雇用に取り組み、一人ひとりの個性に配慮しながら、地道な社内啓発や活躍の場の拡大などを着実に進めています。

働き方改革

働き方改革推進の全体像

不二製油（株）では、ダイバーシティ推進のための重要施策の一つとして、「働き方改革」を推進しています。2016年度に、「Creative Workプロジェクト」（現CWORK推進会議）を部門横断的組織として立ち上げました。生産性の向上による総実労働時間の削減およびワーク・ライフ・バランスの向上を目指し、意識改革、業務改革、制度改革、職場創生の4つの改革に取り組んでいます。2017年度にフレックスタイム制度および在宅勤務制度を、2018年度からは営業部門を中心にテレワーク（在宅勤務+モバイルワーク）を導入し、対象部門拡大を進めています。テレワークを導入したことは、従業員において「時間や場所にとらわれない柔軟な働き方が可能となり、家庭と仕事の両立がこれまで以上にしやすくなった」と好評を得ています。

テレワーク推進のためには、時間と場所に縛られない働き方の実現が必要となります。ITの活用により、ペーパーレス（ワークフローの電子化等）や会議改革（TV会議の導入等）をはじめとして、コミュニケーションや情報共有の効率化を進めています。この一つとして、2019年度にはOffice365を全社導入し、業務効率化による生産性向上と従業員のワーク・ライフ・バランスの向上を目指します。

<利用者の声（コーポレートスタッフ部門 時短勤務取得）>

「2人目の復職後からテレワークによって早朝の時間を活用していますが、制限時間があることが奏功し効率良く業務を進められている実感があります。就労時間の短さに臆せず難易度の高い仕事へチャレンジできるようになったことが充足感につながり、育児をしながらキャリアアップを目指すことへの自信ができました。」

活きたキャリアの構築支援

活きたキャリアの
継続を目指す

施策	
妊娠	<ul style="list-style-type: none">・ 育休前面談（人事、上司、本人）・ 妊娠期間中の体調不良相談窓口
産育休	<ul style="list-style-type: none">・ 賞与保障（20%）・ 育休期間の延長（2歳の4月末まで）・ 会社貸与iPadでの情報共有・ 育児コンシェルジュサービス（保活支援含む）・ 復帰前面談（コミュニケーションシートを活用した復帰後の体制確認）
復帰後	<ul style="list-style-type: none">・ 時短勤務（小学校1年生まで）・ 上司を交えた育休復帰フォロー交流会・ ベビーシッター、ファミサポ利用費用補助・ 在宅勤務制度・ 配偶者の海外赴任同行休職・ カムバックエントリー（再雇用制度）

外部評価

上記の取り組みが評価され、不二製油（株）では、くるみんマーク*よりさらに高い要件が求められる「プラチナくるみんマーク」を取得しています。

*くるみんマーク…「子育てサポート企業」として、日本の厚生労働大臣の認定を受けた証



労使間の対話

不二製油（株）では、「労使間の対話」を大切にし、労使相互の信頼関係の構築に注力しています。

会社と労働組合とは活発に協議を行い、経営状況や会社の方針などについて情報交換する「中央労使懇談会」を毎月開催しています。また、労働協約に則って「労使協議会」を随時開催し、従業員の昇給や賞与に関する交渉、社内の規則・規程の見直しなどに関する議論を行っています。これらの交渉・議論は、会社の業績や動向、経営の諸問題、世の中の動きなどについて労使が情報を共有した上で、プロセスを踏んで進めています。

グローバル化、少子高齢化の加速、ワーク・ライフ・バランスのさらなる充実など、今後もダイバーシティ推進が必要を増す中で、労使間の対話に基づき、人事制度の改善に取り組んでいきます。

データ

各種制度の利用

男女別制度利用者数（不二製油（株）＋不二製油グループ本社）

（名）

	男性	女性	計
2018年度育児休業取得者数 （産前・産後休暇含む）	28	17	45
2018年度時短勤務者数 （取得事由：育児）	0	25	25

2018年度介護休暇 （休業）利用者数	0	0	0
2015年育児休暇取得者3年定着率*	100.0%	88.9%	92.6%

* 2015年度育児休暇取得者の2018年時点での定着率を表しています。

年次有給取得率（2018年度／不二製油（株）＋不二製油グループ本社）

年次有給取得率	63.0%
---------	-------

従業員データ

不二製油グループ地域別従業員数

(国内グループ会社は2019年3月末時点、海外グループ会社は2018年12月末時点*)

(名)

	日本	欧米	アジア	計 (連結従業員数)
総数	1,883	1,849	2,231	5,963
男性	1,510	1,403	1,685	4,598
女性	373	446	546	1,365

* プラマー チョコレート カンパニー社については、2019年1月27日時点での集計です。

不二製油グループ本社株式会社 従業員数内訳 (2019年3月末時点)

(名)

	男性	女性	計
正社員*・嘱託	101	34	135
地域限定社員	0	1	1
契約社員	0	1	1
平均年齢 (従業員)	47歳1カ月	36歳5カ月	44歳4カ月

* 執行役員を含む

不二製油株式会社 従業員数内訳 (2019年3月末時点)

(名)

	男性	女性	計
正社員*・嘱託	950	192	1,142
地域限定社員	109	53	162
契約社員	49	33	82
平均年齢 (従業員)	43歳8カ月	39歳4カ月	43歳1カ月

* 執行役員を含む

不二製油グループ 管理職数

(国内グループ会社は2019年3月末時点、海外グループ会社は2018年12月末時点*)

(名)

	日本	欧米	アジア
男性	361	161	174
女性	37	61	60
計	398	222	234

* プラマー チョコレート カンパニー社については、2019年1月27日時点での集計です。

不二製油（株）女性管理職比率

(%)

	2015年4月	2016年4月	2017年4月	2018年4月	2019年4月
女性管理職比率	3.15	3.78	5.56	8.24	10.53

* 2017年度以前の数値は不二製油グループ本社＋不二製油（株）、2018年度以降の数値は不二製油グループ本社＋不二製油（株）－海外出向者で算出しています。

不二製油グループ本社 取締役数（2019年3月末時点）

(名)

男性	8
女性	1
計	9

再雇用（2018年度／不二製油グループ本社＋不二製油（株））

再雇用者数	29
再雇用率	96.7%

障がい者雇用（2018年度月平均あたり人数／不二製油グループ本社＋不二製油（株））

障がい者雇用者数	35
障がい者雇用率	2.20%

健康経営

特に貢献を目指すSDGs



2018年度活動報告

労働安全衛生の推進 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み

【データ】

- 従業員千人あたりの休業災害発生件数（休業災害4日以上）
- 労働災害 度数率
- 労働災害 強度率
- OHSAS18001の取得状況（2019年3月現在）
- ISO 45001 2018 の取得状況（2019年3月現在）

詳しく見る



従業員の健康維持・促進 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／社員をまもる施策／自分の健康に対する意識改革・教育活動／食習慣改善・体力増進施策／外部評価

【データ】

- 健康診断対象者数
- 健康診断受診者数
- 有所見者数
- 二次健診／要治療対象人数
- 未受診／未報告人数
- 従業員一人あたり実働時間
- 従業員一人あたり月平均残業時間
- 休業疾病度数率

詳しく見る



労働安全衛生の推進

CONTENTS LIST

- ④ 考え方
- ④ 目標
- ④ 進捗
- ④ 推進の仕組み
- ④ データ

考え方

不二製油グループ憲法のバリューの最初に掲げている「安全と品質、環境」の中で、「安全」は私たちが成長を続けるために最優先すべき課題です。安全衛生の面では下記の6項目を「安全衛生基本方針」とする中で、2017年1月、不二製油グループでは「健康経営推進宣言」を制定しました。“ルールを守り、経験を伝え、皆で築こう安全職場”をスローガンに、当社従業員および当社事業所内にて働くすべての方々の命を守るとともに休業災害ゼロ達成を目指しています。

安全衛生基本方針

1. 命の尊さを安全の基本とする。
2. 全員参加を安全の基礎とする。
3. 安全管理は職制の責任である。
4. 安全は健やかな身体から生まれる。
5. 安全な職場づくりをする。
6. 危険を知り、危険を防ぐ。

目標

全グループ会社において重篤災害・重大事故ゼロを継続する。

進捗

不二製油グループでは、国内外のグループ会社において発生した労働災害の発生状況を集計・分析し、グループ各社と情報共有し、労働災害の減少に努めています。

2018年度の国内グループ会社での全労働災害発生件数は27件で、対前年で4件増加しましたが、休

業災害発生件数は対前年で3件減少し4件となりました。発生した労働災害の中で多いのは切傷、打撲、火傷などでした。

2018年度の海外グループ会社での全労働災害発生件数は43件で、対前年で11件減少、休業災害発生件数も対前年で9件減少し32件となりました。発生した労働災害の中で多いのは火傷、切傷、転倒などでした。引き続き、安全対策の確実な実施と、手順に従った作業、危険予知活動を取り入れるなど、労働災害発生防止に努めます。

推進の仕組み

推進体制

不二製油グループ本社ではESG経営を推進すべく、取締役会の諮問機関としてESG委員会を定期的に開催しています。ESG委員会の中で、労働安全衛生を含めたESGに係る重要事項を審議し、取締役会に提言・具申しています。

2018年度は、CQO（最高品質責任者）を労働安全衛生の最高責任者として、グループ全体の取り組みを推進致しました。そのもとで、生産性推進グループを設け、不二製油グループ憲法に定める「行動原則」にそって、不二製油グループの各グループ会社と連携し、生産拠点ごとに労働安全衛生監査を実施してリスクを評価し、事故の撲滅と管理レベルの向上に取り組んでいます。

また、労働安全衛生の推進においては、労使間の対話を重視しています。例えば不二製油(株)では、労働協約に基づき、「労働安全衛生委員会」を毎月開催し、労働安全衛生に関する従業員の期待や懸念について協議を行っています。

教育・啓発活動

不二製油グループでは、生産拠点での労働災害の防止を重要な課題と考え、対策に努めています。特に、作業の中で災害につながる不安全行動や不安全状況がないかをチェックし対策を講じるとともに、リスクマネジメントのPDCA推進と日々のヒヤリハット活動を継続しています。

国内事業所では、ヒューマンエラーの防止策として、2016年3月から「声出し 指差」「ひと仕事 ひと指差」をスローガンに「指差呼称推進活動」を開始し、徐々に各拠点において指さし呼称が定着してきました。労働安全の基本である“一呼吸置き、確認する”をさらに定着させるため、今後も引き続き取り組んでいきます。

海外グループ会社では、安全衛生委員会の設置や安全パトロールの実施、安全伝承活動、安全ミーティングなどさまざまな安全活動に取り組み、全社一丸となって労働災害防止に取り組んでいます。2018年度の海外グループ会社の安全会議では、2017年度の労働災害発生状況と対策について情報共有しました。

さらに、グループ全体での従業員の安全に対する意識向上が重要と考え、工場内に電光掲示板を設置し日々注意を呼びかけ、また安全体感教室を設け実際に危険な状態を体感するなど、従業員の安全意識向上への取り組みを進めています。



海外グループ会社における安全ミーティングの様子（インドネシア）

フジオイル アジア（シンガポール）主催 アジア地域のグループ会社による安全会議



安全掲示板（日本）

中国グループ会社に設置した安全体感教室

従業員へのインセンティブ

「食の安全・安心・品質」「環境」「労働安全衛生」の分野で優れた取り組みを行った部門・グループ会社を評価する目的で、2016年度より経営賞の中に「安全品質環境活動の部」を設けています。

2018年度は、国内の2事業所について、前年度（2017年度）労働災害ゼロの事業所として表彰しました。

データ

不二製油グループ従業員における労働災害の千人あたり発生件数・度数率・強度率を示しました。国内外のグループ会社において発生した労働災害件数が減少したことから、千人あたりの発生件

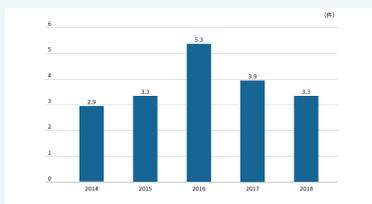
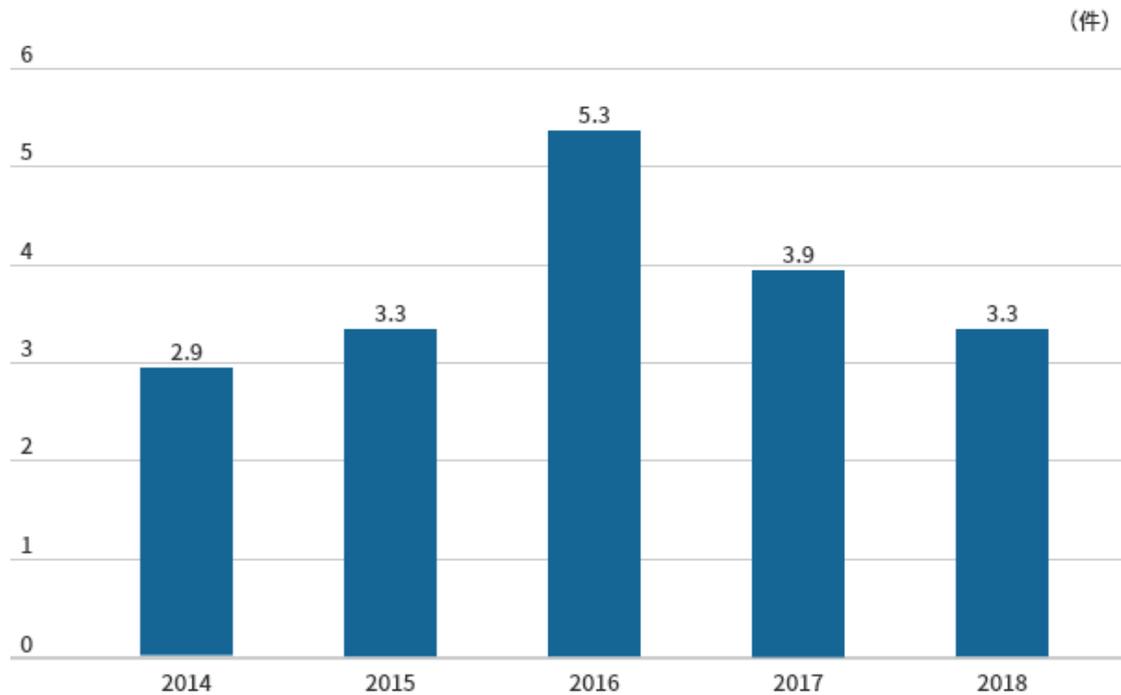
数・度数率*・強度率**ともに対前年で低下しています。今後も「ゼロ災」を目標に引き続き安全活動に取り組んでいきます。

* 度数率：100万延労働時間当たりの労働災害による被災者数

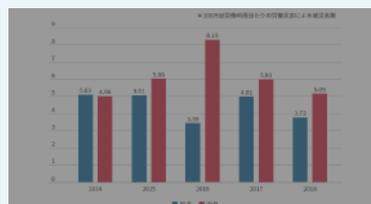
** 強度率：1000延労働時間当たりの労働時間損失日数をもって、災害の重さの程度を表したものの

労働災害の状況

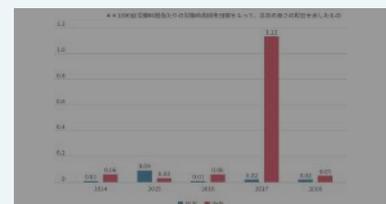
不二製油グループ従業員千人あたりの休業災害発生件数（休業災害4日以上）



不二製油グループ従業員千人あたりの休業災害発生件数（休業災害4日以上）



不二製油グループ 労働災害度数率*



不二製油グループ 労働災害強度率**

マネジメント認証取得状況

OHSAS18001の取得状況（2019年3月現在）

ムシム マスーフジ（インドネシア）

ISO 45001 2018 の取得状況（2019年3月現在）

ウッドランドサニーフーズ〔シンガポール〕

サステナビリティ

従業員の健康維持・促進

CONTENTS LIST

- ④ 考え方 ④ 目標 ④ 進捗 ④ 推進の仕組み
- ④ 具体的な取り組み
 - 社員を守る施策 • 自分の健康に対する意識改革・教育活動
 - 食習慣改善・体力増進施策
- ④ 外部からの評価 ④ データ

考え方

2017年1月、不二製油グループが積極的に健康経営に取り組むことを示す「不二製油グループ健康経営推進宣言」を表明しました。

本宣言に基づき、「おいしさと健康で社会に貢献すること」「不二製油グループの従業員が健康で幸せになること」を中期経営計画の目標に掲げています。今後も引き続き、生活習慣病予防やメンタルヘルス不調の予防など、従業員の健康維持・増進を図る支援を推進していきます。

不二製油グループ 健康経営推進宣言

「私たちは、油脂と大豆事業を中核に、おいしさと健康で社会に貢献する、食の未来創造カンパニーを目指します。」とグループ憲法のビジョンに掲げています。健康は本人・家族の幸せだけでなく、企業力を高める重要な要素であり、不二製油グループは積極的に健康経営に取り組むことを宣言します。

健康経営は従業員の健康と幸せを第一義の目的と考えており、従業員がイキイキと元気に働くことが企業価値の向上につながります。健康経営で最も重要なことは、自分の健康は自分で守るという各人の健康意識です。私たちは健康意識を持ち、「清く、正しく、明るく、元気に」働きます。そして、人のために働き、人の問題を解決して、企業としての社会貢献を推進します。

健康経営の推進にあたり、従業員の健康維持・増進を図る施策・支援を進めています。具体策としては、生活習慣病の予防、メンタルヘルス不調の予防、体力増進活動などに取り組んでいきます。

2017年1月1日

不二製油グループ本社株式会社

代表取締役社長 清水 洋史

目標

2020年目標として、以下を定めています。

従業員の健康意識が向上し、健康増進施策に積極的に取り組んでいる。

システムの整備により、従業員の健康状態の見える化が整っている。

生活習慣病に関する有所見率が低下し、メンタルヘルス不調者が減少している。

国内外グループ会社に施策が横展開されている。

進捗

- 推進体制の構築（保健指導および健康経営推進体制の充実化）
- 健康診断受診率100%を維持・二次健診の受診率94.3%（昨年度比1.6%減少）
- 不二製油（株）でのストレスチェック回答率93.9%（昨年度比+2.5%）
- 健康に対する従業員の意識改革（主要拠点における健康測定システムの設置）
- おいしく健康によい社員食堂メニューの展開（自社大豆製品を使用）
- 「健康経営優良法人ホワイト500」の認定取得（2019年2月認定）

推進の仕組み

CSO（最高経営戦略責任者）を最高責任者として、グループとして健康経営の取り組みを推進しています。不二製油（株）の人事総務部門に健康経営推進グループを設置し、さまざまな施策の企画や健康に関する課題の改善に取り組んでいます。また、産業医や保健師・看護師・産業カウンセラーなどの専門家による健康サポート体制を構築しています。

具体的な取り組み

社員を守る施策

各種定期健康診断の実施を推進しています。不二製油（株）における2018年度の健康診断受診率は100%（二次健診は94.3%）でした。

また、メンタルヘルス不調の予防として、ストレスチェックテストを行うとともに、全従業員へのカウンセリング実施を推奨しています。2018年度のストレスチェックテスト回答率は93.9%でした。

今後は、健康管理システムを活用し、従業員の心身の健康状況の見える化を図るとともに、国内外グループ会社への健康管理状況・健康意識調査を行うことで、施策の横展開を進めていきます。

トピックス<ストレスチェックの実施結果>

ストレスチェックの実施結果は、職場改善に役立てています。2018年度は、ストレスチェックの実施結果を通じ、リスクの高い職場については職場改善計画を作成するとともに、フォローアップ研修を行いました。

自分の健康に対する意識改革・教育活動

2018年度、自身の健康を管理するための「健康測定機器」（血圧・体組成・活動量）を阪南事業所・東京支社・大阪支店に設置しました。

また、全社的な「働き方改革」への意識向上のため、CWORK Awardを開催し、その中に「健康意識向上部門」を設けました。「通勤バスから自転車通勤への切り替え」など、部署単位で健康の増進に資する目標を掲げてもらう仕組みを作ったことによって、健康意識向上に繋がりました。

「健康管理システム」の導入による、健康管理の見える化についても2019年4月より本格導入し、保健指導の充実を図っています。「健康管理システム」は、従業員が自身の健康診断の結果などの健康に関するデータの推移を確認できることから、健康に対する意識の向上に繋がります。

加えて、「食育・教育施策」として、小学生を対象に出前授業を行う活動（食育プロジェクト）の講師としての参画や体力増進イベントの企画・実施を通じ、従業員が自身の健康増進を意識することを促していきます。

食習慣改善・体力増進施策

従業員向けの食習慣改善講習会やメンタルヘルス不調予防などの研修を企画するとともに、国内の社員食堂にて自社の大豆製品メニューなどを積極的に取り入れ、おいしく健康によいメニューの提供を推進しています。

体力増進施策では、事業所ごとに、ウォーキングやヨガ教室などのイベントを企画し実施してきます。

不二製油 × 泉佐野保健所 × 食堂タイアップ
V.O.S. メニュー!
大阪府では、府民の健康寿命延伸をめざし、健康的な食環境整備を推進するため、府内の食堂やレストラン等で提供されるメニューにV.O.S.メニューの普及を図っています!

V.O.S.メニューとは・・・
野菜・油・塩の量に配慮した、下記基準（一食あたり）を満たしたヘルシーメニューです。

Vegetable	Oil	Salt
野菜たっぷり	適油	適塩
野菜 120g以上 (5℃・凍結していない)	総摂取エネルギー比率 20%以下	食塩相当量 3.0g以下

10/12【FRI】
通常の八宝菜より食品数を増やし、ヘルシーなメニューにアレンジ! 食塩調整がなされる野菜をたっぷり使い、よく噛むことでさらに満腹感UP!

Bセット カラダよろこぶ 八宝菜
ライス・みそ汁・小鉢付

野菜量	食塩エネルギー比率	食塩相当量
V 248g	O 28.6%	S 3.0g

※栄養価は、下記を適用した場合のものです。
ライス:普通米 小鉢:アロココラーのチキンスープ

社員食堂で提供された健康メニューの啓発ポスター

「健康経営優良法人ホワイト500」の認定

2019年2月、不二製油グループ本社は経済産業省および日本健康会議による健康経営優良法人制度において、「健康経営優良法人2019 大規模法人部門（ホワイト500）」に昨年に引き続き認定されました。また、国内グループ会社：フジサニーフーズ（ホワイト500）、オーム乳業（中小規模法人）も認定されました。今後も健康経営をグループ全体で推進することで、ステークホルダーからの評価・信頼が得られるように努めていきます。



データ

健康診断

		国内事業所計（2018年度）	
		（人）	（％）
受診率と有所見率*	健診対象者数	1,466	
	健診受診者数	1,466	100%
	有所見者数	971	66.2%
二次健診・要治療*	二次健診・要治療 対象人数	473	32.3%
	未受診・未報告	27	5.7%

* 不二製油グループ本社（株）＋不二製油（株）

労働時間

	2018年度勤務実績データ	
従業員一人あたり実働時間*	159.1	時間/月
従業員一人あたり月平均残業時間*	17.0	時間/月

* 不二製油グループ本社（株）＋不二製油（株）

休業疾病度数率

2018年度 休業疾病度数率*	1.27 %
-----------------	--------

* 傷病特休、傷病退職者のみカウントしています。

* 不二製油グループ本社（株）＋不二製油（株）

サステナビリティ

リスクマネジメント

特に貢献を目指すSDG s



2018年度活動報告

実効性のあるリスクマネジメント

重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／
グループ重要リスクの特定／気候変動リスク・水
リスク／BCP（Business Continuity
Planning）／情報セキュリティ／知的財産保護

詳しく見る →

原材料の安定調達 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／
気候変動による調達リスクへの対応／大規模災害
等による調達停止リスクへの対応／CSR調達ガイ
ドラインとサプライヤーアンケートの実施

詳しく見る →

コンプライアンス意識の浸透 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／推進の仕組み／
コンプライアンス徹底の仕組み／腐敗防止／政治
献金／コンプライアンス違反

詳しく見る →

企業統治体制の確立 重点テーマ

コンテンツ

考え方／目標／進捗／
グループ本社制とグループ憲法／コーポレートガ
バナンス

詳しく見る →

実効性のあるリスクマネジメント

CONTENTS LIST

- ④ 考え方 ④ 目標 ④ 進捗 ④ 推進の仕組み
- ④ 具体的なリスクへの対応
 - グループ重要リスクの特定 ● 気候変動リスク・水リスク
- ④ BCP（Business Continuity Planning：事業継続計画） ④ 情報セキュリティ
- ④ 知的財産保護

考え方

不二製油グループにおいて、リスクマネジメント*は経営そのものだと考えています。食を通じ、おいしさと健康で社会に貢献し続けるために、事業継続の観点、また法律や株主・投資家など社会の期待・要請に応える観点から、欠かせないものであると考えています。リスクマネジメントを推進することによって、社会からの信頼を獲得する「高信頼性企業の実現」を目指します。

*リスクマネジメント：企業経営に関わるリスクの発生予防に努めるとともに、リスクが実際に発生した時の損失・影響度を最小限にとどめ、経営の目標・計画を達成すること。

不二製油グループにおけるリスクマネジメントの位置づけ



目標

2020年にグループ本社制のもと、グループ各社による自主・自立的なリスクマネジメントPDCA推進がなされており、不二製油グループ本社の各職能が全体最適な各社リスク対応のサポートを行っている状態。

2020年に主要グループ会社においてBCPの策定が完了している状態。

進捗

不二製油グループ本社が、グループ各社とのリスクマネジメント会議を実施し、リスクマネジメントの推進状況を把握するとともに、不二製油グループの共通リスクに関する対策の提案や、クライシスに関する情報共有を図りました。

また、BCP策定に関しては、BCP策定を行う主要グループ会社を選定し、主要グループ会社に対してBCP策定に関する意義の説明を実施しました。

また日本の事業所を対象に、安否確認訓練などを行い、緊急事態（大規模災害など）における対応力強化を図りました。

推進の仕組み

リスクマネジメント推進体制

不二製油グループ本社ではESG経営を推進すべく、取締役会の諮問機関としてESG委員会を定期的開催しています。ESG委員会の中で、リスクマネジメントを含めたESGに係る重要事項を審議し、取締役会に提言・具申しています。

リスクマネジメントについては、不二製油グループ本社のリスクマネジメント・コンプライアンス担当役員を最高責任者として、グループ全体のリスクマネジメントの取り組みを推進しています。

PDCA

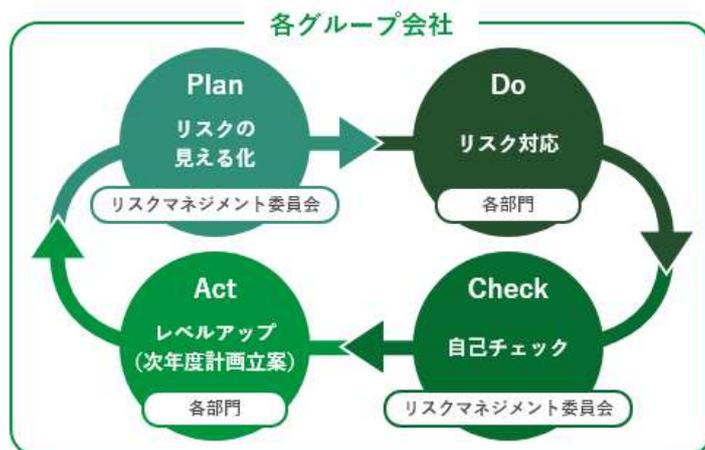
不二製油グループでは、2015年10月に移行したグループ本社制の一つの基盤として、グローバルなリスクマネジメントシステムを構築しています。

具体的には、不二製油グループ本社、地域統括（代表）会社、各グループ会社に対して、それぞれの役割を明確にし、グループ各社にリスクマネジメント委員会を設置しています。このリスクマネジメント委員会が主体となって、「リスクの洗い出しと重要リスクの選定⇒リスク対策実施⇒チェック⇒次年度計画のレベルアップ」のPDCAを1年ごとに回し、不二製油グループ本社、地域統括（代表）会社、各グループ会社間で連携を取りながら、リスクマネジメントを推進しています。緊急時においては、平時のリスクマネジメント委員会を母体に「緊急対策本部」を立ち上げ、グループとして迅速かつ適切に対応できるシステムを構築しています。

不二製油グループのリスクマネジメント



リスクマネジメントの実施主体は各グループ会社



リスクマネジメントのPDCAサイクル

リスクアセスメント手法

グループ各社のリスクマネジメント委員会が主体となり、自社のリスクを可能な限り洗い出し、リスクマップ（縦軸：自社への損失・影響度、横軸：発生可能性）にマッピングすることで評価します。評価の結果、自社にとって損失・影響度が大きいリスクを「重要リスク」として特定し、すべての「重要リスク」に対して対応方法を決定し、リスク低減を図ります。このプロセスにより、自社が優先的に管理すべきリスクを明確にしたリスク管理を行い、リスク予防、リスク発生時の損失最小化、事業継続を図っています。

トピックス<リスクマネジメントの効果 事例>

リスクマネジメントシステムを導入している米国のグループ会社では、ハリケーンによる従業員、工場、生産設備等への被害を重要リスクとして認識し、従業員の避難、工場の操業停止等の手順策定をリスク対策として設定しております。

これにより、当該グループ会社の操業地域において2018年度に2回大型ハリケーンが襲来しましたが、効率的・効果的な対応により、ステークホルダーへの負の影響を最小限に抑えることができました。

教育・啓発活動

グループ各社への定期的な訪問・テレビ会議などにより、リスクマネジメントに関する教育・啓発活動を実施し、グループ各社におけるリスクマネジメントのPDCA活動の定着化と質の向上を図っています。また、新任の海外赴任者を対象とした海外赴任前研修において、リスクマネジメントの基礎、不二製油グループのリスクマネジメントシステムについて教育を行っています。

インセンティブ

事業活動を通じて社会に貢献する優れた取り組みを行った部門・グループ会社を評価する目的で、2016年以降、表彰制度「経営賞」の中に「CSRの部」を設けています。この「CSRの部」において、リスクマネジメントを効果的に行うことで社会的責任を果たしたグループ会社・部門を表彰しています。

具体的なリスクへの対応

グループ重要リスクの特定

グループ各社における毎年のリスクアセスメント結果に基づき、不二製油グループに共通する重要リスクを「グループ共通リスク」として特定しています。「グループ共通リスク」として特定した重要なリスクに対しては、不二製油グループ本社の各リスク主管職能が、経営テーマとして管理し、グループ各社への対策支援の提供等を行っています。

例えば、「グループ共通リスク」の一つである情報セキュリティに関するリスクに対しては、不二製油グループ本社のICTグループが主管となり、定期的なeラーニング、グループ各社への訪問による教育・啓発活動等を実施しています。

【主なグループ重要リスク】

- 原料相場の変動リスク
- 為替相場の変動リスク
- 海外進出に潜在するリスク
- 事業投資、設備投資の回収リスク
- 食品の安全性に関するリスク
- サプライチェーン上の環境・社会問題リスク
- 災害・事故に関するリスク
- 情報システム・情報セキュリティに関するリスク
- 人材の確保・育成に関するリスク

気候変動リスク・水リスク

グループ全体の経営戦略の策定機能を担っている不二製油グループ本社が、気候変動・水に関連するリスクおよび機会を管理しています。CSR・リスクマネジメント部門、環境部門などのさまざまな部門が専門の観点から、業界団体・公開情報・ステークホルダーとの対話などを通じて気候変動・水に関する情報収集を行い、戦略立案に活かしています。気候変動・水に関する戦略は、取締役会諮問機関であるESG委員会の中で報告され、取締役会に具申されます。また、気候変動・水が要因となるリスクに関しては、グループ全体のリスクマネジメントシステムにて管理しています。気候変動リスクに関しては、2019年5月にTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同

を表明しました。今後は、TCFDコンソーシアムへの参画等によるステークホルダーとの対話を通して、経営への影響度を見える化していきます。

気候変動による主なリスク（2018年度）

規制リスク	中国の一部グループ会社において、工場が所在する行政当局からの操業規制を受け、生産量が減少するリスク
物理的リスク	米国のグループ会社において、ハリケーンが操業地域を直撃した場合、従業員のケガ、設備の破損、生産活動停止が発生するリスク

気候変動による主な機会（2018年度）

規制	欧米の一部地域で自治体が「ミートレス・マンデー」を推進し、プラントプロテイン市場が拡大することで、当社的大豆たん白素材の需要が高まる機会
物理的影響	干ばつなどにより家畜の飼料が不足し、肉牛生産が減少した場合、大豆ミートなどの当社グループの大豆たん白製品の需要が高まる機会

水による主なリスク（2018年度）

中国において排水に関する規制が課され、当社の中国の事業所においてその行政基準値を超えた水質での排水を行い、生産活動停止処分を受けるリスク

水による主な機会（2018年度）

干ばつなどにより家畜の飼料が不足し、肉牛生産が減少した場合、大豆ミートなどの当社グループの大豆たん白製品の需要が高まる機会

考え方

不二製油グループでは、グループ憲法のビジョンにおいて「おいしさと健康で社会に貢献する」を掲げており、その実現には事業継続が前提条件であり、BCPは欠かせないものであると考えています。従業員の安全確保および事業資産の損害を最小限にとどめ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするため、以下基本方針のもとにBCPを推進していきます。

BCP基本方針

1. 従業員・来客の人命を最優先する。
2. 二次災害を防止し、地域に迷惑をかけない。
3. 企業としての供給責任を果たす。

取り組み

大規模災害を想定した事業継続計画（BCP）の見直し

不二製油（株）では、これまでに策定したBCPをより実効性のあるものとすべく、見直しおよび再構築を進めています。見直しについては、2019年度中に完了する予定です。また、海外の主要グループ会社においても、BCP策定を進めており、2020年中に完了する予定です。

自然災害発生時の情報システムの継続性確保（ICT-BCP）

自然災害等発生時、事業継続の根幹となるのが情報システムです。不二製油グループでは、基幹システムをはじめとする重要な業務システムを堅牢なデータセンターにて運用しています。さらに、データセンターが被災した場合を想定して、遠隔地にDRサイト*を構築することで、業務システムの継続を実現しています。これにより、データセンターが被災した場合でも、数時間～半日以内にはDRサイトにて業務を再開することが可能です。また、DRサイト切り替え訓練を年1回実施することで、災害発生時の迅速な対応に備えています。

気候変動による調達リスクへの対応・大規模災害による調達リスクへの対応については、「サステナブル調達」をご覧ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/sustainable/>

* DRサイト：Disaster Recovery サイトの略

情報セキュリティ

考え方

不二製油グループでは、情報システムを取り巻くさまざまな脅威に対し、情報資産の機密性・完全性・可用性を確保・維持するためにセキュリティレベルの向上に取り組んでいます。当社グループの方針として、情報管理規程、情報セキュリティ規程ならびに情報セキュリティ・ガイドラインを策定し、規程の周知徹底に向けた従業員教育を継続して行っています。技術的には、外部からの不正アクセスを防御する仕組みやコンピュータウイルスを防御する仕組みなど、多層的な対策を講じています。今後も、情報セキュリティレベルの検証・確認・向上を継続していきます。

情報セキュリティ管理の体制

不二製油グループでは、情報資産への脅威に対して、リスクマネジメント委員会のもと、情報セキュリティマネジメント体制を構築しています。不二製油グループ本社に情報管理統括責任者および、CSIRT（Computer Security Incident Response Team）を設置し、当社グループ各社に情報管理責任者および情報セキュリティ管理者情報セキュリティ責任者を指名して、有事の際の迅速な対応と、平時の従業員啓発に努めています。

従業員への情報セキュリティ教育

2018年度は、グループガバナンス・情報セキュリティ強化月間（10月～11月）を制定し、不二製油グループ全体に対してeラーニングによる研修を行いました。また、各グループ会社において管理職への情報管理規程の説明会を行っています。今後も教育・研修および訓練などを通じ、従業員の情報セキュリティのリテラシー向上を図ります。

知的財産保護

知的財産権の取得と他社権利侵害を防ぐ体制の構築

不二製油グループでは、「不二製油グループ憲法」に基づき、「社内発明等取扱規程」および「不二製油グループ知的財産管理規程」の中で、従業員の職務に基づく発明等の取り扱いなどを定め、発明等を特許等として権利化するとともに、技術ノウハウなどの秘密管理性を保つ厳格な管理により、知的財産を保護しています。併せて、他社の知的財産権を侵害することのないよう、特許等の情報を日常的に監視しています。

教育啓発活動

不二製油（株）では、知的財産に関する正しい理解を浸透させることを目的に、従業員に対する教育を随時実施しています。

2018年度は、入社6カ月後の研究開発職の新入社員を対象とした知的財産研修を2019年2月に実施し、知的財産権の概要や意義、社内発明等取扱規程の内容について説明して、知的財産に関する基礎知識の浸透を図りました。また、2018年10月に開催した知財研修では、開発部門の室長およびグループリーダーを対象に、発明者の認定と報奨に関する規程の理解を深めました。

サステナビリティ

原材料の安定調達

CONTENTS LIST

④ 考え方 ④ 目標 ④ 進捗

④ 具体的な取り組み

- 気候変動による調達リスクへの対応
- 大規模災害等による調達停止リスクへの対応
- CSR調達ガイドラインとサプライヤーアンケートの実施

考え方

持続可能な方法で生産された原材料を安定的に調達する上で、気候変動による作物の不作や自然災害によるサプライチェーンの寸断は大きな影響をもたらします。このような調達リスクへの対応として、原材料を安定的に調達できるよう、平時の体制構築に努めています。

購買基本方針

不二製油（株）では2010年に以下の「購買基本方針」を定め、この方針に基づき、すべての調達活動を展開しています。

1. 法令、社会規範を遵守し、幅広くお取引先様から公平・公正な取引のもと、良い品質の原材料を適正な価格で安定的に調達いたします。
(公平、公正、遵法・倫理性)
2. 上記目標を達成するために、お取引先様と共同の創造的活動により連携を深め、共存・共栄を果たしていきます。(パートナーシップ)
3. 持続的発展可能な社会の実現への貢献を目指すために、地球環境や労働、人権などに配慮した調達を行います。(社会的責任)

目標

気候変動等のリスクに対するレジリエンスを強化し、安定調達を継続することでステークホルダーへの製品供給責任を果たす。

進捗

安定調達を果たすため、以下の施策を継続しています。

- 産地の複数化
- 複数のサプライヤーからの購買

具体的な取り組み

気候変動による調達リスクへの対応

地球温暖化は気温上昇、海面上昇、降水量の変化を引き起こし、洪水や干ばつ、熱波などの異常気象を増加させる可能性が指摘されています。

農産物を原料としている不二製油グループにとって、こうした気候変動は原料の需給を大きく変化させる可能性が高く、安定的な原料調達への大きな脅威となります。これらのリスクに備えるため、安定供給が期待できる特定のサプライヤーとの長期契約による原材料の確保に加え、産地やサプライヤーの分散による複数購買化を進めています。

大規模災害等による調達停止リスクへの対応

大地震などの大規模災害の発生時において、サプライチェーン全体で事業継続することは重要な課題です。日本のグループ各社では、災害による原材料などの供給遅滞リスク対策として、アンケートを通してお取引先様の対応体制を確認しています。

2018年度は、アンケートの結果に基づき、お取引先様にご協力をお願いすることで、サプライチェーンでのBCP*構築（生産場所複数確保、複数個所での在庫確保）等の施策を継続して進めています。

*BCP：Business Continuity Planning（事業継続計画）の略称。

CSR調達ガイドラインとサプライヤーアンケートの実施

CSR調達ガイドライン

持続可能な調達のためにはお取引先様との協業が重要であるという考えのもと、不二製油（株）、トーラク（株）、フジフレッシュフーズ（株）、オーム乳業（株）の国内グループ4社のお取引先様への御願い事項を「CSR調達ガイドライン（第2版）」として策定・公表しています。

気候変動による調達リスクへの対応・大規模災害による調達リスクへの対応については、「サステナブル調達」をご覧ください。

▶ CSR調達ガイドライン(第2版) PDF(300KB) 

サプライヤーアンケートの実施による安定調達推進

CSR調達ガイドライン（第2版）に基づいた調達の実現を目的に、お取引先であるメーカー様および商社様に対して、当社ガイドラインをご説明するとともに、アンケートを実施しています。2018年度は、サプライヤー様に対して当社の考え方を説明する「説明会」を開催するとともに、アンケートの結果に基づいてサプライヤー様の評価や訪問による監査、改善支援を行いました。今後も、継続してサプライヤー様とのコミュニケーションを行うことで、「安全・安心で持続可能な原料」の安定調達を図ります。

サステナビリティ

コンプライアンス意識の浸透

CONTENTS LIST

④ 考え方 ④ 目標 ④ 進捗 ④ 推進の仕組み

④ 具体的な取り組み

- コンプライアンス徹底の仕組み
- 腐敗防止
- 政治献金
- コンプライアンス違反

考え方

不二製油グループは、日々の業務の中で法令や社内規程の順守はもとより、社会（ステークホルダー）からの期待や要望に応えられるよう、高い倫理観を持って行動することが重要と考えています。2015年10月に制定した「不二製油グループ憲法」には、こうしたコンプライアンスの基本的な考え方が織り込まれています。

さらに、この考え方を体現するための具体的な行動を明らかにすべく、「不二製油グループ行動規範三原則」を定めています。

不二製油グループ行動規範三原則

1. ルールを守ります。

各国及び地域に適用される法律・法令を守ります。
会社の定めた規則やルールに従って行動します。
社会規範を守り、社会の期待と信頼に応えます。

2. 正直に行動します。

自分の良心に従って行動します。
ミスや失敗を隠しません。
報告と説明は、事実に基づき、適時・適切に行います。

3. 公正に行います。

公正かつ適正な取引を行います。
公私のけじめをつけ、不正な行為はしません。
事業活動に関わる人々の人権を尊重し、人種、性、宗教の多様性に配慮します。
強要や賄賂行為は行いません。
反社会的勢力の介入を許しません。

目標

2020年に、不二製油グループ憲法に基づく価値観・行動原則がグループ全体に浸透している姿を目指します。

進捗

2018年度は、従来からの国内外事業場を巡回しての研修や階層別（新入社員や海外出向者向け等）の研修に加え、10月を「コンプライアンス・情報セキュリティ強化月間」に定め、国内外の主要グループ会社を対象にeラーニングやコンプライアンス意識調査等を実施しました。eラーニングや意識調査の結果については、弱点分野や回答傾向等をよく分析し、今後のコンプライアンス施策へ展開を図っていきます。

推進の仕組み

推進体制

不二製油グループ本社にリスクマネジメント・コンプライアンス担当役員を設置し、その下でグループ全体のコンプライアンスの取り組みを推進しています。

内部通報制度

国内グループ会社では、「不二製油グループ社内通報窓口」を運用しています。また、2018年度は、適正な取引継続の観点から特定分野の協力会社を対象に、「公正取引ヘルプライン」を設置しました。また、海外グループ会社においては、グループ会社従業員向けの内部通報制度（不二製油グループコンプライアンスヘルプライン）を運用しています。

なお、通報窓口については社内対応のみならず、社外の法律事務所にも委託し、通報者の秘密・匿名性を確保することにより、通報しやすい環境整備を図っています。グループ全体で寄せられた通報件数は、ここ数年は年間5~10件の範囲で推移しており、通報内容に対しては速やかに調査し、必要な是正措置や通報者へのフィードバックを行っています。グループ全体にわたって、通報制度のさらなる周知に努めています。

モニタリング

監査役や内部監査担当部門と連携を図り、海外グループ会社も含めたコンプライアンス実践状況のモニタリングに取り組んでいます。2018年度からは、海外グループ会社を巡回し、コンプライアンスチェックリスト（地域特有の法令やリスクを勘案して作成したもの）を用いた実地点検活動を開始しています。

具体的な取り組み

コンプライアンス徹底の仕組み

ビジネス行動ガイドライン

不二製油グループ憲法の行動原則をさまざまな日常業務で遭遇する典型的事例を取り上げて説明した「不二製油グループ・ビジネス行動ガイドライン」を改訂し、冊子やPDFにて、順次全従業員に配布をしています。また、多言語（7カ国語）への対応も行っています。

コンプライアンス研修

国内および海外の拠点を巡回し、事業現場の状況やニーズを把握しながら、注意すべきコンプライアンス分野の啓発を行っています。また、法務部門・人事部門が連携し、新入社員や海外出向者など各人のキャリアの節目に合わせて、コンプライアンス研修を実施しています。2018年度からは、10月を「コンプライアンス・情報セキュリティ強化月間」として定め、国内外の従業員を対象にeラーニング（日本語、英語、中国語）を実施しました。

腐敗防止

独占禁止法順守と並び、公正な取引に係る重点コンプライアンス分野の一つとしての贈収賄防止についてはグローバルに適用する規程を制定し、啓発活動の中でも重点を置いています。海外拠点では、2018年度は、中国のグループ会社で啓発活動を行いました。ローカルスタッフとの対話を通じ、当分野のコンプライアンスの重要性や違反した時の損失の甚大さについて丁寧な伝達に努めています。

政治献金

当社グループは、政治献金の拠出はありません。

コンプライアンス違反

2018年度、不二製油グループにおいて、当社グループの事業運営経営に関わる重大なコンプライアンス違反はありませんでした。

サステナビリティ

企業統治体制の構築

CONTENTS LIST

④ 考え方 ④ 目標 ④ 進捗

④ 具体的な取り組み

- グループ本社制とグループ憲法
- コーポレートガバナンス

考え方

不二製油グループ本社は、実効的なコーポレートガバナンスの実現を通じて、法令違反、不正や不祥事などの企業価値を毀損するような事態の発生を防止し、かつ、会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図ることを目指します。株主、顧客、その他取引先、当社役職員および社会などのステークホルダーの期待に応え、透明、公正かつ迅速果断な意思決定を行うための重要な仕組みとしてコーポレートガバナンスを位置づけています。

不二製油グループは、意思決定の迅速化のため、新設分割による純粋持株会社体制に移行し、経営と執行を分離することにより、事業会社である地域統括会社への権限委譲を進めています。一方、当社はグローバル本社として、グループ経営の戦略立案およびグループ子会社の管理を遂行しています。

▶ 「不二製油グループ本社 コーポレートガバナンス・ガイドライン」 PDF(169KB) 

目標

2020年時点で、グループ各社において内部統制プロセスが定着化し、業務効率化やロス発生抑制のための仕組みが構築、整備されている状態。

進捗

不二製油グループ本社においてチェックシートを作成し、国内外のグループ会社に配布することで、グループ各社における改善活動を推進。また、内部監査によって各グループ会社の改善事項が

明らかとなり、不二製油グループ本社の各職能による改善指導によって業務効率化やグループ共通の目標達成に向けた取り組みが進展しました。

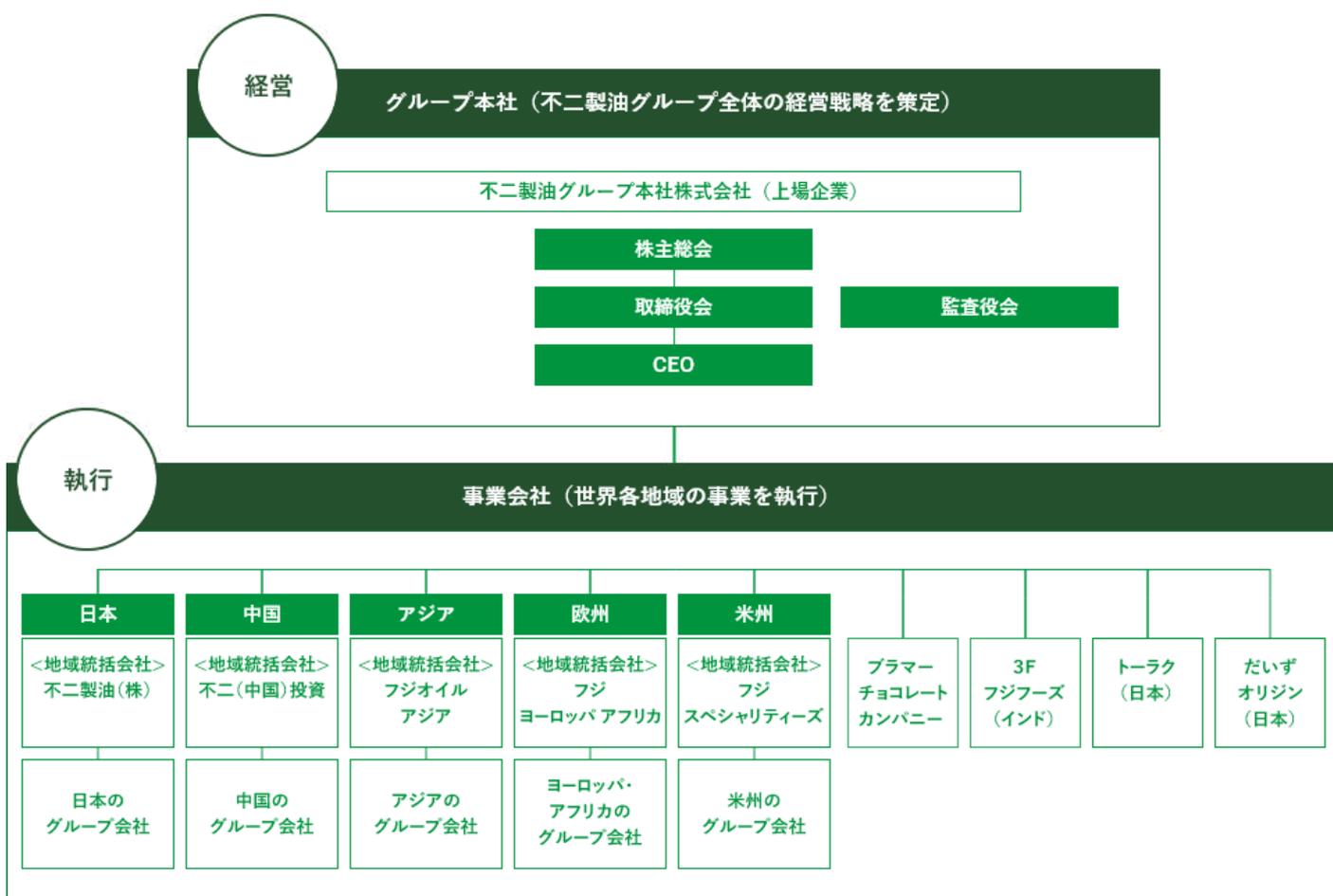
具体的な取り組み

グループ本社制とグループ憲法

グループ本社制

不二製油グループは2015年10月1日より、経営体制を純粋持株会社によるグループ本社制を採用しています。戦略機能を強化し、持続的成長と収益力の向上を図っています。

不二製油グループ経営体制図（2019年3月現在）



グループ本社制の目的

1. ガバナンスの強化

社員の国籍も多岐にわたるようになり、遠心力が働いていく中、不二製油グループ本社を中心にガバナンスを強化します。

2. グループ戦略機能の強化

不二製油グループ本社を中心にグループ全体が持続的に繁栄していくための戦略、特にグローバル戦略を講じます。

3. 人づくり

戦略を考えるのも統制を効かせるのも人です。グローバルで人材を採用し、グループ全体での最適な配分のもとで育成していくことが重要であり、人材の評価、働き方についても変革します。

4. 新規事業の創出

「2030年のありたい姿」の実現に向け、M&Aを含めた事業拡大戦略や、技術イノベーションを起こし、新規事業の創出を図る成長戦略を実行します。

「不二製油グループ憲法」の制定

「不二製油グループ憲法」とは、不二製油グループが創業時のDNAを継承し、社会的責任を果たしつつ、持続的に成長していくため、グループ各社の役員および従業員が従うべき行動の原理原則を示したものです。2015年10月1日、グループ本社制への移行とともに制定し、グループ経営の求心力となっています。

「不二製油グループ憲法」についての詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/constitution/>

コーポレートガバナンス

ガバナンス体制

コーポレートガバナンス体制図

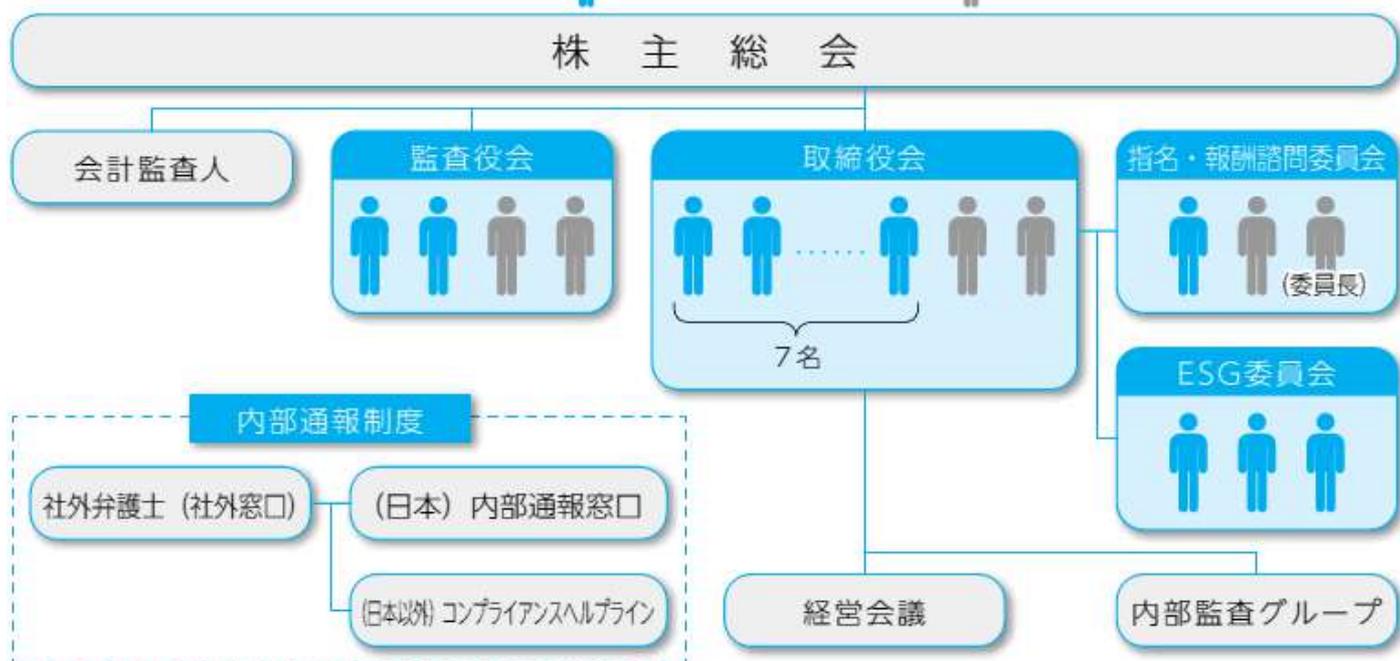
(2019年3月31日現在)



：社内取締役・社内監査役



：独立社外取締役・独立社外監査役



取締役会

取締役会規則のもと、原則月1回開催される「取締役会」および、必要に応じ「臨時取締役会」を適宜開催しています。法令に定められた事項および重要事項の審議、決議がなされるとともに取締役の職務執行状況を報告しています。

取締役会の実効性分析と評価の結果

2018年度については、2017年度の実効性評価により提示された課題についての進捗確認を中心に実施いたしました。

1. 評価の概要(対象、評価プロセス、質問項目)

対象: 取締役5名及び監査役2名

課題に対する進捗確認: 代表取締役社長、社外取締役、常勤監査役2名

新任取締役に対する全般的な質問: 新任取締役3名(社外取締役1名を含む)

評価プロセス: 第三者機関によるインタビューおよび匿名性を担保した結果分析

2. 質問項目

- I. 取締役の構成と体制
- II. 取締役会の運営と実務
- III. 取締役会の審議事項
- IV. 取締役会の監督機能
- V. 監査役による取締役会の監督機能
- VI. 取締役会での関与の状況

3. 評価結果

今回、第三者機関が関与した取締役会評価を通じて、昨年度から改善が図られた点として、社外取締役の1名増員、組織改定(CxOの見直し)による、取締役会のダイバーシティ強化・役割の明確化が行われていることが確認されました。

一方、今後の取締役会における取り組み課題としては、今年度の大型買収に伴うグループガバナンスの強化が重要課題として挙げられました。その他、今後の改善・機能向上が見込まれる点としては、中長期的な戦略の議論の充実及び遂行に関する適切な監督、指名・報酬諮問委員会の役割及び機能の明確化が確認されました。

今後の方針としては、今回の取締役会の実効性評価に関し、第三者機関からの報告書に基づき、取締役会において議論・検討を実施いたしました。その結果、評価結果に掲げた課題に関し、アクションプランの策定に取り掛かるとの結論となりました。

以上の評価結果や取り組みを踏まえ、当社取締役会は、今後も継続して実効性評価を行うことで、取締役会の機能向上、コーポレートガバナンスの強化を図り、企業価値の継続的な向上を推進してまいります。

監査役会

監査役会は、監査方針および監査計画を協議決定し、監査に関する重要な事項等の報告・決議・決定を行っています。第91期（2018年4月1日～2019年3月31日）は13回開催されました。

指名報酬委員会

役員選任および役員報酬決定のプロセスの透明化を図るため、取締役会の諮問機関として「指名・報酬諮問委員会」を2015年10月に設置しました。第91期（2018年4月1日～2019年3月31日）は計11回開催いたしました。

ESG委員会

不二製油グループにおける、食の創造によるソリューション、食の安全・安心・品質・サステナブル調達、環境、ダイバーシティ、労働安全衛生、ガバナンス、リスクマネジメントと言ったESG（環境・社会・企業統治）に関する重要課題を審議し、取締役会への提言・具申を行っています。